

# 令和6年度 年報



独立行政法人

国立病院機構  
National Hospital Organization

関門医療センター

〒752-8510 山口県下関市長府外浦町1番1号  
TEL:083-241-1199(代表)/FAX:083-241-1301

<https://kanmon.hosp.go.jp>



## 巻頭言

令和6年度の関門医療センターの年報をお届けします。私は、令和5年4月に病院長に就任しましたので、今回の年報は私の病院長としての2回目の実績報告になります。前回から職員の多大なる協力の下、毎年発行することが出来るようになっており、この場を借りて関係各位に深謝申し上げます。

今回の年報も充実したものとなっており、施設概要、診療実績統計、部門紹介(診療科ならびに各診療部門)と研究実績、さらには毎月発行している広報誌「海峡」も巻末に付けた内容になっています。広報誌「海峡」は、毎月広報委員が知恵を絞って作成しており、当センターのホームページの「海峡」をクリックすると、これまでのバックナンバーを全て閲覧することが出来ますので、是非ご覧になって下さい。

さてご多分に洩れず、当センターでも昨年度から今年度にかけて、大変厳しい経営状況を強いられており、外来・入院の患者数を始め、各診療科の業績が、軒並み落ち込んでいることは否めません。延べ入院患者数は、令和5年度の10万人から9.5万人へ減り、平均病床利用率もギリギリ80%という状況です。下関地区の人口減少(高齢者人口ですら減少)を反映してポストコロナ禍でも患者さんが戻ってくる兆しはありません。

年報には敢えて財務諸表は載せてはおりませんが、国立病院機構のホームページ(「情報公開」の中)には機構内の全病院の収支が掲載されています。当センターも昨年度、7%にも及ぶマイナス収支であり、今年度はそれを上回る勢いで赤字額が膨らんでいます。全国どこの病院も厳しい経営状況とは思いますが、お互いに競争しているわけではありません。その地域の患者さんのために、病院が協力し合ってより良い医療を提供して行くことが、われわれの使命だと思っています。今後ともご理解、ご支援の程、宜しくお願い致します。

なお、2018年からの年報を当センターのホームページ(当センターの紹介>病院実績)に掲載し、誰でも閲覧することが出来るようになっていきますので、是非こちらの方でもじっくりとご覧いただきたいと思います。



令和7年11月吉日

独立行政法人国立病院機構関門医療センター

院長 吉野 茂文

# 目次

巻頭言	1
-----	---

## Section 1 施設概要

---

施設概要	6
施設基準	7
指定医療	10
学会施設認定等	11
組織図	12
職員数	14
幹部名簿	15

## Section 2 統計

---

患者数、診療点数等	18
紹介率・逆紹介率、手術件数(手術室実施分)	21
コ・メディカルデータ	22
「病院情報の公表」	24

## Section 3 部門紹介

---

糖尿病・血液内科	32
総合診療	34
精神科	36
消化器内科	38
循環器内科	40
脳神経内科	42
小児科	43
外科	44
心臓血管外科	46
脳神経外科	47
整形外科	48
泌尿器科	50
産婦人科	52
眼科・耳鼻咽喉科	54
放射線治療科	56
放射線診断科	58

病理診断科	59
救急科	60
麻酔科・ペインクリニック	62
歯科口腔外科	64
女性総合外来	66
薬剤部	68
放射線科	70
臨床検査科	72
栄養管理室	74
リハビリテーション科	76
医療機器管理室	78
心理療法士	80
地域医療連携室	82
看護部	84
事務部(企画課・管理課)	90
診療情報管理室	92

#### Section 4 研究実績

---

原著論文、総説、著書(英文)	96
原著論文、総説、著書(和文)	98
国際学会発表	99
国内学会発表	100

#### Section 5 広報誌「海峡」

---

海峡256号～海峡267号	110
---------------	-----





 *Section 1*

# 施設概要

## 施設概要

R7.4.1

名称	どくりつぎょうせいほうじんこくりつびょういんきこう かんもんいりょうせんたー 独立行政法人国立病院機構 関門医療センター National Hospital Organization Kanmon Medical Center	所在地	〒752-8510 山口県下関市長府外浦町1番1号 Tel 083-241-1199 Fax 083-241-1301
幹部職員	院長 吉野 茂文 副院長 鶴 政俊 臨床研究部長 戒能 聖治 外来部長 鄭 泰秀 薬剤部長 尾崎 誠一 看護部長 小林 奈々 事務部長 中村 一弥 企画課長 前原 朗男 管理課長 樋口 達也		
病床数	医療法許可病床 一般 400床(うちICU6床、救命救急センター24床) 運用病床数 328床(急性期一般 267床、ICU 4床、救命救急センター 12床、地域支援病棟 45床)		
診療科目 (34診療科)	内科(総合診療) 糖尿病・血液内科 脳神経内科 消化器内科 呼吸器内科 肝臓内科 循環器内科 腫瘍内科 女性内科(女性総合診療) 精神科 小児科 外科 形成外科 乳腺外科 呼吸器外科 消化器外科 内視鏡外科 心臓血管外科 整形外科 リウマチ科 脳神経外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻いんこう科 リハビリテーション科 放射線診断科 放射線治療科 臨床検査科 病理診断科 救急科(ER24) 歯科口腔外科 麻酔科		
診療機能	地域医療支援病院 救命救急センター・災害拠点病院 がん治療センター(低侵襲手術、内視鏡治療、放射線治療、化学療法) 労災保険指定医療機関 総合診療・女性総合診療(専門科の枠を超えて全人的治療を実施) エイズ治療中核拠点病院 心臓病・脳神経・運動器・感覚器疾患・成育医療に係る専門医療施設 生活習慣病センター 医師臨床研修指定病院(基幹形) 医療機能評価認定病院・医療被ばく低減認定施設		

### 基本方針

＊地域の皆様の健康と医療を守る

- ・地域住民の健康と医療を守り、地域社会に安心・安全をもたらす
- ・地域住民からの信頼を最大化する

＊共に働く仲間を信頼し、尊重する

- ・共に働く仲間が働き甲斐と矜持を持てる職場に！
- ・チーム医療、多職種連携を推進し”チーム関門”としての連携を強化！

### 病院理念

国立病院機構の使命を果たす病院として、常に地域の皆さま本位の立場から次の病院理念を推し進める。

- ①あらゆる先駆けとなる医療に果敢に挑戦する。
- ②病気を成り立ちから見つめ、その克服のために最良の道を患者さんとともに歩む。
- ③次の世代をはぐくみ無限の可能性を引き出す。
  - ・キーワードは①「先駆け」 ②「地域」 ③「教育」
  - ・教育標語”3S”…①スピード、②スタンダード&セイフティ、③スマイル

### 私達の挑戦

- ＊関門医療センターは病める人々に最善の医療を提供し、地域社会に安心安全をもたらすことをもっとも大切な使命と捉えています。
- ＊私たちは目の前の人を、思いやりと愛情で寄り添い支え、安心と感動をお届けいたします。

# 施設基準

R7.4.1

事 項 (区 分)	算定開始年月日	
—	入院時食事療養費(Ⅰ)	平成21年4月15日
—	食堂加算	平成21年4月15日
A000	注16医療DX推進体制整備加算	令和6年6月1日
A100	一般病棟入院基本料(10対1)	平成28年4月1日
A100	一般病棟入院基本料(急性期一般入院料2)	平成30年4月1日
A200	総合入院体制加算3	平成28年4月1日
A204-2	臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	平成21年4月15日
A205	救急医療管理加算	平成22年4月1日
A205-2	超急性期脳卒中加算	平成21年4月15日
A205-3	妊産婦緊急搬送入院加算	平成22年11月1日
A207	診療録管理体制加算2	平成27年5月1日
A207-2	医師事務作業補助体制加算1(15:1)	平成26年9月1日
A207-3	急性期看護補助体制加算(25対1)	令和2年6月1日
A207-3 注2	夜間100対1急性期看護補助体制加算	令和3年5月1日
A207-3 注3	夜間看護体制加算	令和3年5月1日
A207-3 注4	看護補助体制充実加算	令和3年6月1日
A207-4	看護職員夜間16対1配置加算	令和元年9月1日
A219	療養環境加算	平成21年6月1日
A221	重症者等療養環境特別加算	平成21年4月15日
A224	無菌治療室管理加算2	平成24年4月1日
A230-4	精神科リエゾンチーム加算	令和5年2月1日
A233-2	栄養サポートチーム加算	平成22年4月1日
A234	医療安全対策加算1	平成22年4月1日
A234	医療安全対策加算(医療安全対策地域連携加算1)	平成30年4月1日
A234-2	感染対策向上加算1	平成27年4月1日
A234-2	感染対策向上加算(指導強化加算)	平成27年4月1日
A234-3	患者サポート体制充実加算	平成24年4月1日
A234-4	重症患者初期支援充実加算	令和4年4月1日
A234-5	報告書管理体制加算	令和4年4月1日
A236-2	ハイリスク妊娠管理加算	平成22年11月1日
A242	呼吸ケアチーム加算	平成23年12月1日
A243	後発医薬品使用体制加算1	令和元年9月1日
A244	病棟薬剤業務実施加算1	平成27年11月1日
A244	病棟薬剤業務実施加算2	平成28年4月1日
A245	データ提出加算2(200床以上)	平成26年10月1日
A246	入退院支援加算1	平成28年10月1日
A246	地域連携診療計画加算	平成28年10月1日
A246	入院時支援加算	平成31年1月1日
A247	認知症ケア加算3	平成29年1月1日
A247-2	せん妄ハイリスク患者ケア加算	令和2年4月1日
A252	地域医療体制確保加算	令和2年4月1日
A301	特定集中治療室管理料5	平成27年4月1日
A301	特定集中治療室管理料(早期離床・リハビリテーション加算)	平成30年4月1日
A301	特定集中治療室管理料(早期栄養介入管理加算)	令和2年4月1日
A301-2	ハイケアユニット入院医療管理料1	令和6年6月1日
A301-2	ハイケアユニット入院医療管理料(早期離床・リハビリテーション加算)	令和6年6月1日
A301-2	ハイケアユニット入院医療管理料(早期栄養介入管理加算)	令和6年6月1日
A308-3	地域包括ケア病棟入院料2	平成26年10月1日
A308-3	看護職員配置加算	平成26年10月1日
O000	看護職員処遇改善評価料52	令和6年6月1日
O100	外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)	令和6年6月1日
O102	入院ベースアップ評価料63	令和6年6月1日
	訪問看護ベースアップ評価料(Ⅰ)	令和6年6月1日
	訪問看護ベースアップ評価料(Ⅱ)10	令和6年6月1日

事 項 (区 分)		算定開始年月日
B001-1	ウィルス指導料加算	令和2年4月1日
B001-2	小児科外来診療料	平成21年4月15日
B001-2-5	院内トリアージ実施料	平成25年10月1日
B001-2-7	外来リハビリテーション診療料	平成24年4月1日
B001-2-8	外来放射線照射診療料	平成24年4月2日
B001-2-12	外来腫瘍化学療法診療料1	平成24年4月3日
B001-2-12	外来腫瘍化学療法診療料	平成24年4月4日
B001-2-12注8	連携充実加算	令和4年4月1日
B001-2-12注9		令和6年6月1日
B001-16	喘息治療管理料	平成21年4月15日
B001-20	糖尿病合併症管理料	平成21年6月1日
B001-22	がん性疼痛緩和指導加算料	平成23年11月1日
B001-23	がん患者指導管理料イ	平成23年11月1日
B001-23	がん患者指導管理料ロ	平成26年4月1日
B001-24	がん患者指導管理料ハ	令和4年4月1日
B001-25	がん患者指導管理料ニ	令和4年4月1日
B001-30	婦人科特定疾患治療管理料	令和2年4月1日
B001-33	生殖補助医療管理料1	令和4年4月1日
B001-34	二次性骨折予防継続管理料1	令和4年4月1日
B001-34	二次性骨折予防継続管理料3	令和4年4月1日
B008	薬剤管理指導料	平成21年4月15日
B009	検査・画像情報提供加算	平成28年10月1日
B009-2	電磁的診療情報評価料	平成28年10月1日
B011-4	医療機器安全管理料1	平成21年4月14日
B011-4	医療機器安全管理料2	令和4年4月1日
C005	在宅患者訪問看護・指導料	令和元年10月1日
C005-1-2	同一建物居住者訪問看護・指導料	令和元年10月1日
C152-2	持続血糖測定器加算	平成28年2月1日
D006-2	造血器腫瘍遺伝子検査	平成24年10月1日
D006-4	遺伝学的検査	平成29年9月1日
D006-18	BRCA1/2遺伝子検査	令和2年4月1日
D023	HPV核酸同定検査	平成22年4月1日
D023	HPV核酸同定検査(簡易ジェノタイプ判定)	平成22年4月1日
D026	検体検査管理加算(Ⅱ)	平成29年11月1日
D225-4	ヘッドアップティルト試験	平成25年3月1日
D231-2	皮下連続式グルコース測定	平成28年2月1日
D239-3	神経学的検査	平成21年4月15日
D409-2	センチネルリンパ節生検	平成22年4月1日
E -	画像診断管理加算1	平成21年4月15日
E -	画像診断管理加算2	平成22年1月1日
E101-2	ポジトロン断層撮影	平成22年4月1日
E101-3	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	平成22年4月1日
E200	CT撮影(64列)	平成28年10月1日
E200	冠動脈CT撮影加算	平成22年1月1日
E200	外傷全身CT加算	平成22年4月1日
E200	大腸CT撮影加算	平成24年4月1日
E202	MRI撮影(1.5テスラ以上3テスラ未満)	平成24年4月1日
E202	心臓MRI撮影加算	平成22年1月1日
E202	乳房MRI撮影加算	平成29年6月1日
F100	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	平成22年4月1日
G -	外来化学療法加算1	平成21年4月15日
G020	無菌製剤処理料	平成21年4月15日
H -	各リハビリテーション料初期加算	平成24年4月1日
H001	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	平成21年4月15日
H002	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	平成22年4月1日
H003	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	平成21年4月15日

事 項 (区 分)		算定開始年月日
H007-2	がん患者リハビリテーション料	平成26年3月1日
J001-10	静脈圧迫処置	令和3年9月1日
J038	人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	平成30年4月1日
J038	導入期加算1	平成30年4月1日
J038	下肢末梢動脈疾患指導管理加算	平成30年3月1日
K046	緊急整復固定加算	令和4年4月1日
K081	緊急挿入加算	令和4年4月1日
K134-4	椎間板内酵素注入療法	令和2年10月1日
K181	脳刺激装置植込術	平成21年4月1日
K181	脳刺激装置交換術	平成21年4月1日
K190	脊髄刺激装置植込術	平成21年4月1日
K190-2	脊髄刺激装置交換術	平成21年4月1日
K476	乳がんセンチネルリンパ節加算	平成22年4月1日
K546	経皮的冠動脈形成術	平成26年4月1日
K549	経皮的冠動脈ステント留置術	平成26年4月1日
K597 K597-2	ペースメーカー移植術/交換術(電池交換含む)	平成21年4月1日
K600	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	平成21年4月1日
K664	胃瘻造設術(要件を満たす)	平成27年4月1日
K668-2	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	令和4年4月1日
K695-2	腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	平成29年10月1日
K702-2	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	平成31年2月1日
K721-4	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	令和3年6月1日
K800-3	膀胱水圧拡張術	令和4年12月1日
K800-4	ハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	令和4年12月1日
K865-2	腹腔鏡下仙骨固定術	令和4年11月1日
K920-2	輸血管理料Ⅱ	平成22年10月1日
K920-2	輸血適正使用加算	平成24年4月1日
K939-3	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	平成24年4月1日
—	医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術	施設基準を満たしていれば届出不要
L009	麻酔管理料	平成21年4月15日
M000	放射線治療専任加算	平成21年6月1日
M000	外来放射線治療加算	平成21年6月1日
M001	画像誘導放射線治療加算(IGRT)	令和4年7月1日
N006	病理診断管理加算1	平成24年4月1日
N006	悪性腫瘍病理組織標本加算	平成30年5月1日
歯科A000	初診料(歯科)注1に掲げる施設基準	平成30年4月1日
歯科A000-00 歯科A002-00	歯科外来診療医療安全対策加算1	令和6年6月1日
歯科A000-00 歯科A002-00	歯科外来診療感染対策加算1	令和6年6月1日
歯科B004-6-2	歯科治療時医療管理料	平成31年1月1日
歯科P100-00	歯科外来・在宅ベースアップ評価料	令和6年6月1日

## 指定医療

R7.4.1

事 項
母子保健法(療育医療)
身体障害者福祉法及び戦傷病者特別援護法(更生医療・・・耳鼻咽喉科、整形外科、腎臓、免疫)
児童福祉法(育成医療)
原子爆弾被爆者医療等に関する法律(認定疾病)
結核予防法
生活保護法
労災保険法
母体保護法
公害健康被害補償法
難病の患者に対する医療等に関する報告
精神保健福祉法

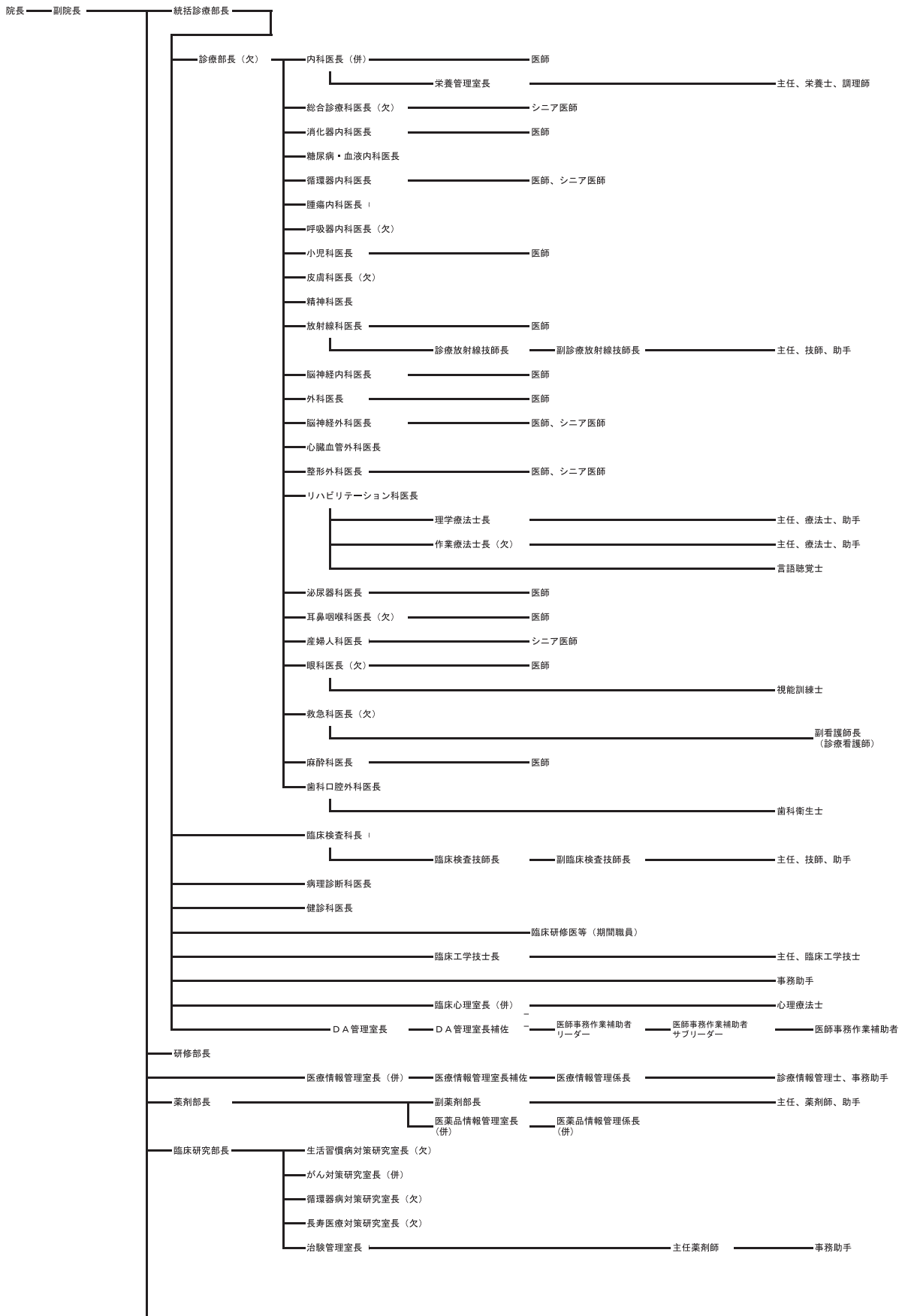
# 学会施設認定等

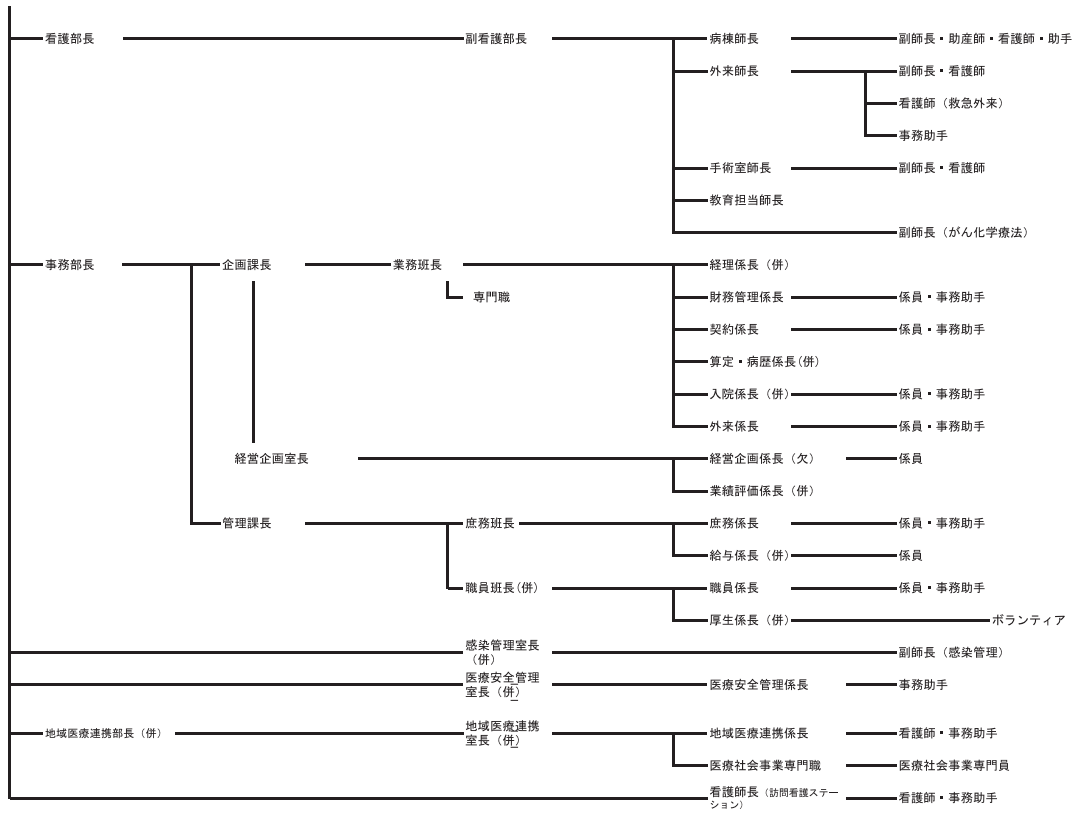
R7.4.1

項 目	指定日
日本外科学会外科専門医制度修練指定施設	昭和55年10月16日
日本脳神経外科学会 専門医研修プログラム連携施設	昭和56年8月6日
日本整形外科学会専門医研修施設	昭和58年4月11日
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設	昭和59年3月24日
日本麻酔科学会認定病院	昭和59年8月23日
日本内科学会教育関連病院	昭和60年4月1日
日本泌尿器科学会専門医教育施設	昭和61年4月1日
日本産科婦人科学会体外受精・胚移植の臨床実施及びヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録施設	昭和63年4月1日
日本消化器病学会認定・関連施設	平成1年12月1日
日本循環器学会認定研修施設	平成3年4月1日
日本消化器内視鏡学会認定医指導施設	平成5年12月1日
日本消化器外科専門医修練施設	平成7年1月1日
日本脳卒中学会認定研修教育病院	平成11年11月11日
日本がん治療認定医機構認定研修施設	平成19年11月1日
日本消化器外科学会専門医修練施設	平成19年12月11日
日本病理学会研修登録施設	平成22年4月1日
日本手外科学会手外科研修施設	平成22年4月14日
日本医療機能評価機構認定施設	平成22年7月2日
日本精神神経学会精神科専門研修施設	平成23年4月1日
日本眼科学会専門研修施設	平成23年4月1日
麻酔科認定病院	平成23年4月1日
日本診療放射線学会医療被ばく低減施設	平成24年1月1日
科研費指定研究機関	平成25年3月21日
日本胆道学会指導施設	平成25年7月1日
日本臨床腫瘍学会認定研修施設	平成26年4月1日
日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設	平成26年4月1日
日本リウマチ学会教育施設	平成26年9月1日
マンモグラフィ検診施設画像認定施設	平成27年2月1日
日本静脈経腸栄養学会NST専門療法士認定教育施設	平成27年4月1日
日本集中治療医学会専門医研修施設	平成27年4月1日
日本理学療法士協会臨床指導施設	平成27年5月1日
日本産婦人科学会専門研修連携施設	平成28年8月1日
日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設	平成28年9月1日
日本乳癌学会関連施設	平成29年1月1日
日本神経学会教育関連施設	平成29年4月1日
日本臨床細胞学会施設	平成29年4月1日
HIV感染症薬物療法認定薬剤師養成研修施設	平成30年4月1日
日本食道学会食道外科専門医認定施設	平成31年1月1日
下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設	令和1年6月10日
腹部ステントグラフト実施施設	令和1年7月17日
日本脈管学会認定研修関連施設	令和1年10月9日
日本外科感染症学会認定外科周術期感染管理教育施設	令和1年11月28日
心臓血管外科専門医認定修練施設(関連施設)	令和2年1月1日
浅大腿動脈ステントグラフト実施施設	令和2年7月1日
日本乳癌学会認定施設	令和3年1月1日
画像診断管理認証施設	令和4年4月1日
日本胃癌学会認定施設A	令和5年4月1日
JSH専門研修認定施設	令和6年4月1日
循環器専門医研修施設	令和7年4月1日

# 組織図

R7.4.1





## 職 員 数

		常勤		期間職員		非常勤	
		定数	人数	定数	人数	定数	人数
医療職(一)	院長	1	1				
	副院長	1	1				
	部長	1	1				
	医長	26	25				
	医師	20	19	5	4.50		
	臨床研修医			28	24.30		
	計	51	48	32	28.80	0	0
医療職(二)	薬剤部長	1	1				
	副薬剤部長	1	1				
	主任薬剤師	4	2				
	薬剤師	12	10				
	小計	18	14	0	0	0	0
	診療放射線技師長	1	1				
	副診療放射線技師長	1	1				
	主任診療放射線技師	5	4				
	診療放射線技師	9	9				0.77
	小計	16	15	0	0	0	0
	臨床検査技師長	1	1				
	副臨床検査技師長	1	1				
	主任臨床検査技師	8	4				
	臨床検査技師	7	10				2.34
	小計	17	16	0	0	0	2.34
	栄養管理室長	1	1				
	主任栄養士	1	1				
	栄養士	3	1				
	小計	5	3	0	0	0	0
	理学療法士長	1	1				
	主任理学療法士	2	2				
	理学療法士	13	11				
	小計	16	14	0	0	0	0
	作業療法士長	1	0				
	副作業療法士長	0	0				
	主任作業療法士	2	2				
	作業療法士	8	8				
	小計	11	10	0	0	0	0
	言語聴覚士	3	2	0	0	0	0
	臨床工学技士長	1	1				
	主任臨床工学技士	2	2				
	臨床工学技士	5	5				
	小計	8	8	0	0	0	0
	視能訓練士	1	1			0.77	0
心理療法士	2	2			0.77	0.77	
歯科衛生士	1	1			0.77	0.77	
	計	98	86	0	0	1.54	3.47
医療職(三)	看護部長	1	1				
	副看護部長	2	2				
	看護師長	14	14				
	副看護師長	25	22				
	看護師	259	277			17.06	20.71
	計	301	320	0	0	17.06	21.48
福祉職	医療社会事業専門職	1	1				
	医療社会事業専門員	4	4				
	計	5	5	0	0	0	0
事務職	事務部長	1	1				
	課長・室長	3	3				
	班長・専門職	4	2				
	係長	8	5				
	一般職員	6	9				
	計	22	20	0	0	47.59	49.68
診療情報管理職	診療情報管理係長	1	0				
	診療情報管理士	4	5				
	計	5	5	0	0	0	0
技能職		2	2	0	0	30.1	23.93
合計		481	491	30	30	125	97.64

## 令和 6 年度 幹部 名簿

役職	
院長	吉野 茂文
副院長	鶴 政俊
臨床研究部長	戒能 聖治
入院部長	峯 孝友
外来部長	鄭 泰秀
看護部長	小林 奈々
副看護部長	服部 有希
	小林 里美
薬剤部長	尾崎 誠一
事務部長	中村 一弥
企画課長	水尻 和夫
管理課長	中村 卓記





 *Section 2*

# 統計

## 統 計

### 診療科別 患者数、診療点数等(入院)

	延べ 患者数	1日平均 患者数	平均 在院日数	延べ 診療点数	1人1日 診療点数	延べ 新入院数	1日当たり 新入院数
内科	24	0.1	1.0	241,332	10,055.5	24	0.1
糖尿病・ 血液内科	9,720	26.6	17.8	65,643,525	6,753.4	548	1.5
総合診療科	1,382	3.8	24.0	6,558,556	4,745.7	55	0.2
(内科計)	11,126	30.5	17.7	72,443,413	6,511.2	627	1.7
精神科	90	0.2	6.9	829,711	9,219.0	13	0.0
脳神経内科	11,080	30.4	20.2	68,266,387	6,161.2	555	1.5
消化器内科	9,325	25.5	11.4	57,660,621	6,183.4	822	2.3
循環器内科	7,870	21.6	19.7	47,653,937	6,055.1	404	1.1
小児科	869	2.4	3.6	4,643,730	5,343.8	242	0.7
外科	12,980	35.6	11.7	106,408,030	8,197.8	1,104	3.0
心臓血管外科	2,737	7.5	30.4	18,594,919	6,793.9	90	0.2
整形外科	27,145	74.4	26.0	173,242,997	6,382.1	1,026	2.8
脳神経外科	4,224	11.6	27.6	28,624,515	6,776.6	145	0.4
泌尿器科	4,446	12.2	10.4	29,404,893	6,613.8	425	1.2
産婦人科	866	2.4	11.2	4,859,691	5,611.7	77	0.2
眼科	114	0.3	1.0	2,342,022	20,544.1	112	0.3
耳鼻咽喉科	1,881	5.2	11.6	9,767,779	5,192.9	162	0.4
救急科	70	0.2	3.5	1,262,312	18,033.0	37	0.1
麻酔科	9	0.0	3.6	83,165	9,240.6	3	0.0
歯科口腔外科	635	1.7	5.5	3,770,442	5,937.7	113	0.3
合計	95,467	261.7	16.0	629,858,564	6,597.7	5,957	16.3

病棟別 患者数、診療点数等

	延べ患者数	1日平均患者数	平均在院日数	延べ診療点数	1人1日あたり診療点数	新入院数	退院数
救命救急	2,868	7.9	9.7	38,124,303	13,293.0	496	94
ICU	874	2.4	17.1	34,477,469	39,447.9	75	27
4C	14,800	40.5	13.5	94,948,057	6,415.4	1,067	1,132
5B	16,188	44.4	21.5	90,720,745	5,604.2	704	804
6B	15,169	41.6	13.7	82,455,314	5,435.8	1,040	1,169
6C	15,825	43.4	13.0	111,227,298	7,028.6	1,227	1,210
7B	17,105	46.9	18.8	131,002,624	7,658.7	1,049	774
急性期病棟計	79,087	216.7	15.5	510,354,038	6,453.1	5,087	5,089
7C	12,638	34.6	24.0	46,902,754	3,711.2	299	754
地域包括計	12,638	34.6	24.0	46,902,754	3,711.2	299	754
合計	95,467	261.6	16.0	629,858,564	6,597.7	5,957	5,964

病棟名	運営病床数	主な診療科	届出入院基本料
E1病棟	12 床	救命救急センター	ハイケアユニット入院医療管理料1
E2病棟	4 床	ICU	特定集中治療室管理料5
4C病棟	54 床	産婦人科、新生児、糖尿病・血液内科、眼科、泌尿器科	急性期一般入院料1
5B病棟	52 床	脳神経外科(急性期)、脳神経内科(急性期)、循環器内科(急性期)、総合診療(急性期)	急性期一般入院料1
6B病棟	54 床	消化器内科、腫瘍内科、外科、緩和ケア、放射線科、歯科口腔外科	急性期一般入院料1
6C病棟	53 床	外科(周術期)、消化器内科(内視鏡治療)	急性期一般入院料1
7B病棟	54 床	整形外科、耳鼻咽喉科、小児科	急性期一般入院料1
7C病棟	45 床	整形外科、脳神経内科、脳神経外科	地域包括ケア病棟入院料2

診療科別 患者数、診療点数等(外来)

	延べ患者数	1日平均患者数	延べ診療点数	1人1日診療点数	初診患者数
内科	146	0.6	39,142	268.1	13
糖尿病・血液内科	12,295	50.6	40,395,524	3,285.5	186
総合診療科	2,584	10.6	11,108,399	4,298.9	1,417
女性総合	97	0.4	56,482	582.3	5
(内科計)	15,122	62.2	51,599,547	3,412.2	1,621
精神科	4,358	17.9	1,479,573	339.5	48
脳神経内科	9,887	40.7	60,172,840	6,086.1	486
呼吸器内科	2,185	9.0	3,329,516	1,523.8	58
消化器内科	10,033	41.3	21,665,867	2,159.5	488
循環器内科	7,685	31.6	6,010,366	782.1	192
小児科	4,196	17.3	2,965,626	706.8	467
外科	9,969	41.0	69,178,915	6,939.4	467
心臓血管外科	1,297	5.3	924,977	713.2	66
整形外科	17,492	72.0	13,672,134	781.6	735
脳神経外科	1,712	7.0	2,843,241	1,660.8	62
形成外科	705	2.9	306,006	434.1	39
皮膚科	1,979	8.1	333,286	168.4	38
泌尿器科	17,335	71.3	34,977,803	2,017.8	175
産婦人科	2,341	9.6	2,732,732	1,167.3	186
眼科	2,708	11.1	2,860,247	1,056.2	83
耳鼻咽喉科	3,858	15.9	5,992,171	1,553.2	258
放射線診断	1,051	4.3	3,302,710	3,142.4	788
放射線治療	2,735	11.3	3,785,122	1,384.0	2
救急科	5,692	23.4	10,316,263	1,812.4	2,811
麻酔科	560	2.3	101,057	180.5	11
歯科口腔外科	3,380	13.9	2,136,493	632.1	488
合計	126,280	519.7	300,686,492	2,381.1	9,569

紹介率・逆紹介率

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
A初診患者数	774	824	888	937	906	729	823	808	825	899	711	802	9,926
B初診紹介患者数	463	441	444	441	370	355	429	378	359	347	335	354	4,716
C初診救急搬送	160	160	182	218	245	202	188	206	193	289	184	146	2,373
D初診休日夜間	109	139	174	157	210	134	124	158	130	215	128	207	1,885
E逆紹介患者数	555	490	504	584	501	530	538	517	534	505	513	656	6,427
紹介率	91.7%	84.0%	83.5%	78.5%	82.0%	90.3%	84.0%	85.1%	71.5%	87.8%	84.0%	78.8%	83.2%
逆紹介率	109.9%	93.3%	94.7%	103.9%	111.1%	134.9%	105.3%	116.4%	106.4%	127.8%	128.6%	146.1%	113.4%

$$\text{紹介率} = \frac{\text{B 初診紹介患者数}}{\text{A 初診患者数} - \text{C 初診救急搬送} - \text{D 初診休日夜間}}$$

$$\text{逆紹介率} = \frac{\text{E 逆紹介患者数}}{\text{A 初診患者数} - \text{C 初診救急搬送} - \text{D 初診休日夜間}}$$

手術件数(手術室実施分)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計	月平均
総件数	183	178	154	178	157	153	177	151	167	178	187	169	2,032	169.3
外科	34	43	27	43	36	36	44	37	43	35	33	36	447	37.3
心臓血管外科	6	1	8	4	3	2	9	5	2	3	11	7	61	5.1
脳神経外科	8	11	9	7	11	9	8	8	9	8	7	6	101	8.4
整形外科	96	88	69	95	73	78	85	78	87	105	99	87	1,040	86.7
産婦人科	2	1	1	1	2	2	2	0	3	1	3	2	20	1.7
泌尿器科	14	13	19	13	11	11	14	13	10	11	14	17	160	13.3
耳鼻咽喉科	7	5	6	4	6	1	3	1	2	3	5	1	44	3.7
歯科口腔外科	5	4	3	2	5	4	3	1	4	2	6	5	44	3.7
眼科	11	12	12	9	10	10	9	8	7	10	9	7	114	9.5
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1
全麻	129	128	95	136	114	114	133	117	137	134	145	119	1,501	125.1
腰麻	9	11	16	10	11	6	8	10	9	8	9	12	119	9.9
局麻	40	32	37	29	26	27	33	24	21	33	33	38	373	31.1
その他	5	7	6	3	6	6	3	0	0	3	0	0	39	3.3
(再掲)時間外手術	46	50	51	41	32	36	44	36	39	49	50	38	512	42.7

コ・メディカルデータ

○ 薬剤部

	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
薬剤師人数	人	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	-
薬剤管理指導件数	件	559	639	615	714	610	441	574	576	512	357	411	464	6,472
後発医薬品採用品目数比率	%	66.09%	65.65%	65.54%	65.92%	65.62%	70.35%	71.30%	72.12%	73.12%	73.43%	73.69%	73.91%	69.73%
(購入金額ベース)	%	(51.91%)	(63.52%)	(81.40%)	(84.87%)	(81.96%)	(84.24%)	(84.62%)	(81.62%)	(87.58%)	(91.32%)	(80.61%)	(84.77%)	(79.87%)
[消費数量ベース]	%	[93.3%]	[93.1%]	[93.1%]	[95.0%]	[96.1%]	[96.3%]	[97.4%]	[96.2%]	[97.6%]	[96.4%]	[96.8%]	[97.4%]	[95.70%]
調剤件数	件	68,160	66,360	60,184	66,732	66,308	65,514	67,444	63,304	70,985	75,247	67,103	74,818	812,159

○ 診療放射線科

	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診療放射線技師人数	人	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	-
エックス線診断・単純	人	2,048	2,109	2,062	2,486	2,420	2,126	2,117	2,001	2,241	2,390	2,195	2,231	26,426
エックス線診断・造影	人	115	133	135	134	135	152	146	141	150	116	177	115	1,649
エックス線診断・血管造影	人	16	25	13	19	20	21	23	11	0	17	48	24	237
SPECT	人	70	76	74	97	84	79	101	88	72	69	84	78	972
PET、PET/CT	人	35	31	34	26	31	26	38	23	33	17	26	33	353
CT	人	1,066	1,153	1,113	1,208	1,200	1,164	1,245	1,125	1,202	1,239	1,105	1,216	14,036
MRI	人	372	401	394	412	411	357	414	389	432	390	343	400	4,715
放射線治療	人	278	202	250	215	191	137	162	215	272	199	222	270	2,613

○ 栄養管理室

	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
栄養食事指導・入院	件	40	34	39	40	31	35	37	41	37	22	16	39	411
栄養食事指導・外来	件	29	31	29	37	29	16	30	13	20	21	20	22	297
栄養食事指導・集団	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
栄養食事指導・非加算	件	6	9	12	13	8	5	4	4	6	4	8	8	87

○ 臨床工学技士

	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
透析患者数	人	38	42	44	46	40	45	42	42	44	45	48	43	519
透析実施件数	件	461	488	470	497	484	484	510	487	461	515	444	472	5,773
高気圧酸素治療実施件数	件	139	307	307	242	219	194	140	161	188	226	282	335	2,740

○ 臨床検査科

		単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検体検査	一般検査	件	3,794	3,868	4,094	4,283	4,151	3,956	4,108	3,776	4,083	3,953	3,516	3,673	47,255
	血液学的検査	件	12,859	13,022	12,722	13,950	13,617	13,162	13,393	11,785	12,790	13,796	12,461	12,918	156,475
	生化学的検査	件	66,451	68,537	66,343	73,294	70,338	68,482	72,029	63,546	69,104	72,482	65,900	70,193	826,699
	免疫学的検査	件	9,444	9,669	10,007	10,750	10,297	9,804	10,053	9,200	10,757	11,259	9,638	10,032	120,910
	微生物学的検査	件	1,248	1,230	1,266	1,152	1,154	1,140	1,343	1,090	1,379	1,282	1,220	1,326	14,830
生理検査	心電図	件	509	558	594	665	580	578	652	563	584	592	647	553	7,075
	呼吸機能検査	件	106	100	130	146	84	124	148	130	108	128	122	130	1,456
	脳波検査	件	61	78	94	76	65	55	48	43	60	86	68	59	793
	心エコー	件	281	314	264	305	281	252	292	270	254	297	298	303	3,411
	腹部エコー	件	147	157	160	195	175	158	163	175	160	158	150	140	1,938
	体表エコー(甲状腺)	件	76	76	72	72	69	56	71	63	71	64	51	52	793
	血管エコー(頸動脈・下肢動静脈)	件	77	74	79	89	74	74	87	93	91	76	78	79	971
	乳腺エコー	件	47	40	39	41	48	34	40	35	49	32	31	41	477

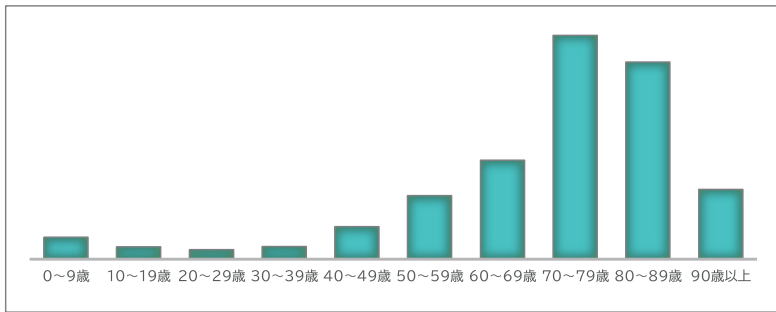
○ リハビリテーション科

		単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学療法	職員数	人	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	14.0	14.0	14.0	14.0	13.6	13.0	-
	単位数	単位	4,067	4,365	3,839	4,138	3,962	3,934	3,772	3,654	3,371	3,632	3,366	3,450	45,550
	1人1日当たり単位数	単位	14.2	15.2	14.7	14.9	14.8	14.7	14.6	14.3	14.2	15.0	15.3	14.2	14.7
作業療法	職員数	人	10.0	11.0	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	-
	単位数	単位	2,204	2,962	2,768	2,678	2,558	2,707	2,721	2,356	2,537	2,594	2,569	2,883	31,537
	1人1日当たり単位数	単位	13.0	14.2	13.9	14.5	15.1	14.9	14.2	14.6	13.6	15.0	15.4	15.2	14.5
言語聴覚	職員数	人	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	-
	単位数	単位	264	269	415	363	375	570	386	374	441	344	283	376	4,460
	1人1日当たり単位数	単位	6.8	6.9	10.4	9.3	9.9	14.7	11.9	9.6	11.6	10.8	8.6	9.6	10.0
退院時リハ		件	0	0	13	15	12	7	21	22	7	20	9	19	145

## 「病院情報の公表」

### 年齢階級別退院患者数

年齢階級	件数
0～9歳	159
10～19歳	89
20～29歳	70
30～39歳	93
40～49歳	236
50～59歳	461
60～69歳	719
70～79歳	1,624
80～89歳	1,430
90歳以上	507



※患者数10件未満を除く

### 診断群分類別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

#### ○外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数	転院率	平均年齢
090010xx010xxx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術等 手術・処置等1	69	10.51	0.00%	60.3
090010xx99x4xx	乳房の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2 4なし	54	2.00	0.00%	54.54
060160x001xxxx	鼠径ヘルニア(15歳以上) ヘルニア手術 鼠径ヘルニア等	52	7.58	7.69%	75.31
060010xx99x5xx	食道の悪性腫瘍(頸部を含む) 手術なし 手術・処置等2 5あり	42	8.21	0.00%	71.71
090010xx02xxxx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術	42	5.05	2.38%	61.36

#### ○整形外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数	転院率	平均年齢
160800xx02xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩・股等	158	27.04	86.08%	84.40
160760xx01xxxx	前腕の骨折 骨折観血的手術 前腕、下腿、手舟状骨等	56	16.8	5.36%	65.39
160690xx99xxxx	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸、腰髄損傷を含む。)手術なし	54	24.17	75.93%	82.91
160760xx02xxxx	前腕の骨折 骨内異物(挿入物を含む。)除去術 前腕、下腿等	34	3.97	0.00%	65.15
070230xx01xxxx	膝関節症(変形性を含む。)人工関節再置換術等	34	38.59	11.76%	76.50

#### ○脳神経外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数	転院率	平均年齢
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	25	22.56	44.00%	82.52
010050xx02x00x	非外傷性硬膜下血腫 慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術等 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	13	20.92	30.77%	80.54
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	-	-	-	-
010060xx99x20x	脳梗塞 手術なし 手術・処置等2 2あり 定義副傷病 なし	-	-	-	-
010200xx01x00x	水頭症 水頭症手術 脳室穿破術(神経内視鏡手術によるもの)等 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	-	-	-	-

#### ○泌尿器科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数	転院率	平均年齢
110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1 あり	59	2.07	0.00	73.32
110070xx02xxxx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術+術中血管等描出撮影加算	52	6.40	0.00	74.50
110200xx02xxxx	前立腺肥大症等 経尿道的前立腺手術等	25	10.76	0.04	74.12
110310xx01xxxx	腎臓又は尿路の感染症 経尿道的尿管ステント留置術	21	13.19	0.24	80.00
110070xx99x20x	膀胱腫瘍 手術なし 手術・処置等2 2あり 定義副傷病 なし	20	5.20	0.00	69.90

## ○心臓血管外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数	転院率	平均年齢
050180xx02xxxx	静脈・リンパ管疾患 下肢動脈瘤手術等	17	0.00	0.00	77.29
050163xx03x0xx	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤 ステントグラフト内挿術 手術・処置等2 なし	10	18.10	0.00	79.00
100100xx99x0xx	糖尿病足病変 手術なし 手術・処置等2 なし	-	-	-	-
050161xx9900xx	大動脈解離 手術なし 手術・処置等1 なし 手術・処置等2 なし	-	-	-	-
100100xx97x1xx	糖尿病足病変 手術あり 手術・処置等2 あり	-	-	-	-

## ○耳鼻咽喉科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数	転院率	平均年齢
030428xxxxx1xx	突発性難聴 手術・処置等2 あり	12	12.08	0.00	47.83
030250xx970xxx	睡眠時無呼吸 手術あり 手術・処置等1 なし	12	10.50	0.00	5.92
030230xxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	-	-	-	-
030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	-	-	-	-
030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	-	-	-	-

## ○産婦人科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数	転院率	平均年齢
060030xx99x30x	小腸の悪性腫瘍 腹膜の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2 3あり 定義副傷病 なし	21	9.48	0.00%	71.52
12002xxx99x40x	子宮頸・体部の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2 4あり 定義副傷病 なし	12	5.62	0.00%	56.31
12002xxx02xxxx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮頸部(腔部)切除術	-	-	-	-
110050xx02x0xx	後腹膜疾患 胸水・腹水濾過濃縮再静注法 手術・処置等2 なし	-	-	-	-
120010xx99x31x	卵巣・子宮付属器の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2 3あり 定義副傷病 あり	-	-	-	-

## ○小児科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数	転院率	平均年齢
060380xxxxx0xx	ウイルス性腸炎 手術・処置等2 なし	19	2.89	0.00%	4.53
040090xxxxxxxx	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症(その他)	17	4.18	0.00%	2.47
040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	16	3.69	0.00%	2.94
180030xxxxx00x	その他の感染症(真菌を除く。)定義副傷病 なし	16	3.25	0.00%	0.69
0400801199x0xx	肺炎等(1歳以上15歳未満) 手術なし 手術・処置等2 なし	14	5.14	0.00%	5.79

## ○脳神経内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数	転院率	平均年齢
010060xx99x40x	脳梗塞 手術なし 手術・処置等2 4あり 定義副傷病 なし	49	21.06	44.90%	73.94
010060xx99x20x	脳梗塞 手術なし 手術・処置等2 2あり 定義副傷病 なし	37	16.14	45.95%	76.57
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2 なし	26	24.35	61.54%	83.77
010060xx99x30x	脳梗塞 手術なし 手術・処置等2 3あり 定義副傷病 なし	22	18.32	36.36%	77.18
010230xx99x00x	てんかん 手術なし 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	17	8.12	17.65%	62.18

## ○消化器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数	転院率	平均年齢
060100xx01xxxx	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。)内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術	84	2.81	0.00%	70.64
060340xx03x00x	胆管(肝内外)欠席、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	52	10.92	0.00%	80.15
060020xx04xxxx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術	33	8.70	0.00%	77.67
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2 なし	23	22.13	26.09%	82.70
060060xx9710xx	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等1 あり 手術・処置等2 なし	19	7.47	0.00%	77.74

## ○循環器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数	転院率	平均年齢
050130xx9900x0	心不全 手術なし 手術・処置等1 なし 手術・処置等1 なし 重症度等 ほかの病院・診療所の病棟からの転院以外	57	25.77	38.60%	86.53
050050xx9910xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等1 1あり 手術・処置等2 なし	42	4.86	4.76%	73.88
050210xx97000x	徐脈性不整脈 手術あり 手術・処置等1 なし、1,3あり 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	28	14.04	7.14%	83.25
0400802499x0xx	肺炎等(市中肺炎かつ75歳以上)手術なし 手術・処置等2 なし	21	19.33	19.05%	85.67
180030xxxxxx0x	その他の感染症(真菌を除く。)定義副傷病 なし	16	19.00	43.75%	81.75

## ○糖尿病・血液内科

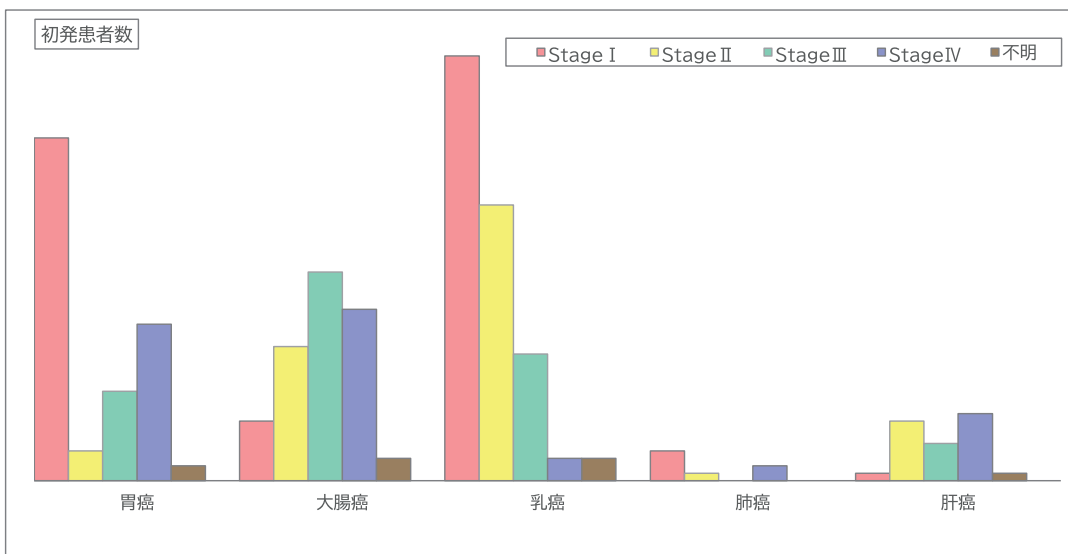
DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数	転院率	平均年齢
130030xx99x4xx	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等2 4あり	31	8.23	0.00%	78.35
130060xx99x4xx	骨髄異形形成症候群 手術なし 手術・処置等2 4あり	29	9.28	0.00%	75.79
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2 なし	23	25.48	21.74%	88.39
0400802499x0xx	肺炎等(市中肺炎かつ75歳以上)手術なし 手術・処置等2 なし	22	23.23	31.82%	84.59
180030xxxxxx0x	その他の感染症(真菌を除く。)定義副傷病 なし	17	15.12	23.53%	84.65

## ○眼科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数	転院率	平均年齢
020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 手術あり 重症度等 片眼	102	2.02	1.0%	75.83
020110xx97xxx1	白内障、水晶体の疾患 手術あり 重症度等 両眼	-	-	-	-
020320xx97xxxx	眼瞼、涙器、眼窩の疾患 手術あり	-	-	-	-
020250xx97xxxx	結膜の障害 その他の手術あり	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-

初発の5大癌のUICC病期分類並びに再発患者数

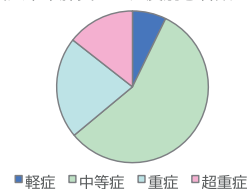
	初発					再発
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明	
胃癌	46	4	12	21	2	71
大腸癌	8	18	28	23	3	110
乳癌	57	37	17	3	3	119
肺癌	4	1	0	2	0	2
肝癌	1	8	5	9	1	30



成人市中肺炎の重症度別患者数等

	件数	平均在院日数	平均年齢
軽症	8	22.25	54.75
中等症	63	18.94	79.08
重症	24	21.54	84.38
超重症	16	28.75	81.56

成人市中肺炎の重症度別患者数

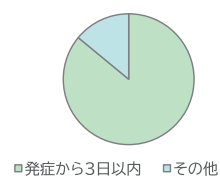


○市中肺炎の定義：入院契機病名、および最も医療資源を投入した傷病名が肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎（DPC 040080相当）でさらにその中でもICD-10コードがJ13～J18で始まるもの  
 ※インフルエンザ等、ウイルス性肺炎（DPC 040070相当）、誤嚥性肺炎（DPC 040081）は除外  
 また、市中肺炎であるので入院後発症の肺炎、一般病棟外からの転入、他院からの転院も除外

脳梗塞の患者数

発症から3日以内			
件数	平均在院日数	平均年齢	転院率
141	21.68	76.62	46.10%
その他			
件数	平均在院日数	平均年齢	転院率
23	20.61	75.39	47.83%

脳梗塞の患者数



※最も医療資源を投入した病名が脳梗塞（ICD-10の上3桁）で集計

診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

○外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	51	1.16	5.41	7.84%	75.43
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	49	0.82	6.69	8.16%	65.06
K4762	乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わないもの))	42	1.07	2.98	2.38%	61.36
K4763	乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術(腋窩部郭清を伴わないもの))	37	1.00	7.24	0.00%	60.00
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	31	4.84	14.23	0.00%	72.39

○整形外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K0461	骨折観血的手術(大腿、上腕、肩甲骨)	124	3.68	25.25	67.74%	80.41
K0811	人工骨頭挿入術(股)	64	1.81	22.38	89.06%	83.95
K0821	人工関節置換術(膝、股、肩)	64	4.09	36.31	21.88%	72.84
K0462	骨折観血的手術(前腕、下腿、主舟状骨)	57	2.19	18.12	12.28%	64.02
K0483	骨内異物(挿入物を含む。)除去術(前腕、下腿)	50	0.72	4.00	0.00%	63.96

○脳神経外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術・洗浄・除去術(穿頭による)	33	3.18	21.27	42.42%	81.27
K6092	動脈血栓内膜摘出術(内頸動脈)	-	-	-	-	-
K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング(1箇所)	-	-	-	-	-
K1742	水頭症手術(シャント手術)	-	-	-	-	-
K1692	頭蓋内腫瘍摘出術(その他のもの)	-	-	-	-	-

○泌尿器科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K8036イ	膀胱性悪性腫瘍手術(経尿道的手術)(電解質溶液利用のもの)	62	1.87	7.52	4.84%	76.40
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	42	0.57	6.62	19.05%	78.40
K8411	経尿道的前立腺手術(電解質溶液利用のもの)	25	1.40	8.36	4.00%	74.12
K6121イ	末梢動静脈瘻造設術(内シャント造設術)(単純なもの)	14	4.07	16.36	28.57%	75.86
K616-41	経皮的シャント拡張術・血栓除去術(初回)	12	4.17	1.83	0.00%	75.08

○心臓血管外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K617-4	下肢静脈瘤血管内焼灼術	17	0.00	1.00	0.00%	77.29
K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	-	-	-	-	-
K5612ロ	ステントグラフト内挿術(腹部大動脈)	-	-	-	-	-
K0871	断端形成術(骨形成を要するもの)(指)(足)	-	-	-	-	-
K084	四肢切断術(下腿、足)	-	-	-	-	-

## ○消化器内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K7211	内視鏡的ポリープ・粘膜切除術(直径2センチメートル未満)	61	0.54	1.36	0.00%	71.20
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	58	2.26	10.69	1.72%	80.88
K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術(早期悪性腫瘍胃粘膜下層剥離術)	28	1.00	6.57	0.00%	77.57
K7212	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(直径2センチメートル以上)	28	0.29	2.82	0.00%	69.25
K708-3	内視鏡的膵管ステント留置術	21	3.38	5.10	0.00%	71.90

## ○循環器内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K5972	ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)	13	5.46	17.54	7.69%	82.31
K597-2	ペースメーカー交換術	12	1.08	8.00	8.33%	84.58
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術(その他のもの)	-	-	-	-	-
K5491	経皮的冠動脈ステント留置術(急性心筋梗塞に対するもの)	-	-	-	-	-
K5463	経皮的冠動脈形成術(その他のもの)	-	-	-	-	-

## ○眼科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K28210	水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)(その他のもの)	105	0.02	1.00	0.95%	75.71
K279	硝子体切除術	-	-	-	-	-
K214	霰粒腫摘出術	-	-	-	-	-
K224	翼状片手術(弁の移植を要するもの)	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-

## ○耳鼻咽喉科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K3772	口蓋扁桃手術(摘出)	18	1.00	8.67	0.00%	11.83
K6261	リンパ節摘出術(直径3センチメートル未満)	-	-	-	-	-
K309	鼓膜(排液、換気)チューブ挿入術	-	-	-	-	-
K300	鼓膜切開術	-	-	-	-	-
K368	扁桃周囲膿瘍切開術	-	-	-	-	-

## ● その他(DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率)

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発症率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	-	-
		異なる	12	0.22%
180010	敗血症	同一	26	0.48%
		異なる	-	-
180035	その他の真菌感染症	同一	-	-
		異なる	-	-
180040	手術・処置等の合併症	同一	15	0.28%
		異なる	-	-

※発症率 = 患者数 / 全ての退院患者数





 *Section 3*

# 部門紹介

## 糖尿病・血液内科

### 👤 スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
副院長 鶴 政俊 (ツル マサトシ)	山口大学卒(平成4年)	日本内科学会認定医 日本血液学会専門医 総合内科専門医
糖尿病・血液内科医長 松井 久未子 (マツイクミコ)	山口大学卒(平成15年)	日本糖尿病学会専門医 総合内科専門医



### 👤 概要

当科では糖尿病、甲状腺、血液疾患の専門診療を行っております。

糖尿病分野では1型糖尿病、2型糖尿病の治療を行います。高血糖や合併症による緊急性の高い治療から、将来の合併症予防のための内服治療、インスリン自己注射、栄養指導、必要時にはインスリンポンプによる治療も行っております。糖尿病教室はCOVID19の影響で一時中断しておりましたが、今後再開予定です。

甲状腺分野ではバセドウ病、橋本病を中心とした甲状腺機能亢進症、低下症の治療を行います。腫瘍性疾患の場合、耳鼻咽喉科と連携し、必要時には他院に紹介させていただきます。

血液分野では貧血、血小板減少、出血性疾患から血液悪性腫瘍まで幅広く血液疾患に対する診断、治療を行います。無菌病床は3床有しており治療強度の高い化学療法も安全に行えるようにしております。また本年より日本血液学会専門研修認定施設となっており、若手の医師に対して教育も積極的に行っております。

実績(退院患者統計)

DPC6桁分類		
130030	非ホジキンリンパ腫	40
10007x	2型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く。)	34
040080	肺炎等	29
040081	誤嚥性肺炎	25
180030	その他の感染症(真菌を除く。)	25
110310	腎臓または尿路の感染症	15
130040	多発性骨髄腫、免疫系悪性新生物	14
130060	骨髄異形形成症候群	13
100040	糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏睡	10
130010	急性白血病	9
130110	出血性疾患(その他)	9
100380	体液量減少症	9
130090	貧血(その他)	7
180010	敗血症	6
161020	体温異常	6
130080	再生不良性貧血	5
050130	心不全	5
170020	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	4
130120	血液疾患(その他)	4
130070	白血球疾患(その他)	4
-	その他	92
総計		365

(鶴 政俊)

## 総合診療

### スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
救急・総合診療部長 佐藤 稯 (サトウ ユタカ)	山口大学大学院修(昭和62年) ／感染症、血液、内科診断学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本内科学会総合内科専門医・指導医</li> <li>・日本専門医機構 総合診療専門研修特任指導医</li> <li>・日本医療マネジメント学会評議員</li> <li>・ICLSディレクター</li> </ul>



### 概要

総合診療科は、臓器別専門科だけでは対応できない患者さんをトータルに診療していく部門として、平成16年に県内に先駆けて開設されました。高齢化社会になってひとりひとりの患者さんが複数の慢性疾患を抱え、診療科が特定できない様々な症状を訴えて病院を受診されます。総合診療外来では、「ドクターG」として丁寧な医療面接と身体診察を行うことにより鑑別診断を行っていきます。そして病態の「緊急性」、「重要性」、「問題解決性」を考慮して治療を計画していきます。また総合診療科は研修医に「総合診療マインド」を習得させる役割を担っております。日々の外来、入院診療が研修医の修行の場となっています。

#### ●対象疾患

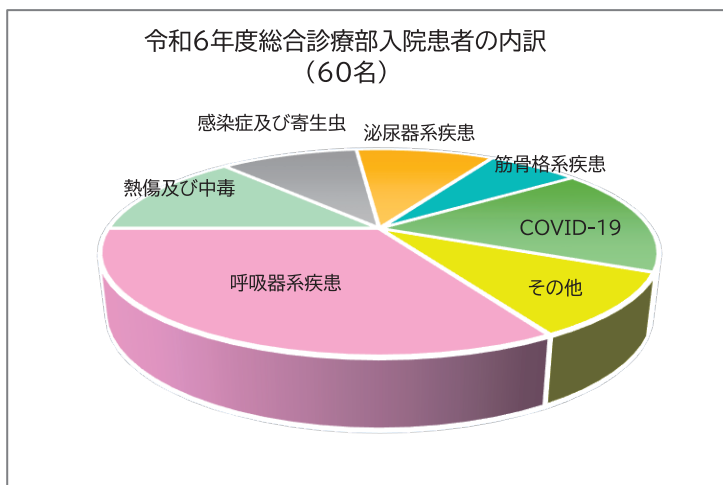
総合外来には発熱などの内科救急の患者さんや、どこの病院でも原因不明と言われて藁をもつかむ気持ちで受診される方もおられます。診断推論の技法を駆使することにより、このような患者さんの多くにおいてその原因を突き止めることができました。そのような積み重ねが評価され、最近では不明熱や原因不明の不定愁訴の患者さんの精査目的で、地域の先生方から紹介される件数が増えてきました。さらにTBS系日曜劇場で「19番目のカルテ」が放映され、松本潤さんや小芝風花さんの名演で総合診療医の役割が広く一般の方に知られ、総合外来を受診される方が増えてきている印象です。また当院は山口県のエイズ診療中核拠点病院に指定されており、診療科長の佐藤とHIV診療チームが外来および入院診療にあたっています。

## 診察実績

総合外来には週あたり平均49.6名、年間2,584名の患者さんが受診されました。午前午後フル回転で、研修医とともに診療に当たっております。地域の先生方からの紹介も多く、その期待に応える責任を感じています。

入院部門は総合外来からの入院に加えて、救命救急センターからの内科系救急疾患や中毒、COVID-19の患者さんの入院を担当しています。昨年1年間の入院患者を示します。図からもわかるように、疾患ジャンルは感染症を中心に多岐にわたっており、総合診療科をローテートする研修医は自らの臨床能力をフルに発揮させ、さらに関連する専門医とのコミュニケーション能力も求められます。総合診療科が卒後臨床研修の中心的役割を担っている理由がここにあります。

傷病名	
呼吸器系疾患	20
熱傷及び中毒	8
感染症及び寄生虫	6
泌尿器系疾患	6
筋骨格系疾患	4
COVID-19	10
その他	6
合計	60



(佐藤 穰)

## 精神科

### 👤 スタッフ

役職 氏名	出身大学 /専門分野	専門医 認定医
精神科医長 若林 祐介 (ワカバヤシ ユウスケ)	山口大学卒(平成14年) 山口大学大学院 単位取得退学(平成20年)	医学博士 精神保健指定医 日本精神神経学会 精神科専門医/指導医 精神腫瘍学の基本教育に関する指導者



### 👤 概要

精神科では、うつ病、ストレス関連障害、パニック障害、不眠症、統合失調症、認知症などを診療対象としています。精神科を標榜する医療機関には、「大学病院の精神科」「精神科病院」「精神科クリニック」の他に、当科のような「総合病院精神科」があります。さまざまな精神疾患の診療をおこなうのは他の精神科医療機関と同じですが、総合病院精神科では体の病気を抱えた方の精神的不調に対して、内科・外科など他の診療科と密に連携しながら治療を受けやすいというメリットがあります。当科でも通常の外来診療、救急外来での急患対応と並んで、リエゾン精神医学と呼ばれる他科入院中の患者さんに対する関わりが診療の大きな柱となっています。

#### ・リエゾン精神医学とは

「リエゾン(liaison)」とはフランス語で「連携」や「連絡」を意味する言葉です。「リエゾン精神医学」は、身体疾患に伴うさまざまな精神疾患や課題にチーム医療で取り組もうとする包括的な治療・ケアのことです。当院では精神科医と身体科の担当医だけでなく、臨床心理士、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどの多職種で密接な連携をとりながら患者さんの精神的不調・課題に対応しています。

実績

○外来

ICD-10分類		
F0	認知症、せん妄など	11
F1	アルコール依存症など	0
F2	統合失調症など	3
F3	うつ病、躁うつ病など	8
F4	神経症性障害、ストレス関連障害など	43
F5	摂食障害、不眠症など	6
F6	パーソナリティ障害など	3
F7	知的障害など	2
F8	広汎性発達障害など	2
F9	多動性障害、小児期の情緒障害など	0
その他	診断なし、てんかんなど	9
合計(人)		87
平均年齢(才)		52.3

○リエゾン(他科入院中の患者さんの精神科への紹介件数)

ICD-10分類		
F0	認知症、せん妄など	143
F1	アルコール依存症など	6
F2	統合失調症など	18
F3	うつ病、躁うつ病など	7
F4	神経症性障害、ストレス関連障害など	14
F5	摂食障害、不眠症など	7
F6	パーソナリティ障害など	6
F7	知的障害など	5
F8	広汎性発達障害など	2
F9	多動性障害、小児期の情緒障害など	0
その他	診断なし、てんかんなど	12
合計(人)		220
平均年齢(才)		76.4

(若林 祐介)

## 消化器内科

### 👤 スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
統括診療部長 消化器内科医長 戒能 聖治 (カノウ セイジ)	山口大学卒(平成6年) 山口大学大学院修(平成12年) ／胆道・膵臓	日本内科学会 総合内科専門医 日本消化器病学会 指導医・専門医 日本消化器内視鏡学会 指導医・専門医 日本膵臓学会 認定指導医 日本胆道学会 認定指導医
消化器内科医長 坂口 栄樹 (サカグチ エイキ)	山口大学卒(平成8年) 山口大学大学院修(平成14年) ／肝臓	日本内科学会 認定医 日本消化器病学会 専門医 日本肝臓学会 専門医 日本消化器内視鏡学会 専門医
消化器内科医師 千原 大典 (チハラ ダイスケ)	福岡大学卒(平成22年) ／消化器全般	日本救急医学会認定ICLSコースディレクター
消化器内科医師 小川 亮 (オガワ リョウ)	山口大学卒(平成24年) ／消化器内視鏡	



## 概要

当科では消化管(食道・胃・十二指腸・小腸・大腸)、肝臓、胆道(胆管・胆嚢)、膵臓の病気の診断・治療を主にを行っています。

消化管領域では腫瘍性病変の診断を行い、適応病変に対して内視鏡治療(内視鏡的粘膜切除術・内視鏡的粘膜下層剥離術)を積極的に行っています。また、消化管出血に対する内視鏡治療も行っています。近年増加傾向にある炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎・クローン病など)に対する診療も行っています。また、種々の腫瘍による消化管狭窄・閉塞に対して内視鏡的消化管ステント留置による治療に取り組んでいます。

肝臓領域では肝機能障害の診断や治療、B型・C型慢性肝炎に対する抗ウイルス治療を行っています。肝臓に対する経皮的治療(ラジオ波焼灼療法、エタノール注入療法)、経カテーテル治療(肝動脈化学塞栓療法、肝動脈塞栓療法)、化学療法(抗癌剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬)などを行っています。

胆道・膵臓領域では胆管結石に対する内視鏡治療、膵炎に対する薬物治療および内視鏡・超音波内視鏡的治療、閉塞性黄疸に対する内視鏡的治療(胆管ステント留置)、膵臓癌に対する超音波内視鏡下穿刺吸引組織診・細胞診(EUS-FNB、EUS-FNA)、胆道・膵臓領域がんに対する化学療法(抗癌剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬)などを行っています。

## 実績

DPC6桁分類		
060100	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。)	89
060340	胆管(肝内外)結石、胆管炎	58
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む。)	38
060020	胃の悪性腫瘍	34
060102	穿孔又は腫瘍を伴わない憩室性疾患	31
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症(その他良性疾患)	30
060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄(穿孔を伴わないもの)	25
040081	誤嚥性肺炎	24
060300	肝硬変(胆汁性肝硬変を含む。)	24
06007X	膵臓、脾臓の腫瘍	24
060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	22
060190	虚血性腸炎	19
040080	肺炎等	16
060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	16
060350	急性膵炎、被包化壊死	13
060090	胃の良性腫瘍	12
180010	敗血症	12
060380	ウイルス性腸炎	12
110310	腎臓又は尿路の感染症	12
060035	結腸(虫垂を含む)の悪性腫瘍	11
-	その他	184
合計		706

## 循環器内科

### 👤 スタッフ

役職氏名	出身大学	専門医認定医
循環器内科医長 早野 智子 (ハヤノ トモコ)	山口大学大学院修(平成11年)	日本内科学会総合専門医・指導医 日本循環器学会専門医 女性総合診療 兼任
循環器内科医師 濱田 頼臣 (ハマダ ヨリオミ)	和歌山県立医科大学卒(平成23年)	日本内科学会 認定内科医 日本循環器学会 循環器専門医 日本心血管インターベンション治療学会 認定医 SHC心エコー図認証医 周術期経食道心エコー認定医 心臓リハビリテーション指導医
循環器内科医師 竹中 仁 (タケナカ ヒトシ)	佐賀大学(平成25年)	日本内科学会総合専門医 日本循環器学会専門医
循環器内科医師 大谷 望 (オオタニ ノゾム)	山口大学大学院修(平成元年)	日本内科学会総合専門医・指導医 日本循環器学会専門医



### 👤 概要

当科では高血圧、狭心症、心筋梗塞、慢性心不全、心筋症、肺塞栓症、深部静脈血栓症、心臓弁膜症、心房細動等を診療しています。

#### 【診療活動】

昨年度の診療実績は表1のとおりです。

令和6年の1日平均外来患者数は31人、1日平均入院患者数は22人でした。

表1【診療実績】

心エコー	心臓カテーテル検査	冠動脈インターベンション	ペースメーカー
3,553	38	23	31

## 【外来】

外来は4名体制で行っております。待ち時間をなくすように予約制になっております。患者さまにわかりやすい説明を心がけています。

## 【主な検査】

- ・心電図
  - ・動脈硬化の検査:脈波検査
  - ・24時間心電図
  - ・7日間ホルター心電図
  - ・植え込み型心電図(ループレコーダー)
  - ・心エコー
  - ・血管エコー:頸動脈、腎動脈、下肢の静脈
  - ・経食道心エコー
  - ・心臓CT:冠動脈造影CT
  - ・心臓MRI・心臓核医学検査
  - ・心臓カテーテル検査・冠動脈エコー
- 狭心症の疑いで冠動脈CTの実施数と、深部静脈血栓症が増加し下肢静脈エコー検査数が増加しています。

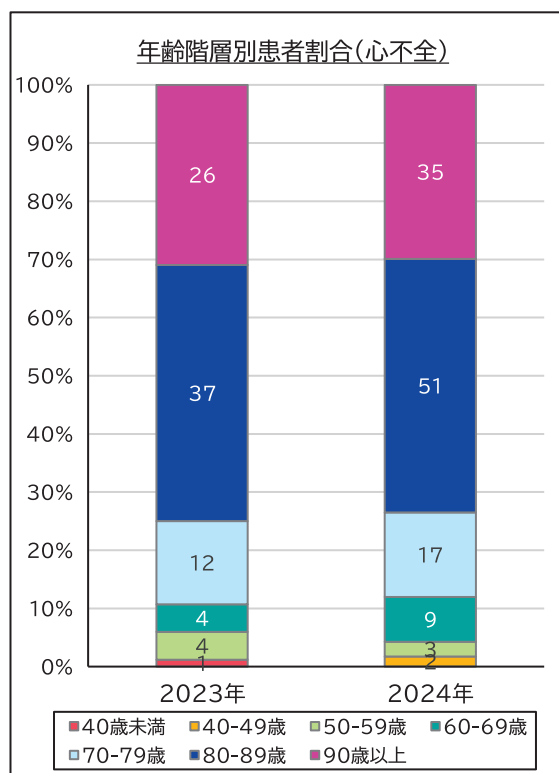
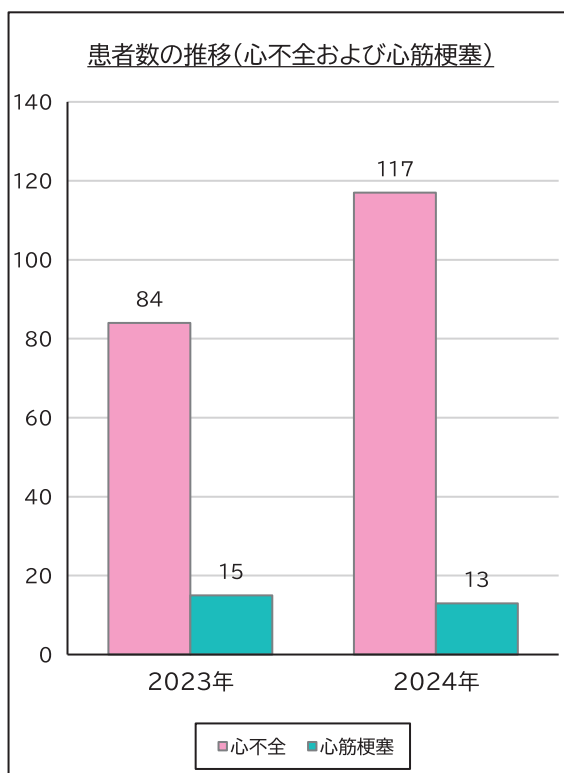
## 【入院】

超高齢化社会を背景に、ご高齢の方の心不全が数年前から著増しています。心不全の治療薬も進歩・増加しつつあり、個々人の全身状態(腎機能や心房細動の有無など)に応じて、投薬治療・調整が必要です。

## 【心臓リハビリテーション】

ご高齢の患者さまが、元の環境に安全に戻れるよう、多職種で対応し、リハビリを行っています。

## 実績



(早野 智子)

# 脳神経内科

## スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
脳神経内科医長 田中 信一郎 (タナカ シンイチロウ)	山口大学大学院修(平成11年) ／脳神経内科疾患全般、脳血管障害、 末梢神経障害、パーキンソン病	日本神経学会神経内科専門
脳神経内科医師 富田 周作 (トミタ シュウサク)	山口大学卒(令和3年) ／脳神経内科	
脳神経内科医師 浜本 優佳 (ハマモト ユウカ)	山口大学卒(令和2年)	

## 概要

内科の一部門で、循環器内科が心臓や血管を、消化器内科が胃腸や肝臓を、それぞれ主に診療の対象とするように脳と神経を診療の対象とします。脳神経外科と扱う疾患が重なりますが、薬物を使った治療が主体です。多い病気としては脳梗塞、頭痛、パーキンソン病、てんかん、認知症、末梢神経障害などがあります。稀ですが、重要な病気として筋萎縮性側索硬化症、脳炎・髄膜炎、クロイツフェルト・ヤコブ病、重症筋無力症、多発筋炎などがあります。自己免疫疾患、遺伝子疾患等、以前は限られた治療しかなかった病気も近年次々と新しい治療法が登場している分野でもあります。

## 実績(退院患者統計)

DPC6桁分類		
010060	脳梗塞	137
010230	てんかん	29
040080	肺炎等	28
040081	誤嚥性肺炎	23
010160	パーキンソン病	17
010061	一過性脳虚血発作	14
180030	その他の感染症(真菌を除く。)	14
010110	免疫介在性・炎症性ニューロパチー	12
010040	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)	12
010080	脳脊髄の感染を伴う炎症	11
010081	免疫介在性脳炎・脊髄炎	10
160100	頭蓋・頭蓋内損傷	10
100393	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害	8
110310	腎臓又は尿路の感染症	7
100391	低カリウム血症	6
010130	重症筋無力症	6
080010	膿皮症	6
040070	インフルエンザ・ウイルス性肺炎	6
010170	基底核等の変性疾患	5
010200	水頭症	5
-	その他	109
総計		475



(田中 信一郎)

## 小児科

### 👤 スタッフ

役 職 氏 名	出身大学	専 門 医 認 定 医
小児科医長 牧 隆司 (マキ タカシ)	愛媛大学卒(昭和62年) ／新生児・小児科	日本小児科学会専門医
小児科医師 佐々木 聡子 (ササキ サトコ)	福岡大学(平成19年)	日本小児科学会専門医 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医

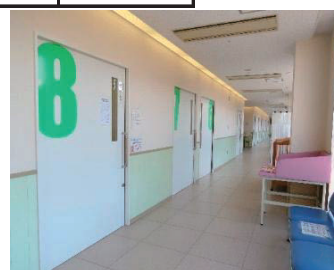
### 👤 概要

少子化の波の中で、次の世代を担う子供のために、国の医療機関の使命として成育医療という胎児・未熟児・新生児から乳幼児、学童、思春期までの一連の過程に関する診療をしています。

また、予防も小児科で大切な分野なので、乳幼児検診、予防接種、生活習慣病健診も積極的に行っています。

### 👤 診療実績(退院患者統計)

DPC6桁分類		
040090	急性気管支炎・急性細気管支炎・下気道感染症(その他)	37
040080	肺炎等	27
060380	ウイルス性腸炎	21
180030	その他の感染症(真菌を除く。)	20
040070	インフルエンザ・ウイルス性肺炎	16
040100	喘息	15
030270	上気道炎	9
030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	8
150070	川崎病	7
160100	頭蓋、頭蓋内損傷	6
150040	熱性けいれん	5
010240	片頭痛・頭痛症候群(その他)	5
170060	その他の精神及び行動の障害	4
110310	腎臓又は尿路の感染症	4
010230	てんかん	4
030460	中耳・乳様突起の障害	3
180010	敗血症	3
070520	リンパ節、リンパ管の疾患	3
100210	低血糖症	3
060390	細菌性腸炎	2
—	その他	21
総計		223



## 外科

### 👤 スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
病院長 吉野 茂文 (ヨシノ シゲフミ)	山口大学卒(昭和61年) 山口大学大学院修(平成3年) ／消化器外科・上部消化管外科	日本消化器外科学会 専門医・指導医・評議員 日本内視鏡外科学会 技術認定医(胃)・評議員 日本食道学会 食道科認定医・食道外科専門医 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医・指導医
外科医長 坂本 和彦 (サカモト カズヒコ)	山口大学卒(平成9年) 山口大学大学院修(平成19年) ／消化器外科・肝胆膵外科	日本外科学会 専門医・指導医 日本消化器外科学会 専門医・指導医 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医 日本肝臓学会 肝臓専門医
外科医長・乳腺センター長 長島 由紀子 (ナガシマ ユキコ)	山口大学卒(平成9年) 山口大学大学院修(平成30年) ／乳腺外科	日本外科学会 専門医・指導医 日本乳癌学会 乳腺専門医・指導医・評議員 日本乳癌検診学会 評議員 検診マンモグラフィ読影 認定医
外科医長 吉田 晋 (ヨシダ シン)	山口大学卒(平成11年) 山口大学大学院修(平成20年) ／消化器外科・下部消化管外科	日本外科学会 専門医・指導医 日本消化器外科学会 専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
外科医師 来嶋 大樹 (キジマ タイキ)	佐賀大学卒(平成18年) 山口大学大学院修(平成27年) ／消化器外科・下部消化管外科	日本外科学会 専門医 日本消化器外科学会 専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
外科医師 山本 常則 (ヤマモト ツネノリ)	山口大学卒(平成22年) 山口大学大学院修(令和5年) ／消化器外科・上部消化管外科	日本外科学会 専門医 日本消化器外科学会 専門医・指導医 日本食道学会 食道科認定医 日本内視鏡外科学会 技術認定医(胃)
外科医師 岩藤 真生 (イワドウ マサキ)	山口大学卒(令和4年) ／消化器外科	日本外科学会 専攻医



## 概要

当科は、消化管外科・肝胆膵外科・乳腺外科を3本柱とする7人体制の外科チームであり、専門性とチームワークを活かした質の高い医療を提供しています。在籍する医師は、消化器外科専門医5名、食道外科専門医1名、内視鏡外科技術認定医2名、肝胆膵高度技能専門医1名、乳腺専門医1名、がん薬物療法専門医1名で構成され、幅広い専門性を有しています。さらに、当科は日本外科学会外科専門医制度修練指定施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本食道学会食道外科専門医認定施設、日本胃癌学会認定施設A、腹腔鏡下肝切除術学会関連施設、日本乳癌学会認定施設、マンモグラフィ検診施設画像認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設として認可を受けています。

年間手術件数は500例を超え、そのうち約100例は緊急・準緊急手術です。上部消化管外科では主に食道癌・胃癌手術、下部消化管外科では大腸癌手術を実施し、合わせて年間100例を超えおり、9割以上を腹腔鏡下で施行し低侵襲で術後の早期回復を目指しています。肝胆膵外科では肝癌・胆道癌・膵癌を含む複雑症例に対応し、30例以上の手術を行い、その約半数を腹腔鏡下で実施しています。乳腺外科では女性の乳腺専門医が年間100例以上を担当し、診断から手術、薬物療法、術後フォローアップまで一貫した診療を提供しています。

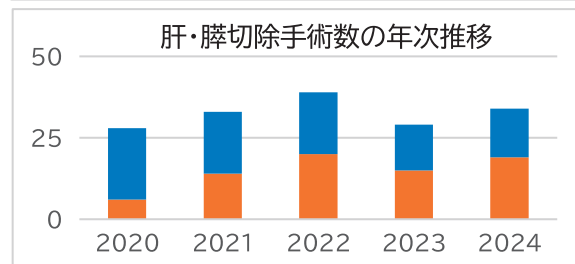
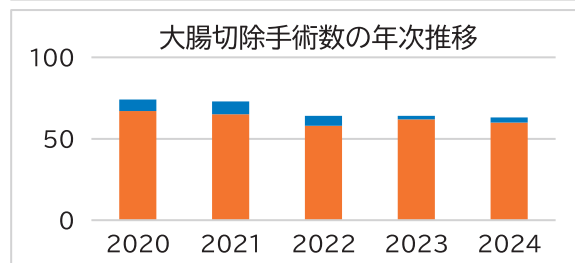
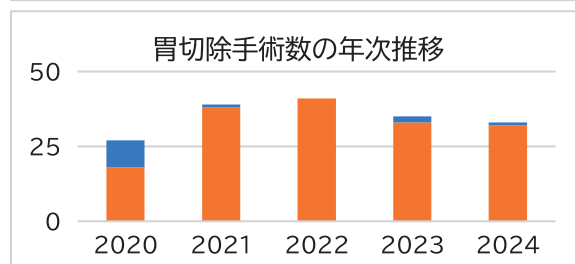
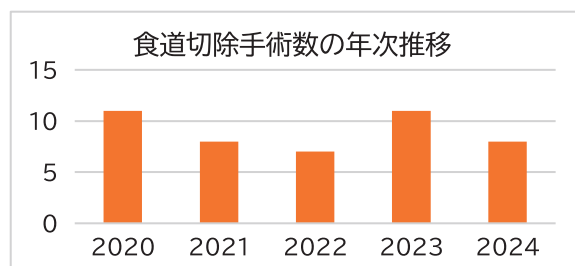
## 実績

### ○手術件数

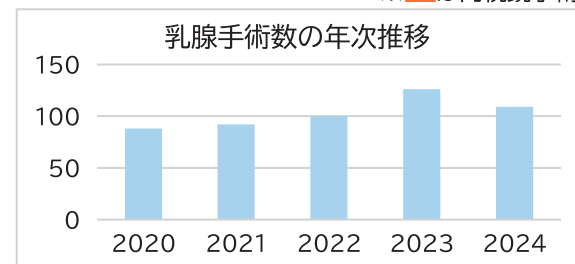
術式	
食道切除術	8(8)
胃切除術	32(31)
幽門側胃切除術	20(20)
胃全摘術	5(4)
噴門側胃切除術	2(2)
胃部分切除術	5(5)
大腸切除術	64(60)
結腸切除術	47(44)
直腸切除術	16(16)
経肛門切除術	1(0)
直腸固定術(直腸脱)	2(2)
肝切除術	25(19)
膵切除術	9(0)
乳腺切除術	109
胆嚢摘出術	58(58)
鼠径ヘルニア修復術	56(51)
大腿・閉鎖孔ヘルニア修復術	2(2)
ヘルニア修復術(その他)	8(4)
虫垂切除術	18(18)
腸閉塞解除術	3(3)
人工肛門造設術	10(9)
人工肛門閉鎖術	5
消化管バイパス術	9(6)
肺切除術	6(6)
その他	82
合計	506

( )は鏡視下手術

※上記以外にCVポート造設術122件



※ ■は内視鏡手術



(坂本 和彦)

## 心臓血管外科

### 👤 スタッフ

役職 氏名	出身大学 /専門分野	専門医 認定医
心臓血管外科医長 村上 雅憲 (ムラカミマサノリ)	大分医科大学卒(平成12年) 山口大学大学院修(平成19年)	日本外科学会専門医・指導医 日本心臓血管外科学会専門医・修練指導者 腹部ステントグラフト実施医・指導医 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施医・指導医



### 👤 概要

当科では頭頸部を除く動脈疾患、静脈疾患を対象に診療を行っています。従来からの外科治療に加えて低侵襲の血管内治療(カテーテル治療)を積極的に取り入れ患者さんに適切な治療を提供し、地域医療施設との連携構築に努めてまいります。

治療については必ずしも手術をおすすめするわけではありません。できるだけ低侵襲な検査で診断し、運動療法や薬物療法、カテーテル治療、手術療法を選択肢に入れた適切な治療が実施されるように心がけます。

当院は関連10学会構成日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部ステントグラフト実施施設、四学会構成浅大腿動脈ステントグラフト実施施設、下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施施設の認定を取得しています。

### 👤 実績

#### ○手術件数

	件数
手術件数	67
動脈瘤	10
(ステントグラフト内挿術)	(8)
(その他)	(2)
末梢動脈疾患	21
	LEAD、急性動脈閉塞など
下肢静脈瘤	24
その他	12
	CVポート、切断など

(村上 雅憲)

## 脳神経外科

### スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
脳神経外科医長 副島 慶輝 (ソエジマ ヨシテル)	産業医科大学卒(平成12年) ／脳卒中の外科・機能的脳神経外科	日本脳神経外科学会 専門医・認定医 日本脳卒中学会 専門医・指導医
関門医療センター顧問 山下 勝弘 (ヤマシタ カツヒロ)	山口大学卒(昭和57年) ／脳卒中の外科	日本脳神経外科学会 専門医・認定医 日本脳卒中学会 専門医・指導医 日本脳卒中の外科学会 技術指導医
脳神経外科医師 岡崎 光希 (オカザキ コウキ)	山口大学(平成27年)	

### 診療・研究内容

脳神経外科では脳腫瘍、脳卒中、頭部外傷、機能的脳神経外科などの領域の疾患を対象とし、主に手術療法で治療しています。脳腫瘍には髄膜腫などの良性腫瘍と神経膠芽腫などの悪性腫瘍があり、良性腫瘍では開頭腫瘍摘出術を行い、悪性腫瘍では手術に加えて放射線治療や化学療法を併用します。脳卒中の中で外科治療の対象となる疾患は、脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血、高血圧性脳出血、脳梗塞の原因となる頸動脈狭窄症です。脳動脈瘤破裂の治療法には開頭クリッピング術と血管内治療による動脈瘤コイル塞栓術があり、症例ごとに治療法を選択しています。頸動脈狭窄症の治療法には直達手術の頸動脈血栓内膜剝離術と血管内治療によるステント留置術があります。直達手術を優先しますが、全身麻酔が困難な症例などではステント留置術を行います。頭部外傷の頭蓋内出血は急性硬膜下血腫などの急性出血と慢性硬膜下血腫に分類され、前者では開頭血種除去術を、後者では穿頭血種除去術を行います。機能的脳神経外科の対象となる症状は、三叉神経痛、顔面けいれん、脳卒中後の筋痙縮、パーキンソン病の振戦などです。三叉神経痛と顔面けいれんでは後頭下開頭による微小血管減圧術で治療します。筋痙縮では腹部にポンプを埋め込み、バクロフェンを脊髄腔に投与します。

脳神経外科では診療のみでなく、臨床研究にも力を入れています。新薬の臨床試験では、第3相試験(\*)が進行しています。

\*急性期虚血性脳卒中または高リスク一過性脳虚血発作後の脳卒中の再発抑制を目的とした経口第XIa因子阻害剤Milvexianの有効性および安全性を検討する第3相ランダム化、二重盲検試験(Librexia Stroke試験)

### 実績

#### ○手術件数

	件数
脳腫瘍	6
破裂動脈瘤(開頭)	4
虚血性疾患(吻合/CEA)	5
脳内出血	6
外傷	5
慢性硬膜下血腫	39
水頭症	10
定位・機能外科	2
血管内手術	4
その他	15
合計	96



(山下 勝弘)

## 整形外科

### 👤 スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
整形外科医長 栗山 龍太郎 (クリヤマ リュウタロウ)	山口大学卒(平成8年) ／外傷、手外科	日本整形外科学会専門医
整形外科医長 篠原 道雄 (シノハラ ミチオ)	久留米大学卒(平成7年) ／脊椎外科	日本整形外科学会専門医 日本脊椎脊髓病学会指導医
リハビリテーション科医長 坪根 徹 (ツボネ テツ)	山口大学卒(平成9年) ／外傷・手外科・マイクロサージャリー	日本整形外科学会専門医 日本手外科学会専門医・指導医 日本マイクロサージャリー学会評議員
整形外科医師 山崎 和大 (ヤマザキ カズヒロ)	山口大学卒(平成27年)	日本整形外科学会専門医 臨床研修指導医
特別顧問 伊原 公一郎 (イハラ コウイチロウ)	山口大学卒(昭和56年) 山口大学大学院修(平成2年) ／骨・軟部腫瘍、手外科、股関節外科	日本整形外科学会専門医 日本手外科学会専門医・指導医 日本リハビリテーション医学会専門医・臨床認定医
顧問 峯 孝友 (ミネ タカトモ)	山口大学卒(昭和60年) 山口大学大学院卒(平成2年) ／膝関節外科、関節リウマチ、スポーツ医学	日本リウマチ学会指導医、評議員 日本整形外科学会 専門医 日本膝関節学会 評議員 山口大学医学部臨床教授



## 概要

整形外科とは、骨、関節、筋肉、靭帯、神経などの運動器の疾患・外傷を診療を行います。運動器疾患を対象とする整形外科医に求められるニーズは 高齢化社会や外傷やスポーツ障害の増加に伴い、増加の一途を辿っています。当院では、小児から高齢者までの年齢層における、外傷一般はもちろんのこと、膝関節・リウマチ疾患、手の外科、骨・軟部腫瘍、脊椎疾患、股関節疾患につきまして、それぞれの専門医を含む6名の整形外科医が日々診療を行っています。また、様々な外傷や変性疾患に対する手術を施行しているのはもちろんのこと、急性期のリハビリテーションおよび当院にて手術施行した症例につきまして回復期リハビリテーションを行っています。手術件数は年々増加傾向にあります。別表に昨年手術件数と、その主な内訳をお示しします。

また、日々の診療だけではなく、最新の整形外科領域の知見の獲得や難治症例の検討を目的とした学会活動や研究会も行っています。

## 実績

### ○手術件数

総数	人工関節置換術	手の外科・マイクロ (骨折を除く)	脊椎疾患	骨軟部腫瘍
1,112	132	59	130	33

(峯 孝友)

## 泌尿器科

### 👤 スタッフ

役職 氏名	出身大学 /専門分野	専門医 認定医
泌尿器科医長 鄭 泰秀 (テイ ヤスヒデ)	山口大学卒(平成3年) 山口大学大学院修(平成8年)	日本泌尿器科学会 専門医・指導医
泌尿器科医師 塩見 研二 (シオミ ケンジ)	山口大学(令和2年)	

### 👤 概要

当院泌尿器科では尿路(腎臓・尿管・膀胱・尿道)・男性性器(前立腺・精巣・精巣上体・陰茎)および内分泌臓器である副腎を対象とし、泌尿器科一般(尿路性器腫瘍・尿路感染症・尿路結石症・排尿障害・尿失禁など)の診療を行っています。

腎臓癌・膀胱癌・前立腺癌など尿路性器腫瘍に対しては手術療法・放射線治療・化学療法とさまざまな治療を組み合わせ治療を行っています。膀胱癌に対しては2022年10月より光線力学診断を用いて、より確実に癌病変を切除するように努めています。2024年4月より当院において画像誘導型強度変調放射線治療装置が導入されました。腫瘍のみをできるだけ正確に照射できるため、周囲の正常組織のダメージを少なくすることができます。高齢者や心臓・呼吸器系の合併症をもった患者さんも多く、手術を行うことが難しいケースが増加しています。そのような患者さんに対して放射線治療を行うことを検討しています。また、限局性あるいは局所進行性の前立腺癌に対しては根治が期待できるので積極的にを行っています。

進行性・転移性の腎臓癌や尿路上皮癌(膀胱癌・腎盂癌・尿管癌)に対しては血管新生阻害剤・免疫チェックポイント阻害剤・抗体薬物複合体が使用されることが多くなっています。これらは従来の抗癌剤とは異なる副作用も多く、他科の先生や薬剤師さんと連携して副作用の対策・管理に努めています。

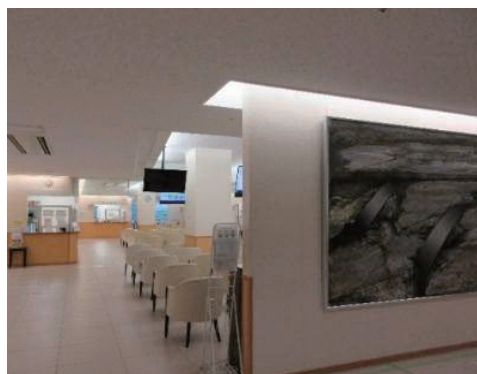
転移のある前立腺癌あるいは去勢抵抗性(ホルモン治療で効果がない)前立腺癌では新規ホルモン剤・化学療法薬・分子標的薬・放射線治療薬の投与が可能となり、患者さんにとって治療選択幅が広がっています。

現在抗癌剤治療を受けられる方は日常生活・仕事・趣味・副作用・医療費等不安なことがたくさんあると思います。また、高齢の患者さんも非常に多いです。患者さんには今後の治療について望むことを話していただき、医療者側からは詳細かつ理解しやすい情報を患者さんに提供し、納得して治療を行っていただくことを心がけています。

### 👤 実績

#### ○手術症例

	件数
腎腫瘍	7
尿管腫瘍・腎盂腫瘍	6
経尿道的膀胱腫瘍	52
膀胱全摘除	1
前立腺癌放射線治療	8
経尿道的前立腺切除	26
内シャント造設術	23
前立腺生検	44



(鄭 泰秀)

MEMO 

## 産婦人科

### 👤 スタッフ

役職 氏名	出身大学 /専門分野	専門医 認定医
産婦人科医長 林 公一 (ハヤシ キミカズ)	山口大学大学院修(昭和62年)	日本産科婦人科学会専門医 麻酔科標榜医 母体保護法指定医



### 👤 概要

ほぼ常勤医一人での対応となるため多症例の診療には限度がありますが、他科の先生方の協力を得て、分娩、婦人科良性疾患、癌、不妊症(IVF-ET)、感染症(HIV/AIDSも含む)とすべてに渡り安心・安全を信条として対応させていただきます。研修医の先生方へは1ヶ月ごとのローテイトとなりますが、産婦人科診療に興味を持っていたような研修を心掛けています。また、診療での医学的視野が狭まらないように臨床研究や地域活動にも積極的に参加して最新医学情報の収集や地域貢献にも努めています。

### 👤 臨床実績

\*分娩件数：10件（うち帝王切開：4件）

\*婦人科手術：18件

- 子宮全摘 5件
- 子宮筋腫核出術 1件
- 子宮鏡下子宮内膜ポリープ切除 5件
- 採卵 1件
- 付属器悪性腫瘍手術 2件
- 付属器良性腫瘍手術 1件
- 子宮腔部円錐切除 3件

\*抗癌剤による化学療法：18例

- 子宮内膜癌 4例
- 子宮体癌 2例
- 卵巣癌 8例
- 腹膜癌 4例

### 👤 臨床研究

\*厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業(2024～):研究協力

「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及及び啓発法の開発ならびに診療体制の整備と均霑化に関する研究」

## 学会発表

- \* The 32nd World Congress on Controversies in Obstetrics, Gynecology, & Infertility (COGI: November 21-23, 2024 Lisbon Portugal)  
**VARIATION IN THE MOOD OF DELIVERY AND PSYCHOLOGICAL CHANGE OF CO-MEDICALS TOWARD VAGINAL DELIVERY AFTER THE APPROVAL OF VAGINAL DELIVERY FOR HIV-ACQUIRED PREGNANT WOMEN IN JAPAN**  
Kimikazu.Hayashi <sup>1,11</sup>, Masashi. Deguchi <sup>2,11</sup>, Yasuyuki.Hasuo <sup>3,11</sup>, Hideto.Gomibuc <sup>4,11</sup>, Miyuki.Sadatuki <sup>5,11</sup>, Misao.Nakanisi <sup>5,11</sup>, Hiroko.Sugino <sup>6,11</sup>, Yutaka.Nakanisi <sup>7,11</sup>, Maki.Nakano <sup>8,11</sup>, Chieko.Hasiba <sup>9,11</sup>, Tunekazu,Kita <sup>10,11</sup>
  
- \* 第38回日本エイズ学会学術集会・総会  
2024 11/28-30 京王プラザホテル 新宿  
HIV感染妊婦において経膣分娩が可能となったのちの医療スタッフの経膣分娩に対する心理的不安の程度と現時点での経膣分娩の均霑化に関する検討  
林 公一、出口 政志、吉野 直人、喜多 恒一等  
HIV感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学的研究と情報の復旧と啓発方法の開発及び診療体制の整備と均霑化のための研究班(厚労科研費エイズ対策補助事業)

## 令和6年度感染症予防事業・招聘講演企画

R6.11.14 国立国際医療研究センター:エイズ治療・研究開発センター医局長 中本 貴人  
「HIVとM-POX(サル痘):基礎から臨床まで」

## 地域活動

院内世界エイズデーイベント開催(2013～)

(林 公一)

## 眼科

### スタッフ

役職 氏名	出身大学 /専門分野	専門医 認定医
眼科医師 播磨 希 (ハリマ ノゾミ)	福岡大学卒(平成21年)	日本眼科学会専門医
視能訓練士 山下 栄太郎 (ヤマシタ エイタロウ)		

### 概要

令和5年度から眼科は山口大学医学部附属病院の関連病院となり、診療体制を一新しております。それに伴い新たに導入した検査機器も多くあり、より充実した環境となっております。外来診療は毎日午前中となっており、午後は特殊検査や手術、硝子体内注射やレーザー治療等を行っております。手術に関しては白内障手術や翼状片手術を1泊2日の入院で行っております。

眼科外来は完全予約制としております。かかりつけの眼科より当科での診断・治療が必要と判断された場合に、地域連携室を通じてご予約を取っていただくシステムとなっておりますのでよろしくお願いいたします。

### 実績

#### ○手術件数

術式	件数
白内障手術	119
網膜光凝固術	13
硝子体内注射	104
合計	236



(播磨 希)

## 耳鼻咽喉科

### 👤 スタッフ

役職 氏名	出身大学 /専門分野	専門医 認定医

### 👤 概要

耳鼻咽喉科領域の各種疾患の検査、治療を行っています。  
耳鼻咽喉科専門医制度の山口大学附属病院の専門研修連携施設となっています。

### 👤 診療活動

突発性難聴、めまい、顔面神経麻痺、急性扁桃炎、急性喉頭蓋炎などでは入院を含む治療を行なっています。突発性難聴に対しては適応があれば、高気圧酸素治療が可能です。

手術については、慢性扁桃炎や小児の睡眠時無呼吸、IgA腎症の症例に対する扁桃摘出術や気管切開術、内視鏡下副鼻腔手術などを行っています。

成人の睡眠時呼吸障害の検査では1泊入院での終夜睡眠ポリソムノグラフ検査を行っています。

専門性の高い手術を要する症例や集学的治療を要する頭頸部癌の症例に関しては、山口大学付属病院などへ紹介して手術や化学放射線治療を受けていただき、当院では必要な術前検査、術後のリハビリ、追加治療などを連携して行っています。

### 👤 実績

	件数
扁桃摘出術	26
気管切開術	5
内視鏡下鼻内術	4
ラリンゴマイクロサージェリー	1
リンパ節生検	4
リンパ管腫摘出術	1

(岡崎 吉紘)

## 放射線治療科

### スタッフ

役職 氏名	出身大学 /専門分野	専門医 認定医
放射線治療科医長 河村 光俊 (カワムラ ミツシ)	山口大学卒(平成1年) 山口大学大学院修(平成7年) /放射線治療	日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会 共同認定専門医 日本医学放射線学会 指導医



### 概要

がん治療の主な治療法として放射線治療があります。その中で高エネルギーX線を用いた外部放射線治療を主体で行っています。治療部位は脳神経、頭頸部、消化器系を含めた胸腹部、骨盤部などを対象としています。他科と協力し抗がん剤と組み合わせた化学放射線療法にも取り組んでいます。令和7年1月より最新機器へ更新しており、下関地区で唯一、強度変調放射線治療(IMRT)可能な施設となっております。放射線治療単独で通院可能な患者さんでは、当部門で受付し治療を受けられます。入院が必要な場合は他科入院担当の上、共同で診療にあたります。いずれも地域医療連携室で受付していますので御紹介の際はこちらにご連絡ください。

## 紹介

2024年3月よりラディザクト(アキュレー社)が稼働開始しました。ラディザクトは従来トモセラピーと呼ばれていた装置の最新型です。いわゆるIMRT(強度変調放射線治療)専用機で、診断用CTと似た筐体をもつことにより、治療ベッドを動かしつつ放射線を360度回転しながら照射することができます。さらに同様にCT撮影も行うことができるため、その場で画像取得し腫瘍の位置や体位のずれを修正しながら治療ができ、従来機器より精度の高い画像誘導放射線治療が可能になっています。

IMRT(強度変調放射線治療)は、高度なコンピュータ技術によって通常の放射線治療では不可能であった複雑な形状の線量分布を作り、病変部周囲の正常組織の線量を抑えつつ病巣に高線量を集中させることで、抗腫瘍効果の向上や合併症の軽減が期待される画期的な治療技術です。

従来法では各方向の放射線ビーム内の強さはほぼ均一でした。しかしIMRTでは、マルチリーフコリメータ(様々な形状を作成できる多重絞りを)を照射中に出し入れさせ、照射形状を変化させることで照射野内のビーム強度に変化をつけます。変化をつけることにより、腫瘍部には強く、正常組織には弱くの相反する調整が可能になります。さらに近年ではIMRTの応用型で、回転照射に強度変調機能を加えた強度変調回転照射という技術も開発されました。回転しながらのIMRTはより自由度と線量集中度が高く、さらに治療時間の短縮も図れる新世代の技法です。その一種が今回導入されたラディザクトになります。大きな呼吸性移動や体動があると線量分布が計画通りに入らない弱点がありますが、適切な部位選択と体を固定する道具を駆使しつつ治療法を選択しています。適応等でご不明な点がございましたら、気軽にお問い合わせください。

## 実績

放射線治療新患者数	100
放射線治療実人数(新患+再患)	105
原発巣分類別新患者数	
脳・脊髄	2
頭頸部	3
食道	6
肺・気管・縦隔	1
乳腺	54
肝・胆・膵	2
胃・結腸・直腸	9
婦人科系	1
泌尿器科系	15
造血リンパ系	7
皮膚・骨・軟部	0
良性	0
脳転移	2
骨転移	5

(河村 光俊)

## 放射線診断科

### 👤 スタッフ

役職 氏名	出身大学 /専門分野	専門医 認定医
放射線診断科医長 佃 利信 (ツクダ トシノブ)	山口大学卒(平成9年)	日本医学放射線学会 診断専門医
放射線診断科医師 田邊 雅也 (タナベ マサヤ)	山口大学卒(平成27年) 山口大学大学院修(令和5年)	日本医学放射線学会 診断専門医 日本核医学 専門医



### 👤 概要

単純X線撮影から、CT、MR、核医学検査(SPECT及びPET)、血管造影装置があり、これらの画像の読影を行っている。一般診療時に撮影された画像から、検診時の画像も一括して読影を行い、日常診療に貢献している。当院の病院群輪番制病院担当日には、読影担当として急患に対応している。

出血や外傷などの急患別を含め、幅広く画像下治療(IVR)を行っている。このため、血管造影室には各種塞栓物質やステント(グラフト)を常備しており、複雑な症例にも対応できる準備が整っている。組織診が必要な症例や深部膿瘍例に対し、CTガイド下に生検やドレナージを行い、患者さんの心配や苦痛緩和に貢献している。

### 👤 実績

読影 件数	CT	13,606
	MR	4,718
	核医学(SPECT)	971
	核医学(PET)	353
	CR(検診を含む)	2,008
	DR(検診を含む)	422
IVR 件数	生検	4
	ドレナージ	10
	血管造影	15

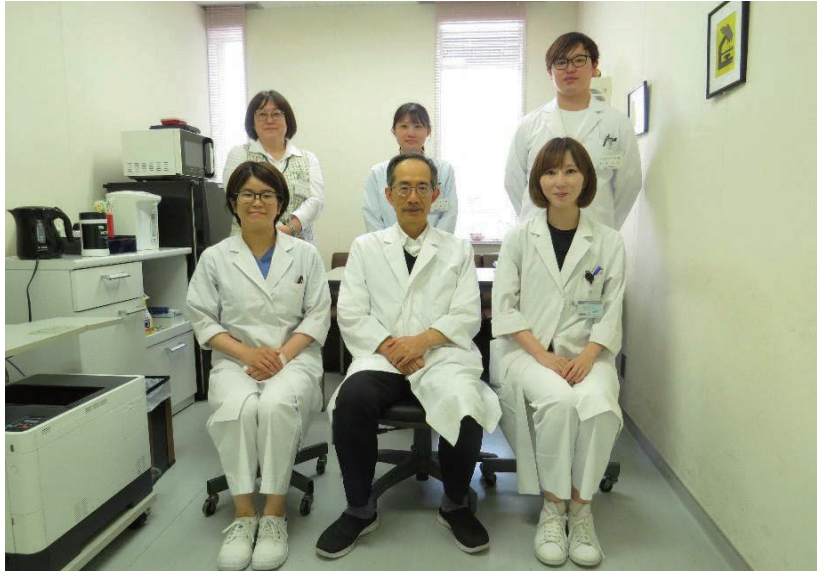
※血管造影については2024年12月～2025年1月まで改修

(佃 利信)

## 病理診断科

### 👤 スタッフ

役 職 氏 名	出身大学 ／専門分野	専 門 医 認 定 医
病理診断科医長 村田 健一郎 (ムラタ ケンイチロウ)	長崎大学卒(昭和61年) 長崎大学大学院修(平成2年) ／病理診断	病理専門医 病理専門医研修指導医 細胞診専門医



### 👤 概要

病理診断科は、病理専門医1人、臨床検査技師3人(内、細胞診検査技師2人)とドクターズ・アシスタント1人で業務を行っています。病理組織検査の標本作成は、通常のHE染色標本と一般的な特殊染色標本のみ、院内で実施しており、免疫染色、パラフィン包埋標本による遺伝子検査およびコンパニオン診断等は外部検査機関に委託しております。臨床検査技師の夜間・休日等の交代勤務のため、外部検査機関との間の標本や検査結果の受け渡し等で、ドクターズ・アシスタントの存在が重要になっています。

### 👤 実績

	件数
病理組織診断(受付番号数)	2,173
内、術中迅速診断	102
細胞診断(受付番号数)	2,637
内、婦人科	1,193
病理解剖	2
CPC	1

(村田 健一郎)

## 救急科

### 👤 スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
救命救急センター長 佐藤 穰 (サトウ ユタカ)	山口大学大学院修(昭和62年) ／感染症、血液、内科診断学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本内科学会総合内科専門医・指導医</li> <li>・日本専門医機構 総合診療専門研修特任指導医</li> <li>・日本医療マネジメント学会評議員</li> <li>・ICLSディレクター</li> </ul>



### 👤 概要

当科では非常に多岐に渡る疾患を扱っており、心肺停止、多発外傷、中毒、特殊感染症、ショック、熱中症、低体温症、熱傷など救急科に専門性が求められる領域も複数担っております。救急車搬送のみならず、地上型巨大ヘリポートを利用してドクターヘリや海上保安庁の救難ヘリの受け入れも行っていきます。

ICUにおける重篤な患者においても、主治医の医師と連携して全身管理、呼吸/気道管理、循環管理、術後管理などを行う事で、救命するだけでなく元の生活に戻るまで回復させるといった全人的医療が提供できるようサポートを行っております。

また、消防局と連携した地域救急医療体制の整備や、初期臨床研修医・大学生・コメディカルスタッフの教育活動や看護師特定行為研修の実践など、教育活動も精力的に行っております。

### 👤 実績

#### ○救急車受入件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020	134	157	120	178	158	157	151	173	174	186	154	143	1,885
2021	222	246	258	261	233	265	276	257	286	273	230	291	3,098
2022	232	256	251	304	346	285	301	285	300	375	240	291	3,466
2023	282	275	261	368	322	293	311	236	299	349	278	263	3,537
2024	232	224	274	317	331	264	260	259	298	392	258	248	3,357

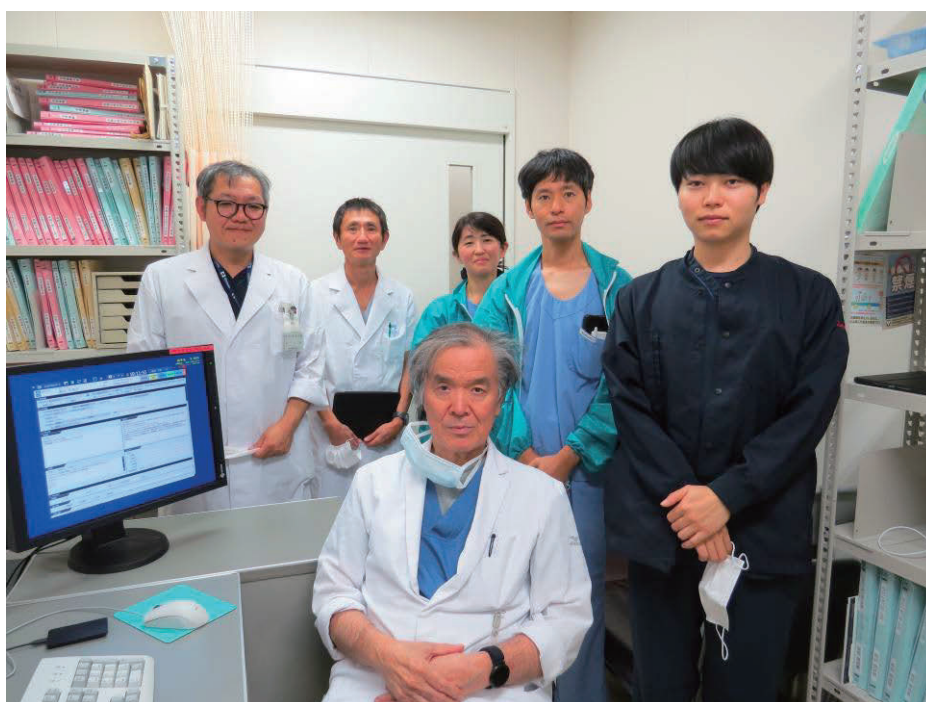
(佐藤 穰)



## 麻酔科・ペインクリニック

### 👤 スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
麻酔科医長 福井 健彦 (フクイ タケヒコ)	自治医科大学(平成19年)	日本麻酔科学会専門医
麻酔科医長 藤田 文彦 (フジタ フミヒコ)	山口大学卒(平成5年)	日本麻酔科学会指導医 日本専門医認定機構 専門医
麻酔科医師 白源 清貴 (シラモト キヨタカ)	山口大学(平成16年)	日本麻酔科学会指導医 日本専門医認定機構専門医 集中治療専門医
麻酔科医師 白源 浩子 (シラモト ヒロコ)	山口大学(平成19年)	日本専門医認定機構専門医
内科医師 北 仁志 (キタ ヒトシ)	京都府立医科大学卒(平成10年)	日本麻酔科学会認定医



## 概要

現在当院麻酔科は常勤で5名、加えてそれぞれ非常勤先生に協力をいただき毎日の周術期管理をおこなっています。

当院の特徴として、第1に一般的な病院に比べ緊急手術の割合が予定手術に比べると多い点が挙げられます。下関では3日に1回の救急輪番制度があるためです。そのため通常業務に加え、緊急手術の対応を留意していきながら麻酔管理をおこなえるよう注意しています。第2に臨床研修医が多く、常に研修医とともに麻酔を行っている点です。麻酔業務は手術中に麻酔科一人で管理する印象があると思いますが、当院では研修医とともに麻酔業務に入ることが多く、手技を教えたり時に麻酔計画を話し合ったりすることがあります。これは指導する側としても刺激となり、常に知識をアップデートしていかなければと意識させられる機会が多いです。

当科では今年度より特定行為看護師に参加してもらい麻酔業務を行っています。多職種が手術部にかかわることにより安全な周術期管理が行えるよう今後も安全を第一に仕事を進めていきたいと思えます。

## 実績

### ○麻酔件数

麻酔別	件数
全身麻酔+硬膜外麻酔	1501
硬膜外麻酔+脊椎麻酔	119
局所麻酔	373
その他(静・局・伝含)	39
計	2,032

(福井 健彦)

## 歯科口腔外科

### スタッフ

役職 氏名	出身大学 /専門分野	専門医 認定医
歯科口腔外科長 板敷 康隆 (イタシキ ヤスタカ)	徳島大学卒(平成19年)	日本口腔外科学会認定医 日本口腔科学会認定医 日本有病者歯科医療学会認定医・専門医・指導医 歯科医師臨床研修指導医
常勤	歯科衛生士 1名	
非常勤	歯科衛生士 1名 ドクターズ・アシスタント 1名	



### 概要

当科では歯・顎骨の硬組織と歯肉・頬粘膜・舌・口底・口唇の粘膜および顎下腺・舌下腺・耳下腺（腫瘍を除く）の大唾液腺組織を中心に歯科・口腔外科的領域の疾患について診断・加療を行っています。

下関医療圏の歯科医院からの紹介は以下の5つの多いです。①有病者の抜歯（抗血小板薬・抗凝固薬・BP製剤の内服中や内服既往）、②智歯抜歯や難抜歯、③口腔粘膜疾患、④骨吸収抑制薬関連顎骨壊死（BRONJ・ARONJなど）や顎骨骨髓炎、⑤頬部膿瘍や下顎骨周囲膿瘍などの重篤な菌性感染症

また、医科からの院内紹介は以下の5つが多いです。①周術期等口腔機能管理、②義歯調整、③口腔ケア、④口腔粘膜疾患、⑤補綴部の脱離

#### 【専門領域】

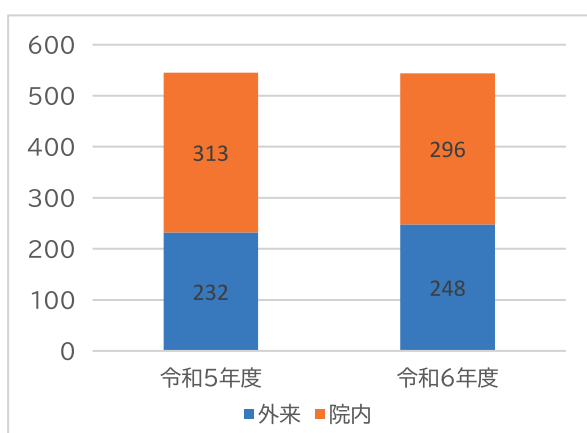
- ・有病者患者の観血的処置（抜歯や切開・排膿・ドレナージなど）
- ・口腔外科処置（智歯抜歯や嚢胞摘出など小～中手術：全身麻酔下、局所麻酔下での手術）
- ・周術期等口腔機能管理

### 【診療内容】

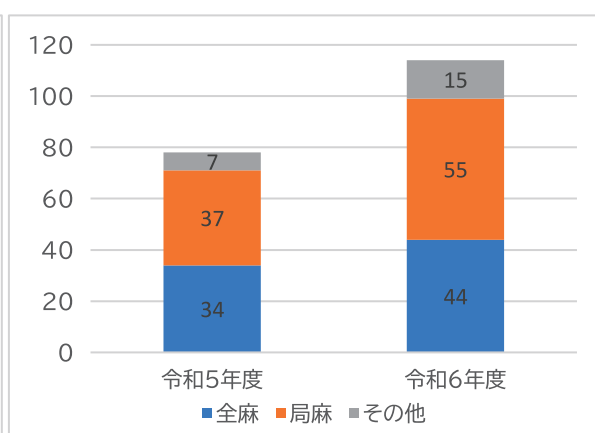
- ・山口県歯科医師会および下関歯科医師会の先生と連携を取りながら、歯科・口腔外科診療を行っています。
- ・周術期等口腔機能管理として、全身麻酔下での頭頸部・呼吸器・消化器・乳腺領域の悪性腫瘍手術、脳外科領域や人工股関節置換術等の整形外科領域の手術に対する手術前後の口腔ケアを行っています。さらに、がん等に係る放射線治療・化学療法を実施している患者様（予定している患者様を含む）・緩和ケアの患者様の口腔ケアにも取り組んでいます。
- ・骨吸収抑制薬関連顎骨壊死や顎骨骨髓炎に対し、外科的手術前後に、高気圧酸素療法＋抗菌薬の投与を積極的に行っています（症例によっては山口大学歯科口腔外科へ紹介する場合があります）。
- ・全身麻酔下での顎骨嚢胞摘出や智歯抜歯等も行っています。

### 【令和5年度・令和6年度の当科初診のべ患者数・入院のべ患者数】

- ①令和5年度・令和6年度の当科初診のべ患者数（外来・院内）は以下通り（図1）。
- ②令和4年度・令和5年度の当科入院のべ患者数（全身麻酔下手術：全麻、局所麻酔下手術：局麻、その他）は以下通り（図2）。



(図1)



(図2)

### 【感染予防対策】

- ・歯科診療時の感染予防対策として、入室時、すべての患者様にアルコールでの手指消毒を、スタンダードプリコーションとして患者様ごとに滅菌器具やディスポーザブル器具等を使用しています。
- さらに、歯科診療台等は患者様ごとに、清拭クロス等で消毒を、診療室内の唾液・血液等の飛沫軽減として、口腔外バキューム使用しています。
- ・加えて、診療室にHEPAフィルター＋紫外線殺菌装置搭載の空気清浄器を2台使用しています。X線照射室および歯科技工室にはそれぞれストリーマ搭載の空気清浄器を設置しました。
- ・夜間はオゾン発生装置を使用し室内全体の消毒を行っています。

### 【学会発表】

日本口腔外科学会・日本口腔科学会・日本有病者医療学会・国立病院総合医学会などでの発表を行っており、今後も積極的に行う予定です。

## 女性総合外来

### 👤 スタッフ

役職氏名	分担	専門医認定医
医長 早野 智子 (ハヤノ トモコ)	担当医師	日本内科学会総合専門医・指導医 日本循環器学会専門医 日本女性医学会会員 日本性差医学・医療学会評議員
副看護師長 秋川 佑子 (アキガワ ユウコ)	事前の電話問診・予約対応	看護師
心理療法士 黒木 浩子 (クロキ ヒロコ)	カウンセリング・心理テスト等担当	公認心理師



### 👤 概要

私どもの女性総合診療外来は、女性の一生を心と身体の両方から支えることを目標に、平成14年9月30日に開設されました。女性が自分の心と体の健康について理解し、社会の中、家庭の中で、自ら納得のゆく健康管理をしながら充実した人生を過ごせることが私たちの願いです。主婦、母、妻、キャリアウーマン、OL、シングル・レディ、etc…。女性の立場・呼び名は様々ですが、ひとりの女性の健康を守ることは、そのひとりと関わる社会、家族の健康を守ることへとつながります。

## 診療活動

昨年の診療実績は下記のとおりです。

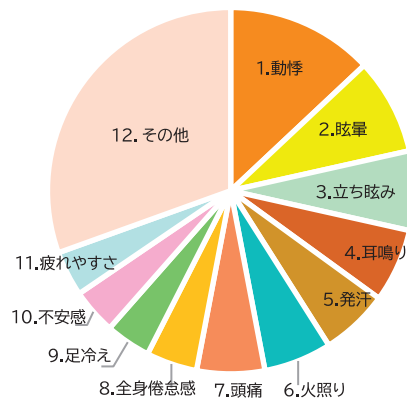
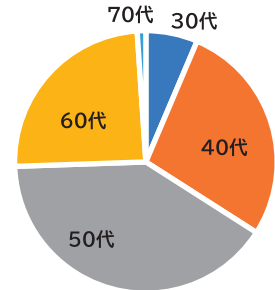
### 女性外来の診療実績

#### ★女性外来受診の主な主訴★

1	動悸	26
2	眩暈	17
3	立ち眩み	14
4	耳鳴り	13
5	発汗	12
6	火照り	12
7	頭痛	12
8	全身倦怠感	9
9	足冷え	8
10	不安感	8
11	疲れやすさ	8
12	その他 気持ちの落ち込み、のぼせ、全身痛、倦怠感、ホットフラッシュ、脂質異常、貧血、むかつき、過呼吸、胸部不快感、頻尿、体のしびれ、体重減少、涙ぐむ、やる気が出ない	61

#### ★年齢分布★

10代	0人
20代	0人
30代	6人
40代	26人
50代	38人
60代	23人
70代	1人
80代	0人
合計	94人



## 外来

外来は週に1回、月曜日の午後1時半より、おひとり30分間（初回は1時間）。待ち時間をなくすように完全予約制で行っております。

症状について、受診以前からの経過を詳しく伺い、その内容を鍵に検査・治療・他科専門医師への橋渡しに努めています。患者さまにわかりやすい説明を心がけています。

#### <例>「胸の痛み」の問診票

- ①症状の具体的な性状は？（皮膚の表面を針で刺すようなチクチクした痛み、みぞおちからのど元にかけて引き絞られるような鈍い痛み、深く息を吸ったときに生じる痛み、など）、
- ②症状が初めて生じた時期とその持続時間（期間）は？
- ③現在までの発症頻度は？（週または月に何回、徐々に頻度が増えているか）、
- ④症状が出やすい季節・時間帯は？（深夜・明け方、昼間の作業中、食後・飲酒後、など）、
- ⑤症状が起こる引き金となる動作の内容は？（階段を登る、夜布団に入った後、冷たいシャワーを浴びる、など）
- ⑥症状が現れる具体的な体の部位と範囲は？
- ⑦症状によるつらさの程度（生活への支障度）は？
- ⑧その方の住まれる社会環境や職種は？
- ⑨味好みや生活習慣は？（脂ものや塩分の量、喫煙、運動不足、飲酒ほか）、
- ⑩家族歴とご本人の合併疾患は？（高血圧、脂質代謝異常、糖尿病、心筋梗塞、不整脈、大動脈瘤、脳卒中、気胸、肺炎、逆流性食道炎、十二指腸潰瘍、過換気症候群など）、
- ⑪これまで使用した治療薬の種類とその効果

※診療は、完全予約制となっております。恐れ入りますが、事前のご連絡をよろしくお願いいたします。

（早野 智子）

## 薬剤部

### スタッフ

役職・氏名	
薬剤部長	尾崎 誠一
副薬剤部長	小山 朋子
主任薬剤師	4名
薬剤師	10名
薬剤助手	4名
治験看護師	1名
治験事務助手	2名



専門・認定資格	
日本病院薬剤師会 日本病院薬学認定薬剤師	5名
薬学教育協議会 認定実務実習指導薬剤師	3名
日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師	4名
日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師	1名
日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師	1名
日本病院薬剤師会 HIV感染専門薬剤師	1名
日本病院薬剤師会 HIV感染症薬物療法認定薬剤師	1名
日本臨床栄養代謝学会 栄養サポートチーム(NST) 専門療法士	2名
栄養サポートチーム加算に係る40時間以上の研修	5名
日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士(CDEJ)	3名
日本アンチドーピング機構 スポーツファーマシスト	1名

### 概要

#### ◆薬剤部について◆

薬剤部では、治療の一分野である薬物治療に使用する「お薬」に関わるお仕事を主な業務としています。患者さんの治療に際し、処方せんに基づき正確に調剤することは当然ですが、「お薬」は単なる物ではなく、その背景には数多くの情報(有効な疾患、副作用、相互作用=飲み合わせ等)を持っています。当センターに入院されました患者さんには医師の治療計画に従って、薬剤師が病棟に赴きベッドサイドにて患者さんに処方されたお薬について説明させていただいております。また、有害な副作用の発見にも努めており、薬剤師が薬のスペシャリストとして医療の質と患者さんのQOLの向上に貢献し、真の医療人として社会から信頼されるよう薬剤部一同研鑽を重ねております。

また、薬剤師はチーム医療推進(ICT、NST等)のため様々なチームに参加しており、薬剤師としての職能を生かした薬学的支援を行っています。

薬剤部は医薬品の購入・供給・管理、医薬品情報の収集・提供、一般製剤・特殊製剤、入院・外来患者の調剤、抗がん剤の混合調製、病棟活動等、それぞれにおいてお薬に関する重要な役割を担っています。

#### ◆調剤業務◆

治療のために、医師が処方したお薬を素早く取りそろえ、患者さんに手渡すだけでは十分とはいえません。取りそろえただけのお薬はそのままでは単なる物ですが、そのものがお薬として適切に服用や使用されるために、我々スタッフが患者さんごとにお薬の使い方や使用量、併用しているお薬や食べ物との飲み合わせ、アレルギーや副作用などについて確認したうえでお薬をお渡ししています。

#### ◆製剤業務◆

製薬会社が作っていない医薬品や、まだ開発段階にあるもの、病院独自の薬剤を医師の依頼に基づいて調製することが主な仕事です。

#### ◆注射薬調剤業務◆

注射薬は、一般に効果が強く血管内に直接投与されます。特に注射薬は急性期に使用されるので、病状に応じて処方内容が細かく変化します。

薬剤部では、注射薬についてもその都度処方せんによって調剤を行い、配合変化や相互作用、薬剤の分量、用法、投与速度、投与ルート、投与間隔などを確認し、注射薬自動払出システムを使用して1施用毎(1回分)の注射薬セットを行っています。

◆抗がん剤無菌調製◆

抗がん剤は、がん細胞の増殖を阻止する作用を持つ薬物で、増殖に必要な核酸やタンパク質の合成を直接阻害することで作用を発揮する薬剤です。その一方で、抗がん剤は旺盛に増殖する正常細胞(骨髄・消化管上皮・毛根など)にも影響を及ぼす薬剤でもあり、細胞毒性、変異原性(遺伝子に変異を与える可能性がある)あるいは発がん性を有するものが多く、抗がん剤を取り扱う医療従事者は薬剤の曝露(被曝)による健康上の危険性がついてまわります。医療従事者の曝露を回避するため、注射用抗がん剤は、薬剤部にて無菌的に調製を行ったあとで、病棟あるいは外来化学療法センターへ薬剤を供給しています。

抗がん剤の投与(薬物療法)は、効果や副作用など、いろいろな不安や疑問点があると思います。患者さんが安全に安心して治療を受けていただけるように、医師・看護師とともに薬剤師も尽力いたします。

◆医薬品情報◆

お薬に関する最新の情報を収集したり整理したりして、医師や患者さん、医療スタッフにその情報を提供することも重要な仕事の1つです。特に医薬品に関する重要な情報はその都度お知らせし、院内で決まった医薬品や薬の副作用情報などは定期的に医療スタッフに提供しています。

◆入院患者さんへの服薬指導◆

医師・看護師等と連携を取りながら、入院中の患者さんのベッドサイドで薬の説明を行い、質問や相談に応じています。薬の効き目や、飲み合わせ、副作用についてもチェックをし、患者さんが安心して服薬してもらえるよう取り組んでいます。

◆治験業務◆

GCPに基づき治験を実施するチームの一員として、プロトコルに従い、治験責任医師・分担医師の業務を支援し、治験薬を適正に保管・管理しながら治験薬が適正に投与されているかを確認する業務を担っています。

実績

		1ヶ月平均
薬剤管理指導料	実施患者数	396.9
	請求件数内訳1. ハイリスク薬管理	237.6
	請求件数内訳2. 1以外	301.4
	*請求件数(上記内訳の合計)	539.0
	(麻薬加算件数)	17.2
病棟薬剤業務	病棟薬剤業務実施加算1件数	1,136.5
	病棟薬剤業務実施加算2件数	218.3
	持参薬確認数(算定病棟)	336.6
	処方支援・診療支援数(算定病棟)	64.7
無菌製剤処理料	無菌製剤処理料1 総実施件数	396.9
	イ 閉鎖式接続器具を使用した場合 請求件数	165.2
	ロ イ以外の場合 請求件数	231.8
	無菌製剤処理料2 総実施件数	5.3
外来化学療法加算	外来化学療法加算1 A:15歳以上 請求件数	2.8
外来腫瘍化学療法診療科	外来腫瘍化学療法診療料1イ(投与3回目まで)	205.1
	外来腫瘍化学療法診療料1イ(投与4回目以降)	1.3
医師業務負担軽減	疑義照会件数(入院)	49.0
	疑義照会後の事後承認代行入力変更の件数(入院)	39.6
	プロトコルに基づいた医師との協働(PBPM)実施件数	52.0
	トレーシングレポート処理件数	16.0

(小山 朋子)

## 放射線科

### スタッフ

役職・氏名	
診療放射線技師	15名
診療放射線技師長	1名
副診療放射線技師長	1名
主任診療放射線技師	4名
診療放射線技師	9名
放射線科助手	1名

保有機器			
一般撮影	4台	歯科撮影装置	2台
ポータブル撮影装置	5台	CT撮影装置	2台
X線透視撮影装置	2台	MRI撮影装置	1台
骨密度測定装置	1台	RI撮影装置	1台
乳房撮影装置	1台	PET-CT撮影装置	1台
血管撮影装置	1台	放射線治療装置	1台
外科用イメージ	3台	治療計画装置	2台

主な検査・治療	
一般撮影	CT検査
マンモグラフィ	MRI検査
骨塩定量測定	RI検査
X線透視撮影	PET検査
血管造影	放射線治療

診療放射線技師資格・認定取得者	
国家資格	
第1種放射線取扱主任者	1名
認定機構資格	
放射線治療専門放射線技師	2名
放射線治療品質管理士	1名
医学物理士	1名
検診マンモグラフィ撮影認定技師	5名
PET研修セミナー	6名
CT認定技師	2名
肺がんCT検診認定技師	1名
塩化ストロンチウム治療安全取扱	2名
I-131による残存甲状腺破壊の外来治療	1名
塩化ラジウム(Ra-232)注射液を用いた RI内用療法における適正使用	2名
放射線医薬品取扱ガイドライン	5名
放射線技師会資格	
放射線機器管理士	1名
放射線管理士	2名
医療情報技師	1名
画像等手術支援認定技師	2名



### 放射線科について

放射線科の業務には、一般撮影・X線透視・CT・MRI・血管造影・核医学検査・放射線治療があります。

2024年度は2つの装置を更新しました。

一般撮影装置を更新いたしました。

撮影室は4室あり、すべてフラットパネルを導入いたしました。フラットパネルは撮影と同時に画像が写し出され、拡大しても鮮明な画像で確認することができます。中でも脊椎全体を移す長尺撮影もフラットパネルに変更したことで、検査時間や画像の質が大幅に向上しました。

血管撮影装置の更新も行いました。

もともとパイプライン装置ではありましたが、パネルサイズを20/20から20/15の長方形に変更することでパイプラインでの干渉を少なくし、長軸へのアプローチにもコンパクトでありながらも活用しやすくなりました。また、大型モニタを採用し、手技に合わせて自在に必要な画像を表示することができるようになりました。

実績

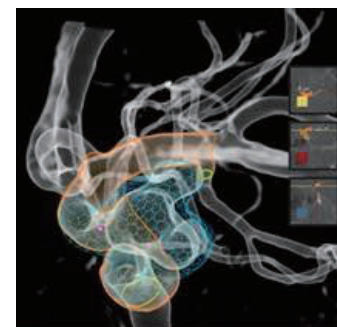
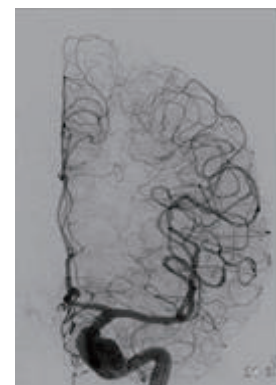
	2023年度	2024年度
単純撮影	27,841	28,307
(マンモグラフィ)	679	738
(ポータブル)	4,972	4,776
(造影検査)	1,839	1,649
(骨塩定量測定)	1,183	1,149
(時間外撮影人数)	5,565	6,121
血管造影	201	232
RI	987	973
PET-CT	300	354
CT	13,674	14,036
(CT紹介)	499	475
MRI	4,684	4,715
(MRI紹介)	537	591
3次元画像解析	1,416	1,714
放射線治療	145	2,517

放射線治療は2023年装置入れ替えのため3月のみ  
\* ( )は再掲

血管撮影装置の更新

2025年1月に、血管撮影装置をPhilips社Allura20/20からPhilips社Azurion 7 B20/15に更新いたしました。このAzurion 7 B20/15は一貫して操作性を効率的かつ簡便に使用でき、高性能フラットパネルディテクターや10mmの厚みを持ったスペクトラビームフィルターなどを用いた高画質と被ばく線量の低減を実現しました。

また、58インチマルチビューイングカラーモニターにより最大8チャンネルの同時表示が可能で、レイアウトも自由度が高くスーパーズーム機能により任意の拡大でもズームボケのないクリアな画像が表示できます。多彩な機能をもったAzurion 7 B20/15は、心カテを中心に頭部や腹部・下肢血管において毎日稼働しています。



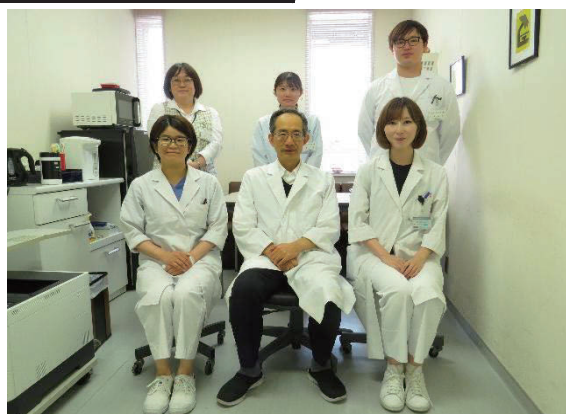
## 臨床検査科

### スタッフ

役職・氏名	
臨床検査科長	長島 由紀子
臨床検査技師長	西村 俊直
副臨床検査技師長	宮崎 純子
主任臨床検査師士	4名
臨床検査技師	14名
臨床検査助手	1名
事務助手	1名



資格・認定取得者			
<b>【国家資格】</b>			
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者 7名			
有機溶剤作業主任者 6名			
日本乳がん検診精度管理中央機構主催 乳房超音波試験A判定 1名			
<b>【認定資格】</b>			
細胞検査士(国内)	6名	認定血管診療技師	1名
細胞検査士(国際)	2名	超音波検査士(消化器)	4名
認定病理検査技師	1名	超音波検査士(循環器)	4名
認定一般検査技師	1名	超音波検査士(泌尿器)	1名
日本糖尿病療養指導士	1名	超音波検査士(体表臓器)	1名
緊急臨床検査士	3名	JHRS 認定心電図専門士	1名
2級臨床検査士	1名		



### 概要

臨床検査科の業務は、大きく分けて、患者さんから採取された血液や尿などを検査機器で分析する「検体検査部門」と、心電図や超音波検査など、患者さんと直接接して行う「生理検査部門」の2つに分類されます。どちらの検査部門においても、検査結果や検査情報は病気の診断や治療方針に大きく関わるため、正確かつ迅速な報告が求められます。

そのため、信頼性の高い質の良い検査結果を提供できるよう、日々の精度管理に努めています。精度管理には、検査施設ごとに行う「内部精度管理」と、日本医師会や日本臨床衛生検査技師会、県の臨床衛生検査技師会などの外部機関が共通の条件の下で行う「外部精度管理」があります。始業時に必ず行う内部精度管理では、2種類のコントロール検体を測定し、その検査値が管理範囲内に収まっていることを確認した上で、患者検体の測定に進みます。一方、外部精度管理では、外部機関により検査結果の信頼性を客観的に評価してもらうことで、検査の正確性と信頼性の確保に役立てています。

また、臨床検査業務の精度維持・向上のためには、専門的知識の習得や技術の向上が不可欠です。そのため、スタッフは積極的に学会や研修会に参加し、モチベーションを高めながら、スキルアップを図っています。その結果、細胞検査士や超音波検査士など、診療に直結する認定資格を持つスタッフも多く、臨床現場に大きく貢献しています。

今後も医療従事者として、患者さんに寄り添い、支え続けることができる「臨床検査科」を目指してまいります。

## 実績

コロナ検査件数、検体検査件数、生理検査件数、血液製剤使用状況を中心に、当臨床検査科の実績をご報告いたします。2020年初頭から続いていた新型コロナウイルス感染症に関し、2023年5月8日より季節性インフルエンザと同じ5類感染症に分類が引き下げられました。これに伴い、個人の行動制限も緩和され、各検査関連学会や講習会も、WEB開催と現地開催を併用したハイブリット型が主流となってきました。

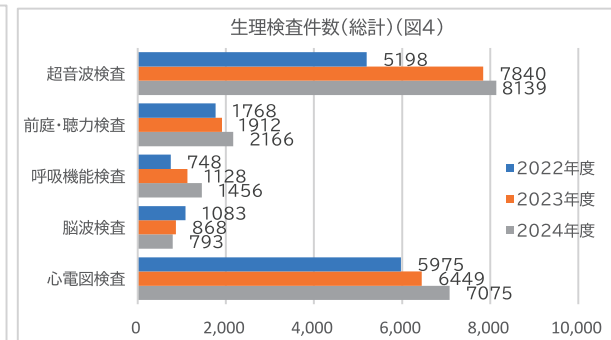
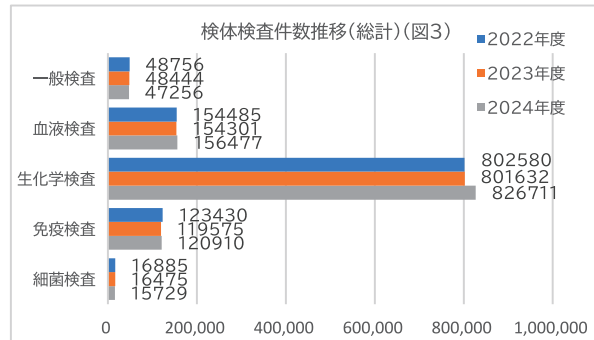
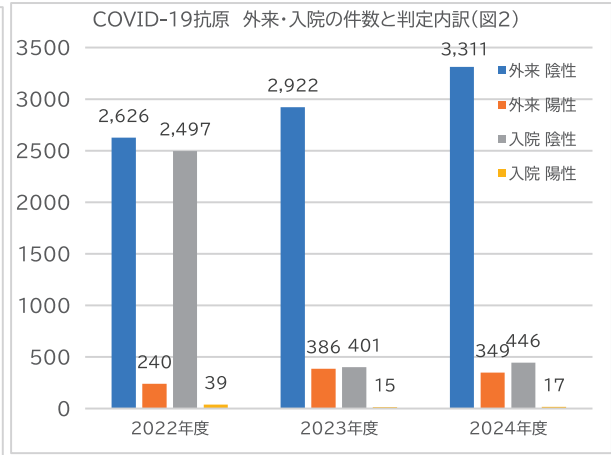
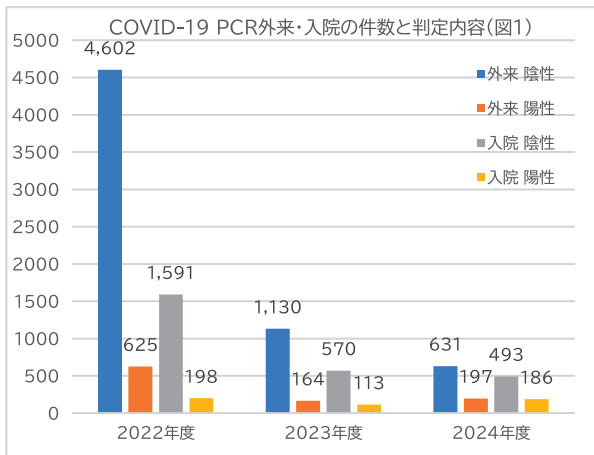
臨床検査科においては、2022年度のコロナPCR検査件数は7,016件(外来5,227件、入院1,789件)でしたが、2024年度は1,507件(外来828件、入院679件)と大きく減少し、コロナ感染のピークは一段落したと考えられます(図1)。

ただし、抗原検査の依頼は依然として高水準であり、2023年度よりも増加傾向にあります。今後も感染状況を注視し、気を緩めることなく、対応していきたいと思っております(図2)。

検体検査の件数は、2023年度と比較して2.3%増加しました。血液検査は約2,200件、生化学検査は約24,000件、免疫検査は約1,300件の増加が見られます(図3)。

生理検査についても、2023年度と比べ7.9%増加しました。心電図検査約600件、呼吸機能検査約300件、前庭・聴力検査約250件、超音波検査約300件の増加です(図4)。今後も、検体検査・生理検査ともに、検査件数の維持・増加に努めてまいります。

血液製剤使用状況については、2023年度と比較して、照射赤血球LR、新鮮凍結血漿LR、濃厚血小板(10単位)、アルブミン分画製剤(12.5g)のいずれも件数の減少が見られます。廃棄率は、照射赤血球LR以外は減少しています(表1)。今後も、血液製剤の有効利用に取り組み、廃棄率の減少に努めてまいります。



血液製剤使用状況 (表1)

### 【照射赤血球 LR】

	2022年度	2023年度	2024年度
使用(単位)	3,012	2,954	2,674
廃棄(単位)	6	6	12
廃棄率%	0.20	0.20	0.45

### 【新鮮凍結血漿 LR】

	2022年度	2023年度	2024年度
使用(単位)	476	306	186
廃棄(単位)	6	6	2
廃棄率%	1.24	1.92	1.06

### 【濃厚血小板(10単位)】

	2022年度	2023年度	2024年度
使用(単位)	4,090	3,030	1,710
廃棄(単位)	0	10	0
廃棄率%	0.00	0.33	0.00

### 【アルブミン分画製剤(12.5g)】

	2022年度	2023年度	2024年度
使用(単位)	713	1,056	722
廃棄(単位)	1	0	0
廃棄率%	0.14	0.00	0.00

(西村 俊直)

## 栄養管理室

### 👤 スタッフ

役職・氏名	
栄養管理室担当医	鶴 政俊
栄養管理室長	揚村 和英
主任栄養士	後藤 由佳
管理栄養士	3名
委託会社(西日本医療サービス)	28名

専門・認定資格	
管理栄養士	5名
NST専門療法士	2名
日本糖尿病療養指導士	1名
栄養管理に関する40時間研修終了	4名
山口県肝疾患コーディネーター	1名
山口県糖尿病療養指導士	1名

### 👤 概要

#### ◆栄養管理業務◆

##### ①栄養管理計画書

栄養管理計画書は、主治医が入院診療計画書で「特別な栄養管理が必要」と判断した患者について、多職種が協力して作成します。入院時および再評価時にスクリーニングとアセスメントを行い、栄養状態に課題がある、あるいは栄養不良リスクが高い患者に対しては、提供栄養量の検討や食事内容の変更を提案します。入院時に栄養状態が良好であっても、入院中に体重減少や食事摂取量の低下がみられることが多いため、すべての入院患者に栄養管理計画書を作成し、入院中は1週間ごとに再評価を行っています。管理栄養士は病棟担当制をとり、担当病棟の病室を訪問して患者一人ひとりの状態を直接確認しながら、聞き取りや食事の様子を観察を行っています。また、医師・看護師・各種メディカルスタッフと密に情報を共有し、患者個々の状況に即した最適な栄養サポートプランを計画・実施できるよう努めています。

##### ②個別栄養食事指導

入院患者および外来患者に対して個別栄養食事指導を行っています。日常の食生活を丁寧に聞き取り、患者が主体的に食事療法に取り組めるようオーダーメイドの指導を行い、QOLやADLの向上を目標としています。

##### ③集団栄養食事指導

入院患者を対象に、毎月2回の糖尿病教室を開催しています。担当スタッフによる知識提供だけでなく、患者同士の交流を重視した運営を心がけています。

##### ④チーム医療

栄養サポートチーム(NST)をはじめ、褥瘡ケアチームや緩和ケアチームのラウンドなど、各委員会やカンファレンスに積極的に参加しています。ICUや救命救急病棟において栄養管理業務を強化し、早期栄養介入管理加算に積極的に取り組んでいます。医師・看護師・薬剤師・リハビリスタッフと密接に連携し、患者の早期回復を支援しています。

#### ◆給食管理◆

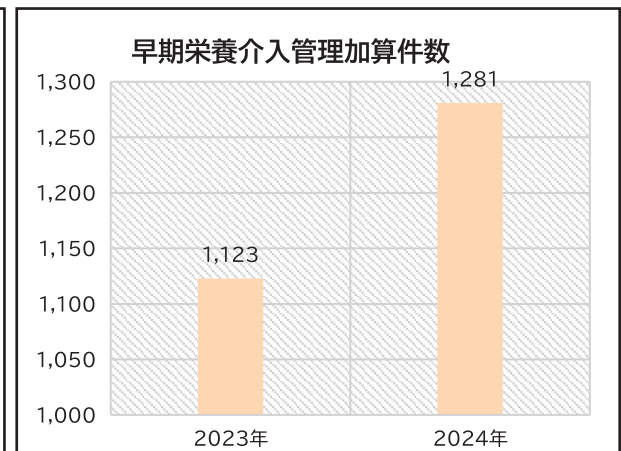
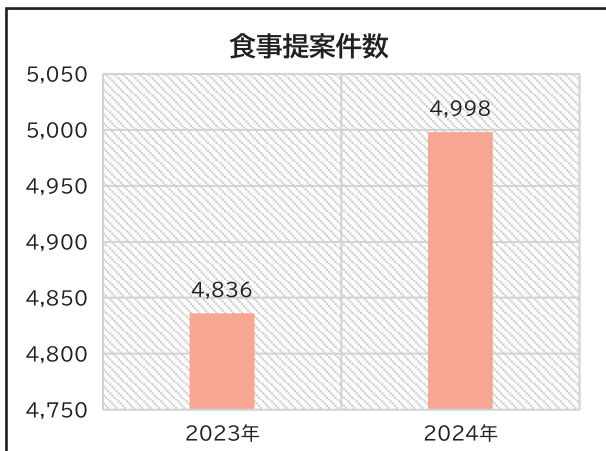
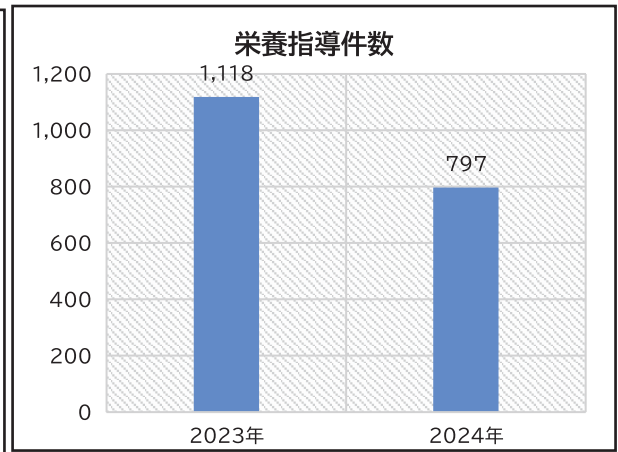
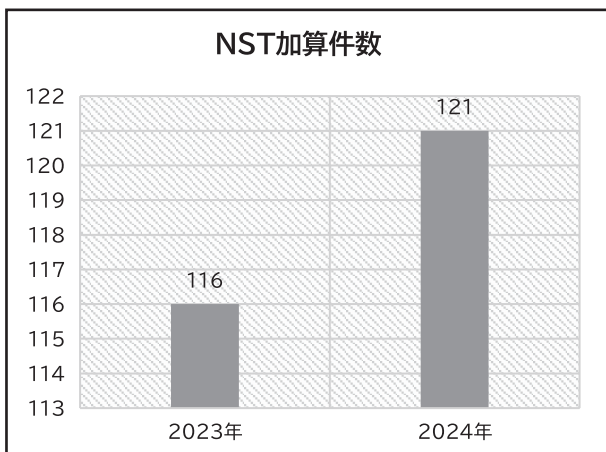
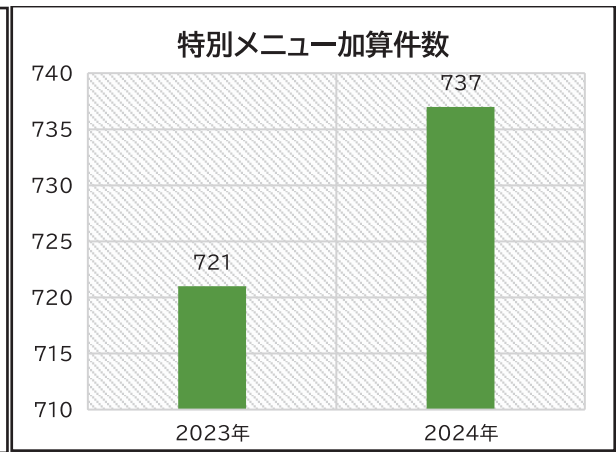
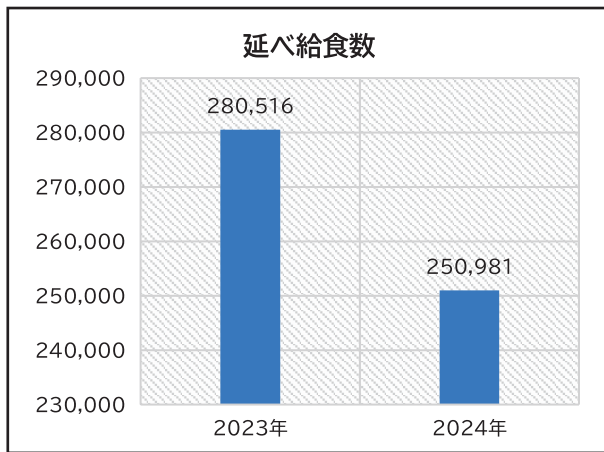
##### ①献立作成

献立は5週間のサイクルメニューを基本としていますが、定期的には新メニューや旬の食材を取り入れています。さらに行事食にはカードを添えるなど、入院中でも季節の移ろいを感じられる食事提供を心がけています。

##### ②特別メニュー

2007年から始まった特別メニューは、現在月に約10回実施しています。病院給食では提供が難しい料理や、自宅に帰ったような懐かしさを感じられるメニューを取り入れています。

内容	2023年	2024年
延べ給食数	280,516	250,981
特別メニュー加算件数	721	737
NST加算件数	116	121
栄養指導件数	1,118	797
食事提案件数	4,836	4,998
早期栄養介入管理加算件数	1,123	1,281



(揚村 和英)

## リハビリテーション科

### 👤 スタッフ

役職・氏名	
理学療法士長	安川 達哉
理学療法主任	山内 菜緒
理学療法主任	井上 和裕
作業療法主任	石丸 眞
作業療法主任	渡邊 沙耶香
理学療法士	12名
作業療法士	9名
言語聴覚士	2名
診療業務助手	2名
計 30名	

専門・認定資格
3学会合同呼吸療法認定士
呼吸ケア指導士
福祉住環境コーディネーター
臨床実習指導者講習修了
がんのリハビリテーション研修修了
心不全療養指導士
心臓リハビリテーション指導士
理学療法士協会指定管理者
植込み型心臓不整脈デバイス認定士



### 👤 概要

#### ◆診療活動◆

発症後早期より積極的に患者様の心身機能や生活能力回復に取り組んでいます。救命・集中治療室に専任のスタッフを配置して重症患者様の早期リハビリテーションに対応しつつ、急性期病棟や地域支援病棟でのリハビリも充実させられるように体制を整えております。365日リハビリ体制のため、一人の患者様に対して、急性期から在宅復帰まで複数のスタッフに関わる点が特徴です。診療管理面ではインシデント予防や切れ目のない治療を課題としつつも、先輩・後輩の垣根なく経験を共有するといった、良い点も活かされるよう、今後も運営したいと考えています。

#### ◆チームアプローチ◆

毎日の早期離床カンファレンスに加え、毎週各診療科において、医師・看護師・ソーシャルワーカーなど多職種合同でのカンファレンスを実施しております。リハビリは身体・精神機能について生活の視点を持ち、退院先の方針決定などに活かせる情報を、的確に報告できるよう努めています。また、地域社会の高齢化の中、在宅での介護が困難になるケースも増えていますが、患者様の希望にできるだけ添えるよう、多職種で協議しつつ医療サービスを提供しています。

#### ◆教育体制◆

臨床教育にも力を入れており、毎年7～8校、12名程度の臨床実習生を受け入れています。また、若手は急性期と包括をローテーションしながら、段階的に経験を積むためのラダー制度を導入しています。また、特定の分野で優れた知識・技能を有するスペシャリストの育成にも努めています。

実績

疾患別(単位数)	職種	2023年度	2024年度
脳血管疾患リハビリテーション I	PT	5,911	6,876
	OT	7,573	6,224
	ST	3,506	3,304
	合計	16,990	16,404
運動器疾患リハビリテーション I	PT	30,266	25,927
	OT	15,707	15,586
	合計	45,973	41,513
廃用症候群リハビリテーション I	PT	7,516	6,611
	OT	7,586	6,448
	ST	3	75
	合計	15,105	13,134
呼吸器リハビリテーション I	PT	2,096	2,441
	OT	1,997	1,152
	ST	24	18
	合計	4,117	3,611
心大血管リハビリテーション I	PT	0	1,924
	OT	0	11
	合計	0	1,935
がんのリハビリテーション	PT	722	1,685
	OT	1,089	1,403
	ST	9	0
	合計	1,820	3,088
リハビリテーション総合実施計画書		3,728	3,667
退院時指導		8	146

(安川 達哉)

## 医療機器管理室

### スタッフ

役職・氏名	
臨床工学技士長	三代 英紀
主任臨床工学技士	石田 朋行
	藤野 唯依加
臨床工学技士	5名

専門・認定資格
3学会合同呼吸療法認定士 2名
高気圧酸素治療専門技師 1名
第2種ME技術者 5名
日本DMAT隊員 1名



### 概要

#### ◆医療機器管理業務◆

医療機器管理業務では病院内で使用している人工呼吸器や輸液ポンプなど約20機種・700台の医療機器を中央管理として安全に使用できるように保守点検業務を行っています。保守点検業務では、使用が終了した機器の終了時点検や定期的に行われる点検の年間計画を策定し実施しています。また、教育業務にも力を入れており、看護スタッフに向けて人工呼吸器や新しく入ってきた機器の取り扱い等の勉強会を行っています。

#### ◆集中治療室業務・手術室業務◆

集中治療室では、人工呼吸器の使用時に起こったトラブルの対応やCHDF(緩徐血液透析濾過法)などの生命維持管理装置に対する技術支援を行っています。

手術室では、術中神経モニタリング(MEP / SEP)や脳ナビゲーションによる手術の支援、下肢静脈瘤血管内焼灼術におけるレーザー装置の操作などを行っています。

#### ◆循環器科関連臨床支援業務◆

心臓カテーテル検査・治療では、検査・治療中のモニタリング装置や生命維持管理装置の操作を行います。

ペースメーカー業務では手術中のアナライザーやプログラマーの操作やペースメーカー外来でのプログラムの操作を行っています。

#### ◆透析センター業務◆

透析センターでは腎臓の働きの代わりにする血液透析(HD)や血液透析濾過(HDF)を行っており、臨床工学技士はそれらの治療を行う装置の操作、保守点検を行っています。また、透析を行うにあたって必要となる透析液の水質検査やダイアライザーの管理も行っています。

#### ◆高気圧酸素治療室業務◆

高気圧酸素治療は、様々な疾患に対して治療を行っています。治療の計画から装置の操作、保守点検を臨床工学技士が担っています。令和6年12月より3台運用となりました。

 実績

業務領域		症例内容	件数
血液浄化	透析センター	血液透析(回数)	5,774
		血症交換療法(件数)	1
		血液吸着(件数)	0
	集中治療室	持続血液濾過透析療法(件数)	10
		エンドトキシン吸着療法(件数)	0
		血症交換療法(件数)	0
ME室	腹水濾過濃縮再静注療法	63	
高気圧酸素治療		高気圧酸素治療(新規患者数)	258
		高気圧酸素治療(治療回数)	2,740
臨床業務立ち合い	脳神経外科	手術ナビゲーション(脳外科)立ち合い(件数)	9
		術中モニタリング(SEP)(件数)	6
		INVOSセッティング(件数)	8
	消化器内科	RFA(ラジオ波焼灼療法)立ち合い(件数)	0
	神経内科	新規導入 NPPV (件数)	2
		新規導入 TPPV (件数)	2
	整形外科	術中神経モニタリング(MEP)	87
	心臓血管外科	下肢EVT( ALI )+ 麻酔器	9
		下肢EVT( CLI )	6
		下肢静脈瘤血管内焼灼術	24
		その他	2
	循環器科	心臓カテーテル検査(件数)	69
		心臓カテーテル治療(件数)	22
		ペースメーカー埋め込み術(件数)	17
		ペースメーカー交換術(件数)	14
		体外式ペースメーカー挿入(件数)	5
		ペースメーカー 他科OP立ち合い(件数)	13
	ペースメーカー MRI撮影立ち合い(件数)	26	
	麻酔科	全科共通 麻酔器準備(件数)	21

(三代 英紀)

## 心理療法士

### 👤 スタッフ

役職・氏名・専門資格		
心理療法士	黒木 浩子	(公認心理師)
心理療法士	佐村 さや香	(公認心理師・臨床心理士)

### 👤 概要

#### ◆心理的援助◆

カウンセリングや心理療法といった心理面接を通しての心理的援助を実施しています。対象となるのは当院に通院されている外来患者・入院患者であり、またご本人のみではなく、ご家族のご相談もお受けしています。様々な科から面接依頼を頂き内容に応じて主治医・看護師など多職種と連携しながら心理的支援を実施しています。それぞれの相談内容に合わせて、健康な側面の成長促進を目的とした援助や問題に対する解決方法を一緒に考えていくという援助等、様々な心理的援助アプローチを行っています。ご家族に対しては2番目の患者さんという視点に立ち、積極的に支援できるようスタッフと連携しながら様々な工夫をしています。

#### ◆心理検査◆

心理学的援助を実践するにあたっては心理アセスメントが重要になります。

そのアセスメントの方法の1つに心理検査があります。

言語・視覚認知・記憶・注意・実行機能などの認知機能の諸機能を測定する神経心理学的検査や知能検査、パーソナリティ傾向や抑うつや不安を測定する自己記入式の質問紙検査などを実施しています。

#### ◆チーム活動・カンファレンス参加◆

心理療法士もチームの一員として多職種チームやカンファレンスに参加しています。

- ・精神科リエゾンチーム
- ・緩和ケアチーム
- ・認知症ケアサポートチーム
- ・HIV診療チーム
- ・ICUメディエーター 等

### 👤 実績

	2023年度	2024年度
〈心理面接〉	897	674
〈心理検査〉		
MMSE	310	280
HDS-R	444	316
ADAS-cog	286	218
時計描画	55	135
FAB	27	67
WMS-R	15	11
WAIS-III & WAIS-IV	1	5
WISC-III	27	112
その他の心理検査	9	9



## 地域医療連携室

### 👤 スタッフ

役職・氏名	専門・認定資格
医療社会事業専門職 沖本 慎一郎	社会福祉士・介護支援専門員
医療社会事業専門員 古永 智子	社会福祉士・介護支援専門員
医療社会事業専門員 大羽 智也	社会福祉士・介護支援専門員
医療社会事業専門員 河本 香織	社会福祉士・介護支援専門員
医療社会事業専門員 内田 恵梨	社会福祉士



### 👤 概要

保健医療機関において、社会福祉の立場から患者さんやその家族の方々の抱える経済的・心理的・社会的問題の解決、調整を援助し、社会復帰の促進を図る業務を行います。主な業務内容は

1. 療養中の心理的・社会的問題の解決、調整援助
2. 退院援助
3. 社会復帰援助
4. 受診・受療援助
5. 経済的問題の解決、調整援助
6. 地域活動 などを中心に活動しています。

実績

○相談活動内容

		件数
診療科別	内科	784
	消化器科	657
	循環器科	587
	脳神経外科	240
	整形外科	1,754
	脳神経内科	1,037
	外科	1,004
	救急科	46
	精神科	136
	産婦人科	9
	耳鼻咽喉科	62
	皮膚科	1
	泌尿器科	233
	小児科	0
その他	36	
病棟別	外来	1,309
	救命救急	85
	ICU	16
	4C	657
	5B	986
	5C	0
	6B	978
	6C	751
	7B	1,016
7C	784	
新規別	新規	2,110
	継続	4,497
相談内容	経済的問題	513
	心理社会的問題	641
	受診・受療問題	3,001
	退院援助	4,532
	社会復帰	22

○入退院支援加算算定状況

		件数
件数		1,253件
スクリーニング実績		1.1日
カンファレンス実績		5.4日
計画書作成実績		5.4日
退院先	自宅	126件
	施設	172件
	老健	13件
	転院	942件
地連パス	脳卒中	94件
	大腿骨	147件
男女別	男性	509件
	女性	744件
平均年齢	男性	79.5才
	女性	83.6才

(沖本 慎一郎)

## 看護部

### スタッフ

役職・氏名	
看護部長	小林 奈々
副看護部長	小林 里美・實森 直美
看護師長	13名
副看護師長	23名
看護師	378名

専門・認定資格	
【認定看護師】	13名
感染管理認定看護師	2名
救急看護認定看護師	1名
クリティカルケア	3名
がん化学療法看護認定看護師	2名
がん性疼痛看護認定看護師	1名
皮膚排泄ケア認定看護師	1名
認定看護管理者	3名
【診療看護師】	1名
【特定行為看護師】	9名
	(うち認定看護師4名)



### 看護部の理念・基本方針

#### 看護部の理念

- 1 患者さんの思いを大切に共に歩む看護を目指します
- 2 患者さんに納得と信頼を得る看護を目指します
- 3 看護者としての責務を誠実に実践します

#### 看護部の基本方針

- 1 生命の尊厳と、人としての尊厳および権利を尊重します
- 2 安全で効果的な看護実践を目指し、患者さんご家族と共に考えることを基本とし、親切で配慮ある看護を提供します
- 3 看護職員としての気品と誇りを持ち、他部門との信頼関係を保持します
- 4 組織の一員として積極的に病院経営に参画します
- 5 最良の看護実践のため、自己研鑽につとめます
- 6 医療・看護を学ぶ人々によりよい教育環境を提供します

#### 令和6年度看護部の取り組み

令和6年	4月	外来看護師救急外来夜勤開始
		特定行為看護師1名配置
		診療看護師1名配置
令和7年	1月	実習指導者専任化体制の導入

## 🏠 研修の実績

### ○ラダーレベル研修

	内容	参加人数
ラダーレベルⅠ	フィジカルアセスメント	7名
	メンバーシップ研修	7名
	BLS	7名
	多重課題	7名
	看護倫理Ⅰ	7名
	KYT	7名
	リフレクション導入研修	6名
	リフレクション研修	6名
ラダーレベルⅡ	KYT	17名
	ケーススタディ導入	17名
	フィジカルアセスメント	17名
	経営参画	17名
	看護倫理Ⅱ	17名
	ケーススタディ発表会	17名
	リーダーシップ研修概論	16名
	後輩支援導入(チューター役割)	16名
ラダーレベルⅢ	後輩支援研修	22名
	後輩支援研修 6か月フォローアップ研修	22名
	ケーススタディ導入	20名
	リーダーシップ(役割実践)	22名
	フィジカルアセスメント	22名
	経営参画	22名
	ケーススタディ発表会	19名
	看護倫理	21名
	研究的視点Ⅰ(看護研究概論)	20名
ラダーレベルⅣ	看護倫理	12名
	ファシリテーションスキル	12名
	経営参画 問題解決技法を学ぶ	12名
	キャリア形成	12名

### ○新人看護師研修

	内容	参加人数
新人看護師研修	新採用者オリエンテーション	7名
	インフォメーション研修	7名
	3ヶ月の振り返りリフレッシュ研修	7名
	6か月の振り返りリフレッシュ研修	6名

### ○全体研修 役割別研修

	内容	参加人数
全体研修	看護補助者との協同推進のための看護職員研修	10名
	退院支援研修	18名
	退院支援研修取り組み発表会	37名
	高齢者、認知症患者の看護	16名
	重症度、医療・看護必要度	290名
	看護を語る会	21名
看護研究	看護研究計画書指導	14名
	分析、統計	20名
	看護研究のまとめ	18名
	看護研究発表会	45名
役割別研修	固定チームリーダー研修	28名
	固定チーム取り組み発表会	80名
	チューター看護師6か月フォローアップ研修	7名
	チューター看護師12か月フォローアップ研修	6名

○看護研究発表

テーマ		所属
院内看護研究発表	急変に遭遇した看護師の心理的状況と心境の変化	5B
	内視鏡的逆行性膵胆管造影検査後に発現するせん妄行動の関連因子について-フルマゼニル使用の有無はせん妄発現のリスク因子となるのか-	6B
	早期栄養介入管理による多職種カンファレンスの有効性-救命救急センターにおける経腸栄養患者への介入-	E1
	内視鏡スタッフ教育のための経験知の言語化-次世代を担う内視鏡看護師の育成-	外来

○院外看護研究発表

テーマ		所属
第78回 国立総合病院医学会	急性期病棟における終末期がん患者に対する支援の考察	6B
	上肢骨折をした独居高齢者が抱く退院後の生活上の困難感	7C
	アクションカードを活用した災害訓練を実施して	外来
	抗EGFR阻害剤による皮膚障害予防のための指導の効果	外来
第20回中国四国地区 国立病院機構国立病院 療養所 看護研究会	当院における糖尿病に対するスティグマの実態調査	外来
第39回日本環境感 染学会 総会・学術集会	5類移行後COVID-19患者の急性期病棟受け入れに向けた取り組み	E2
	A病院での手指衛生アンケート調査の結果と今後の課題	看護部
	下関感染対策チーム3年間の活動報告	看護部
第39回日本がん看 護学会学術集会	A市における免疫チェックポイント阻害薬使用時の電話相談トリアージシート作成への取り組み	看護部
神経・筋疾患政策医 療ネットワーク	褥瘡発生予防策の見直しと取り組みについて	5B

○教育研修

内容		参加人数
教育研修	現代の若者の特徴を踏まえた指導方法	28
	実習指導者講習会伝達研修	18

○看護補助者研修

内容		参加人数
看護補助者研修	感染予防	33名
	守秘義務、個人情報保護	34名
	日常生活援助	34名
	診療に関わる補助業務	30名

○院内認定専門領域看護師育成研修

内容		参加人数
院内認定専門領域 看護師育成研修	褥瘡管理	9名

○スキルアップ研修

内容		参加人数
スキルアップ研修	フィジカルアセスメント	41名



**E1【救命救急センター】**  
看護師長 鷗原 智美

- 1 病床数 12床
- 2 看護方針
  - 1)救命救急としての役割を十分に発揮し、専門知識、技術を提供します。
  - 2)チーム医療を実践し、患者さん・ご家族に対し安心・安全な医療を提供します。
  - 3)救命救急センターとして人材育成に力を注ぎ専門性の高い看護を提供します。



**E2【ICU】**  
看護師長 鷗原 智美

- 1 病床数 4床
- 2 看護方針
  - 1)ICUとしての役割を発揮し、専門知識・技術を提供します。
  - 2)チーム医療を実践し、患者さん・ご家族に対し安心・安全な医療を提供します。
  - 3)専門性の高い分野として人材育成に努め専門性の高い看護を提供します。



**4C病棟**  
看護師長 東 直美

- 1 病床数 54床
- 2 主な診療科:産婦人科・小児科・総合診療科・泌尿器科
- 3 看護方針
  - 1)患者さん・ご家族にとっての最善を、チームで検討し看護実践していきます。
  - 2)受け持ち看護師を主体に、患者さん・ご家族の意向を取り入れた看護を提供していきます。
  - 3)専門的知識と技術のある看護実践を行います。



**5B病棟**  
看護師長 村田 計人

- 1 病床数 52床
- 2 主な診療科:脳神経外科・神経内科・循環器内科
- 3 看護方針
  - 1)循環器内科・脳神経内科・脳神経外科疾患患者さんに対する質の高い急性期医療を提供します。
  - 2)患者さん・ご家族の目線に立ったチーム医療を実践します。
  - 3)事故防止に努め、安心安全な医療を提供します。
  - 4)地域および他の医療機関との連携を強化し、患者さん・ご家族を支援します。



**6B病棟**  
看護師長 田中 雅美

- 1 病床数 54床
- 2 主な診療科:消化器内科・口腔外科
- 3 看護方針
  - 1)がん、消化器をはじめとした急性期内科疾患に対する質の高い医療を提供します。
  - 2)患者さん、ご家族、多職種間で共に考え、健康の回復を目指す医療を展開していきます。
  - 3)患者さんや、ご家族の意思決定場面に立ち会い、意思決定支援のサポートを行っています。
  - 4)退院支援カンファレンスにて、退院調整が必要となる患者さんへの早期介入や転院調整、緩和ケアラウンドなど、多職種カンファレンスを定期的で開催し、チーム医療を提供しています。



**6C病棟**  
看護師長 曾根 真弓

- 1 病床数 53床
- 2 主な診療科:消化器外科・乳腺外科
- 3 看護方針
  - 1)消化器外科、乳腺外科、心臓血管外科、がん患者さんへ質の高い医療を提供します。
  - 2)意思決定支援を行い、患者様とご家族の希望に沿った 医療・看護を提供します。
  - 3)患者さんが安心して治療を受けられる環境を提供します。
  - 4)手術の前後から退院後の生活について、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士がチームとなって支えます。



**7B病棟**  
看護師長 橋本 史香

- 1 病床数 54床
- 2 主な診療科:整形外科・小児科・耳鼻咽喉科・皮膚科
- 3 看護方針
  - 1)質の高い急性期医療を提供します。
  - 2)インフォームドコンセントに基づき、信頼される医療を展開していきます。
  - 3)リハビリやMSW等の他部門と協力し早期離床に努めることでQOLの向上を目指します。



**7C病棟**  
看護師長 川村 智子

- 1 病床数 45床
- 2 主な診療科:地域支援病棟
- 3 看護方針
  - 1)医師・看護師・リハビリスタッフ・ソーシャルワーカー等と連携し患者さんの治療や支援を行っています。
  - 2)地域や関連する施設との連携を大切にし、病院から在宅への「架け橋」の役割を果たします。
  - 3)患者が安全・安心できる療養生活を送ることができるよう看護提供します。



**手術・中央材料室**  
看護師長 西田 茂雄

- 1 手術室数 6室
- 2 看護の方針
  - 1)受け持ち看護師として手術を受ける患者さんの入室から退室まで責任をもって対応に努めます。
  - 2)専門的知識・技術をもとに、安全でより質の高い医療・看護を提供します。

表1 診療科別手術件数

診療科	手術件数
外科	447
心臓血管外科	61
脳神経外科	101
整形外科	1,040
産婦人科	20
泌尿器科	160
眼科	114
耳鼻咽喉科	44
歯科口腔外科	44
その他	1
総手術件数	2,032

表2 麻酔件数

麻酔区分	件数
全麻	1,501
腰硬麻	119
局麻	373
その他	39



**地域連携室**  
看護師長 柳樂 恵子

1 看護方針

- 1) 地域医療連携室では、地域医療機関からの紹介で診察・検査やセカンドオピニオンの予約調整を行います。
- 2) 退院後も安心して在宅治療を継続することができるよう、退院調整や医療相談を行っています。



**ビーンズ訪問看護ステーション**  
看護師長 加藤 かおり



1 看護方針

退院後やご自宅での生活に不安がある方に、看護師が訪問してケアを提供します。

住み慣れた自宅で生活しながら、安心・安全に療養できるよう、ビーンズ訪問看護ステーションは、ご本人・ご家族をママ(豆)な心くぼりで支援していきます。



表1: 訪問看護ステーション運営状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護	145	137	135	175	188	164	161	144	152	125	113	126	1765
医療	65	67	128	89	85	64	109	84	106	127	101	79	1104
計	210	204	263	264	273	228	270	228	258	252	214	205	2869

外来

看護師長 岡田 愛

1 診療科:34 特殊外来:15

救急外来・内視鏡センター・透析センター・化学療法センター・健診センター

2 看護方針

- 1) 患者さんのその人らしさを支えるため、地域や病棟、多職種と連携し専門性の高い看護を実践します。
- 2) 気持ちの良い接遇を心掛け、患者さんと共に働く仲間を大切に、安心して受診できる環境、働きやすい環境を整えます。

3 外来患者状況

表1 1日平均外来患者数

診療科名	患者数
内科	62.2
精神科	17.9
脳神経内科	40.7
呼吸器内科	9.0
消化器内科	41.3
循環器内科	31.6
小児科	17.3
外科	41.0
整形外科	61.0
脳神経外科	7.0
皮膚科	8.1
泌尿器科	71.3
産婦人科	9.6
眼科	11.1
耳鼻咽喉科	15.9
放射線科	15.6
麻酔科	2.3
歯科口腔外科	13.9
心臓血管外科	5.3
形成外科	2.9
リハビリ科	11.0
救急科	23.4
計	519.4

表2 救急来院患者数状況

		救急患者 来院件数	来院方法別		他医療機関転送 (再掲)
			救急車	救急車以外	
総数	入院	2,324	1,418	906	489
	外来	5,098	1,937	3,161	221
診療時間内	入院	642	522	120	185
	外来	1,000	588	412	54
診療時間外	入院	1,682	896	786	304
	外来	4,098	1,349	2,749	167
深夜(再掲)	入院	245	137	108	31
	外来	697	269	428	11



表3 人工透析患者状況(入院・外来含む)

	計	月平均
患者数	519	43.3
延回数	5837	486.4

表4 特殊検査件数

検査内容		計	月平均
内視鏡	胃・十二指腸ファイバー	2,109	175.8
	大腸ファイバー(ポリパク)	787	65.6
	気管支ファイバー	19	1.6
	ERCP	187	15.6
放射線関係	血管造影	183	15.3
	心臓カテーテル	89	7.4
	ミエログラフィー	21	1.8
	ペースメーカー	41	3.4

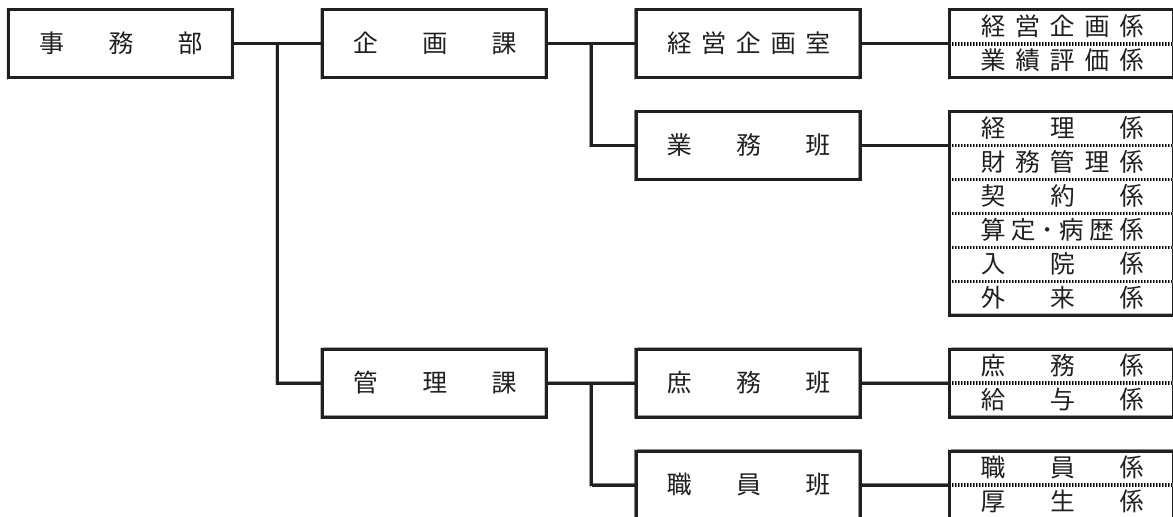
## 事務部(企画課・管理課)

### 1. 事務部職員数(令和6年4月1日現在)

職 群	定 数	現 員
部長	1	1
課長・室長	3	3
班長・専門職	4	3
係長	8	5
一般職員	6	9
計	22	21

※現員は休職者を含む

### 2. 組織



### 3.トピックス

今年度、事務部におけるトピックスについて、報告させていただく。

なお、後述のとおり、今年度診療報酬改定に伴う影響が大きく、当院の経営環境は大きく悪化しており、一層の経営改善に向けた取り組みに事務部が中心となって、舵取りを行っていく必要がある。

#### ①地域医療構想調整会議(令和6年度)

R5年3月の地域医療構想調整会議における第2次中間報告により、令和6年度市民病院とJCHO下関医療センターの2病院の統合へ向けた地域医療連携推進法人、年度内設立の一方で、山口大学と山日出身3病院(市民病院を除く)との第1戒懇談会が12月に開催され、今後の対応に向け、動き始めたところである。

#### ②卒後臨床研修評価機構更新訪問調査への対応

前回初認定を受け4年、更新訪問調査を2月末受審した。準備対応に当たった研修部及び管理課職員にはこの場を借りて感謝を申し上げる。現在、条件付きの6ヶ月認定となっており、R7年7月の再調査に望むこととなっているが、指摘事項の確実な改善とともに、これらの取り組みを通じ、より適切に実施できるよう、さらなる改善が必要であると考えている。

#### ③病院機能評価(3rdG:Ver.3.0)訪問審査に向けて

次回4度目の審査をR7年9月に予定しており、今年度5月のキックオフ会議以降、順次準備にあたっているところである。なお、昨今の動向として、同評価を受け続けるメリットは、経費増や業務負担増のほか、これまで救命救急入院料充実度評価の加点項目であったものから、同入院料の施設基準取り下げとなった現在なくなっており、次々回審査は、事務部としては否定的な見解である。

#### ④診療報酬改定等に伴う経営環境について

救命救急入院料、急性期一般入院基本料1における平均在院日数及び重症度・医療看護必要度の厳格化への対応と併せ、常勤麻酔科医複数退職による手術制限もあって、患者数及び診療単価の減少、さらにR5度末更新設備の電子カルテシステム、放射線治療装置による原価償却費、委託費等の各種経費の大幅増も重なり、大幅な収支悪化となっており、一朝一夕的な改善方策はなく、地道に様々な取り組みを積み重ねていくほかはなく、「患者確保」に舵を切った方針のもと、着実な対応を図りたい。

(中村 一弥)

## 診療情報管理室

### 👤 スタッフ

役職・氏名	
室長	鶴 政俊
室長補佐	福本 典晃
診療情報管理係長	島 且大
診療情報管理士	太田 恭司
	宮添 夏生
	上野 希
	藤本 泰生
事務助手	後藤 智子
	植田 功
	ほか1名

専門・認定資格	
診療情報管理士	5名
医療情報技師	1名
がん登録実務初級者	4名
医療クオリティマネジャー	1名



### 👤 概要

#### ◆診療情報管理業務◆

診療情報の適切な保管・管理を行っています。

また、診療記録に不整合がないかを点検し、診療情報管理システムの構築を行い、精度管理に努めています。

#### ◆疾病統計、分析業務◆

入院患者について国際疾病分類(ICD)による疾病統計を行っています。  
疾病統計の作成、臨床評価指標の作成等に役立てています。

#### ◆DPC管理業務◆

退院前に、診療報酬の請求担当者とは別の視点で診療情報管理の一貫としてのDPCコーディングの適正化を行っています。

#### ◆がん登録業務◆

がん登録等の推進に関する法律、および院内がん登録の実施に係る指針に基づき、がん登録を実施しています。

実績

◆疾病統計◆

大分類	ICD	性別	
01:感染症及び寄生虫症	(A00-B99)	男	79
		女	54
02:新生物	(C00-D48)	男	830
		女	771
03:血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	(D50-D89)	男	31
		女	29
04:内分泌、栄養および代謝疾患	(E00-E90)	男	75
		女	74
05:精神および行動の障害	(F00-F99)	男	8
		女	14
06:神経系の疾患	(G00-G99)	男	149
		女	148
07:眼および付属器の疾患	(H00-H59)	男	52
		女	65
08:耳および乳様突起の疾患	(H60-H95)	男	24
		女	28
09:循環器系の疾患	(I00-I99)	男	299
		女	306
10:呼吸器系の疾患	(J00-J99)	男	266
		女	218
11:消化器系の疾患	(K00-K93)	男	381
		女	293
12:皮膚および皮下組織の疾患	(L00-L99)	男	48
		女	42
13:筋骨格系および結合組織の疾患	(M00-M99)	男	107
		女	173
14:腎尿路生殖器系の疾患	(N00-N99)	男	168
		女	123
15:妊娠、分娩および産じょく<褥>	(O00-O99)	男	0
		女	11
16:周産期に発生した病態	(P00-P96)	男	1
		女	1
17:先天奇形、変形および染色体異常	(Q00-Q99)	男	1
		女	0
18:症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	(R00-R99)	男	2
		女	6
19:損傷、中毒およびその他の外因の影響	(S00-T98)	男	362
		女	573
20:傷病および死亡の外因	(V01-Y98)	男	0
		女	0
21:健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	(Z00-Z99)	男	0
		女	0
22:特殊目的用コード	(U00-U89)	男	60
		女	50
99.分類不明	※NEC	男	0
		女	0
合計		男	2,943
		女	2,979

※NEC:国際疾病分類”not elsewhere classified”の略で、他のいずれの項目にも分類されないもの

◆がん登録統計◆

男	女	計
345	308	653

(島 且大)





 *Section 4*

# 研究実績

原著論文、総説、著書(英文)

No.	タイトル	雑誌名	巻	号	ページ
	著者		年月		
1	Mechanical Evaluation of Stenting for Saccular Abdominal Aortic Aneurysm Using Fluid Structure Interaction Analysis	Annals of Vascular Diseases	18	1	24-00131
	Murakami M, Jiang F, Shahreen Bin Saiful Yew, Chen X.			2025年2月	
2	Multicenter Prospective Cohort Study of Neoadjuvant Chemotherapy for Borderline Resectable Pancreatic Cancer (YPB-001)	Pancreas	53	6	e501-e512
	Matsui H,Ioka T,Takahashi T,Kawaoka T,Maeda Y,Yahara N,Kubo H,Nishimura T,Inokuchi T,Harada E,Shindo Y,Tokumitsu Y,Nakajima M,Takami T,Ito K,Tanaka H,Hamano K,Nagano H			2024年7月	
3	The combination of hydrogen gas and hydrogen-rich solution does not protect against ischemic spinal cord injury in rabbits	J Anesth	38	4	455-463
	Yamashita A,Fukui T,Yamashita S,Ishida K,Matsumoto M			2024年8月	
4	Ultra-high resolution computed tomography with deep-learning-reconstruction: diagnostic ability in the assessment of gastric cancer and the depth of invasion	Abdom Radiol	49	12	4209-4215
	Tanabe M,Tanabe M,Onoda H,Nakashima M,Higashi M,Kawano Y,Hideura K,Ueda T,Kobayashi T,Ito K			2024年12月	
5	Comparative Efficacy of Avelumab Maintenance Therapy Versus Continued Chemotherapy Followed by Pembrolizumab in Metastatic Urothelial Carcinoma With No Progression After 4 Cycles of Chemotherapy: A Retrospective Study Using Propensity Score Matching	Clin Genitourin Cancer	22	6	19-26
	Kobayashi K,Matsumoto H,Sakano S,Yamamoto M,Tsuchida M,Tei Y,Nagao K,Oba K,Kitahara S,Yano S,Yoshihiro S,Yamamoto Y,Ohmi C,Komatsu H,Misumi T,Akao J,Shiraishi K			2024年12月	
6	A nationwide survey on the safety of cricothyrotomy: a multicenter retrospective study in Japan	Esophagus	22	1	19-26
	Booka E,Takeuchi H,Kikuchi H,Miura A,Kanda M,Kawaguchi Y,Hamai Y,Nasu M,Sato S,Inoue M,Okubo K,Ogawa R,Sato H,Yoshino S,Takebayashi K,Kono K,Toh Y,Katori Y			2025年1月	
7	A Case Report of Long-Term Survival Achieved by Nivolumab and Hyperthermia With Multiple Local Therapies for the Peritoneal Dissemination of Gastric Cancer	Cureus J Med Sci	16	9	e69147
	Ohguri T,Tani S,Kawarada Y,Kitahara M			2024年11月	
8	Prognostic risk score and index including the platelet-to-lymphocyte ratio and lactate dehydrogenase in patients with metastatic or unresectable urothelial carcinoma treated with immune checkpoint inhibitors	Jpn J Clin Oncol	55	2	148-157
	Kobayashi K,Sakano S,Matsumoto H,Yamamoto M,Tsuchida M,Tei Y,Nagao K,Oba K,Kitahara S,Yano S,Yoshihiro S,Yamamoto Y,Ohmi C,Komatsu H,Misumi T,Akao J,Shiraishi K			2024年10月	

No.	タイトル	雑誌名	巻	号	ページ
	著者		年月		
9	Standardization of radiation therapy quality control system through mutual quality control based on failure mode and effects analysis	Radiol Phys Technol	18	1	78-85
	Tanimoto Y,Oita M,Koshi K,Ishiwaki K,Hiramatsu F,Sasaki T,Ise H,Miyagawa T,Maeda T,Okahira S,Hamaguchi T,Kawaguchi T,Funada N,Yamamoto S,Hiroshige A,Mukai Y,Yoshida S,Fujita Y,Nakahira A,Honda H			2025年3月	
10	TMPRSS4 as a prognostic biomarker after gastric cancer surgery in a multicenter retrospective study	Scientific Reports	15	1	8385
	Tazawa H, Hato S, Yoshino S, Otsuka S, Takeno A, Toyota K, Moriya H, Nozaki I, Tanakaya K, Uchiyama H, Saito A, Kuraoka K, Kato T, Suzuki T, Tashiro H.			2025年3月	
11	Survival Analysis of 4 Different Age Groups of Pancreatic Ductal Adenocarcinoma After Radical Resection From Retrospective Multi-Center Analysis (YPB-003)	Cancer Medicine	14	4	e706 47
	Hiroto Matsui, Tatsuya Ioka, Toru Kawaoka, Tsuyoshi Takahashi, Toshihiro Inokuchi, Eijiro Harada, Kazuhiko Sakamoto, Ryuichiro Suto, Yoshinari Maeda, Taku Nishimura, Yoshitaro Shindo, Yukio Tokumitsu, Masao Nakajima, Yuta Kimura, Taro Takami, Katsuyoshi Ito, Hidekazu Tanaka, Kimikazu Hamano, Hiroaki Nagano, Yamaguchi Pancreatic/Biliary Disease Study Group (YPB)			2025年2月	

## 原著論文、総説、著書(和文)

No.	タイトル	雑誌名	巻	号	ページ
	著者		年月		
1	臨床のコツ・私の裏ワザ 呼吸リハビリテーションにおける非侵略的モニタリング活用のコツ(解説)	理学療法ジャーナル	58	7	845-847
	石光 雄太		2024年7月		
2	CT心臓・大血管・末梢血管 LCXの慢性完全閉塞病変(図説)	日本放射線技術学会雑誌	80		8
	松下 敦彦		2024年4月		
3	流体構造連成解析を用いた囊状腹部大動脈瘤に対するステント留置術の力学的評価 ステントサイズに関する検討	脈管学	64	5	69-78
	村上 雅憲、蔣 飛、小坂田 聖悟、山下 龍生、陳 猷		2024年8月		
4	【口腔機能低下症・嚥下障害のミカタ 服薬サポートの引き出しを増やしませんか!?!】多職種から学ぶ!服薬支援力を磨くヒント パーキンソン病(解説)	薬局	75	12	1998-2001
	尾崎 誠一		2024年10月		
5	頭蓋内に発生したsolitary fibrous tumorの神経放射線学的所見(図説)	CI研究	46	1	33-38
	山下 勝弘、副島 慶輝		2024年6月		
6	当院での大腿骨近位部骨折患者に対する二次性骨折予防継続管理料の現状と問題点	骨折	47	1	42-46
	栗山 龍太郎、篠原 道雄、坪根 徹、米原 孝則		2025年1月		
7	A病院における糖尿病に対するスティグマの実態調査	第20回中国四国幾国立病院機構・国立療養所看護研究学会プログラム	20		52-55
	西野 佳代、奥富 歩美、木寺 佐知子、前村 友美、東 直美		2024年9月		
8	骨粗鬆症性椎体骨折後の遅発性神経麻痺に対して椎体置換術とshort fusionの期待	整形外科と災害外科	73	4	691-693
	篠原 道雄、久我 茂誠、伊原 公一郎、栗山 龍太郎、坪根 徹、米原 孝則、峯 孝友		2024年9月		
9	手指軟部腫瘍手術におけるマイクロサージャリーの有用性	日本マイクロサージャリー学会会誌	37	3	105-108
	伊原 公一郎、峯 孝友、篠原 道雄、栗山 龍太郎、富永 康弘、米原 孝則、村田 健一郎		2024年9月		
10	導管内進展をともなった表在型食道扁平上皮癌の1例	国立医療学会誌 :Japanese journal of National Medical Services	78	3	184-187
	吉田拓生、柳井秀雄、藤原純子、三浦修、戒能聖治、村上知之、播磨健三		2024年6月		

## 国際学会発表

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
1	R6.6.28	JSHBP2024 HIROSHIMA	Pancreatic resection for octogenarion with pancreatic cancer at our hospital.	外科医師	鈴木 有十夢
2	R6.5.16	the 28th AOFOG 2024,Busan	Acceptance And Changes in Medical staff's Feelings toward HIV-Infected Pregnant Women Giving Birth by Vaginal Delivery since the Guideline Approved (March 2018) Vaginal Delivery for HIV-Infected Pregnant Women in Japan.	産婦人科医長	林 公一
3	R6.11.21	The 32nd COGI 2024,Portugal	Variation in the mode of delivery and psychological change of Co-medicals toward vaginal delivery after the approval of vaginal delivery for HIV-ACQUIRED pregnant women in japan	産婦人科医長	林 公一

## 国内学会発表

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
1	R6.4.6	第64回日本呼吸器学会学術講演会	電氣的インピーダンス・トモグラフィを用いた呼吸リハビリテーションの実践	理学療法士	石光 雄太
2	R6.4.7	第64回日本呼吸器学会学術講演会	在宅ハイフローセラピー導入における患者特性に応じた機器選択と在宅導入支援について	理学療法士	石光 雄太
3	R6.4.19	第68回日本リウマチ学会総会・学術集会	当科におけるサリルマブの使用例の検討	臨床研修医	大角 隆次郎
4	R6.4.19	第124回日本外科学会定期学術集会	Propensity score matching を用いたASA-PS3以上の高齢胃癌患者の術後成績の検討	外科医師	山本 常則
5	R6.4.20	第47回日本脳神経CI学会総会	頭蓋内に発生したsolitary fibrous tumorの神経放射線学的所見	脳神経外科医師	山下 勝弘
6	R6.4.25	第67回 日本手外科学会学術集会	手根管症候群再手術例の検討	整形外科医長	坪根 徹
7	R6.5.23	第53回日本IVR学会総会	標準的治療後の局所進行再発乳癌に対する動注塞栓療法	放射線診断科長	岡田 宗政
8	R6.5.24	第22回日本ヘルニア学会学術集会	膀胱脱出を認めた腹壁癒痕ヘルニアの1例	外科医師	鈴木 有十夢
9	R6.5.29	第52回日本血管外科学会学術総会	関節変形を伴った虚血性足趾潰瘍に対し血行再建後に関節形成術を行った1例	心臓血管外科医長	村上 雅憲
10	R6.6.1	第147回西日本整形外科・災害外科学会への参加	第1腰椎脱臼骨折のために生じた胸髄損傷に対して自己骨髄間葉系幹細胞による再生医療の経験	整形外科医長	篠原 道雄
11	R6.6.8	第121回日本消化器病学会 中国支部例会	後腹膜血腫で発症した正中弓状靭帯症候群の1例	臨床研修医	中野 すず
12	R6.6.8	第160回山口県整形外科医会	膝関節鏡下授動術の適応と有用性について再考する	整形外科医師	土肥 悠暉
13	R6.6.15	第61回日本リハビリテーション医学会学術集会	未治療糖尿病患者に合併した重度壊死性筋膜炎に対して患肢温存し社会復帰した1例	整形外科医師	伊原 公一郎
14	R6.6.22	特定非営利活動法人 日本CT技術学会 第12回学術大会	腎動静脈血管描出を目的とした3D-CT撮影における被ばく低減を考慮した新規造影法の検討	診療放射線技師	上杉 尚行
	R6.6.22	第138回山口県脳神経外科談話会	頭蓋内に発生したSFTの神経放射線学的所見	脳神経外科医師	山下 勝弘
15	R6.6.22	第115回日本神経学中国・四国地方会	小細胞肺癌に対する免疫チェックポイント阻害薬使用中に発症したCV2/CRMP5抗体陽性傍腫瘍性自己免疫性脳炎の74歳男性例	脳神経内科医師	富田 周作
16	R6.6.23	第124回日本循環器学会 中国・四国合同地方会	当院5年間における若年男性・女性の急性冠症候群の発症状況と性差	循環器内科医長	早野 智子
17	R6.6.28	第50回日本骨折治療学会学術集会	当院での大腿骨近位部骨折患者に対する二次性骨折予防継続管理料の現状と問題点	リハビリテーション科医長	栗山 龍太郎

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
18	R6.6.29	第50回 日本骨折治療学会学術集会	第1腰椎脱臼骨折のために生じた胸髄損傷に対して自己骨髄間葉系幹細胞による再生医療の経験	整形外科医長	篠原 道雄
19	R6.6.29	第50回日本骨折治療学会学術集会	踵骨脆弱性骨折の小経験とその原因についての考察	整形外科医長	坪根 徹
20	R6.6.29	第50回日本骨折治療学会学術集会	大腿骨転子部骨折におけるcement augmentationの有用性の検討	整形外科医師	米原 孝則
21	R6.6.29	第50回日本骨折治療学会学術集会	第1腰椎脱臼骨折のために生じた胸髄損傷に対して自己骨髄間葉系幹細胞による再生医療の経験	整形外科医長	篠原 道雄
22	R6.7.11	第32回日本乳癌学会学術総会	HER2低発現の手術不能又は再発乳癌に対するトラスツマブデルクステカンの使用経験	外科医長(乳癌センター長)	長島 由紀子
23	R6.7.13	第29回山口県関節外科研究会	足関節滑液包炎の治療を契機とした化膿性足関節炎	整形外科医師	土肥 悠暉
24	R6.7.14	第132回日本消化器内視鏡学会 中国支部例会	異物誤飲による十二指腸穿通の1例	臨床研修医	平野 玉樹
25	R6.7.17	第79回日本消化器外科学会総会	Borderline resectable大腸癌肝転移に対する治療成績の検討	外科医長	坂本 和彦
26	R6.7.17	第79回日本消化器外科学会総会	早期胃癌術後の長期予後因子の検討	外科医師	山本 常則
27	R6.7.17	第79回日本消化器外科学会総会	当院における切除不能進行食道扁平上皮癌に対するニボルマブ+イピリムマブ療法の治療成績	外科医師	北原 正博
28	R6.7.17	第79回日本消化器外科学会総会	急性虫垂炎に対する手術時期による周術期成績の検討	外科医師	酒井 豊吾
29	R6.7.18	第79回日本消化器外科学会総会	腹部手術歴を有する結腸癌手術における体腔内吻合の有用性	外科医師	佐伯 晋吾
30	R6.7.19	第79回日本消化器外科学会総会	高齢者大腸癌手術症例における他病死リスク因子の検討	外科医師	吉田 晋
31	R6.7.26	第39回日本環境感染学術総会・学術集会	5類以降後のCOVID-19患者の急性期病棟受入に向けた取り組み	感染認定看護師	三村 由佳
32	R6.7.26	第47回日本骨・関節感染症学会	胸腰椎骨折に対する脊椎インストゥルメンテーション部位の術後感染に対し、CLAP療法が有効であった1例	整形外科医長	篠原 道雄
33	R6.7.27	第39回日本環境感染学術総会・学術集会	A病院での手指衛生アンケート調査の結果と今後の課題	感染認定看護師	高山 佳代子
34	R6.9.6	第99回 中国四国外科学会総会	胃全摘Roux-en-Y再建後の上行結腸癌に対して体腔内吻合を施行した1症例	外科医師	鈴木 有十夢
35	R6.9.7	第20回中国四国地区国立病院機構・国立療養所 看護研究会	A病院における糖尿病に対するスティグマの実態調査	看護師	西野 佳代

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
36	R6.9.7	第10回日本呼吸理学療法学会学術大会	Asymmetric HFNCを用いた慢性閉塞性肺疾患の呼吸管理・呼吸理学療法	理学療法士	石光 雄太
37	R6.9.8	第37回中国ブロック理学療法士学会	身体機能向上目的に短期リハビリテーション入院した再生医療後の脊髄損傷者の一症例	理学療法士	前中 海
38	R6.9.8	第62回中国四国地区国立病院薬学研究会	休業期間の設けられている特に安全管理が必要な医薬品の効率的な管理に関する取り組み報告	薬剤師	田村 優衣
39	R6.9.10	第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	歩行が自立している筋萎縮性側索硬化患者に対してLVRを行い、呼吸機能に与える影響	理学療法士	山成 孝寛
40	R6.9.20	第33回日本脊椎インストゥルメンテーション学会	化膿性脊椎炎に対してチタンケージを使用した単椎間LLIF+PPSの治療成績	整形外科医長	篠原 道雄
41	R6.9.28	第11回 巖流整形外科フォーラム	当院における脊椎緊急手術の現状と課題	整形外科医師	土肥 悠暉
42	R6.10.4	第4回国立病院機構中国四国放射線技師会総合学術大会	サブトラだけ!? 頭部3D-プロトコルの再構築	放射線技師	東谷 健太
43	R6.10.4	第4回国立病院機構中国四国放射線技師会総合学術大会	胸部CTにおける撮影方向がAECに与える影響について	放射線技師	上杉 尚行
44	R6.10.5	第33回山口県西部医学会	閉鎖的神経圧迫症状が主症状であった閉鎖的ヘルニアの一例	臨床研修医	加藤 卓
45	R6.10.10	第60回日本胆道学会学術集会	肝門部胆管癌に対するプラスチックステント交換時に右冠動脈破綻による胆道出血をきたした1例	臨床研究部長 消化器内科医師	戒能 聖治 原野 恵
46	R6.10.11	第86回日本血液学会学術集会	非ホジキンリンパ腫患者の治療後復職 他施設共同研究	糖尿病・血液内科医師	周山 拓也
47	R6.10.11	第26回日本骨粗鬆症学会	大腿骨近位部骨折患者に対する二次性骨折予防継続管理料の現状と問題点	リハビリテーション科医長	栗山 龍太郎
48	R6.10.17	第78回国立病院総合医学会	関節変形を伴った虚血性足趾潰瘍に対し血行再建後に関節形成術を行った1例	心臓血管外科医長	村上 雅憲
49	R6.10.17	第83回日本脳神経外科学会学術総会	PICA末梢cranial loopに発生した動脈瘤に対するクリッピング術-外側アプローチと後方アプローチの比較-	脳神経外科医師	山下 勝弘
50	R6.10.18	第78回国立病院総合医学会	腎動静脈血管描出を目的とした4D-CT撮影における被ばく低減を考慮した新規造影法の検討	診療放射線技師	上杉 尚行
51	R6.10.18	第78回国立病院総合医学会	抗EGFR阻害剤による皮膚障害予防のための指導の効果 PRO-CTCAE評価を用いて	看護師	山田 優子
52	R6.10.18	第78回国立病院総合医学会	テモダール長期投与事例に対する再発防止に向けて、効率的な休業管理への取り組み	薬剤師	吉藤 直久
53	R6.10.18	第78回国立病院総合医学会	高齢者pStageⅢ大腸癌根治切除症例における術後治療の現状と長期成績の検討	外科医長	吉田 晋

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
54	R6.10.18	第78回国立病院総合医学会	大腸ステントが症状緩和に有用であった腹膜癌の1例	臨床研修医	吉武 理紗
55	R6.10.18	第78回国立病院総合医学会	サブトラだけ!? 頭部4D-プロトコルの再構築	放射線技師	東谷 健太
56	R6.10.18	第78回国立病院総合医学会	上肢骨折をした独居高齢者が抱く退院後の生活上の困難	看護師	佐々木 芳恵
57	R6.10.18	第78回国立病院総合医学会	同時性両葉多発肝転移を伴う大腸癌に対しTwo stage hepatectomyを施行した1例	外科医長	坂本 和彦
58	R6.10.18	第78回国立病院総合医学会	浸透圧分析装置の精度管理方法の見直し	臨床工学技士	長野 真唯
59	R6.10.18	第78回国立病院総合医学会	在宅ハイフローセラピー導入における患者特性に応じた機器選択と在宅導入支援について	理学療法士	石光 雄太
60	R6.10.18	第78回国立病院総合医学会	アクションカードを活用した災害訓練を実施して	看護師	宮川 奈美
61	R6.10.18	第78回国立病院総合医学会	外反母趾を合併した足趾屈曲拘縮に対する装具療法に難渋した1例	理学療法士	河村 貴士
62	R6.10.18	第78回国立病院総合医学会	腎動静脈血管描出を目的とした3D-CT撮影における被ばく低減を考慮した新規造影法の検討	診療放射線技師	上杉 尚行
63	R6.10.18	第78回国立病院総合医学会	間質性肺炎に対する吸入酸素濃度調整機能付呼吸同調機レギュレータを使用した6分間歩行試験は低酸素血症に影響を与えるか	理学療法士	石光 雄太
64	R6.10.19	第78回国立病院総合医学会	急性期病棟における終末期がん患者に対する支援の考察	看護師	毛利 円香
65	R6.10.19	第131回日本内科学会中国地方会	骨髄線維化を伴うIgGκ型リンパ形質細胞性リンパ腫の診断にMYD88 L265P異解析が有用であった1例	臨床研修医 糖尿病・血液内科 医長	木村 究達 松井 久未子
66	R6.10.24	第65回日本脈管学会学術総会	嚢状腹部大動脈瘤に対するステント留置前後の結構力学的変化ステントの種類による検討	心臓血管外科医長	村上 雅憲
67	R6.10.24	第62回日本癌治療学会学術集会	レナリドミド製剤の後発品導入時の安全管理と取り組みについて	薬剤部長	尾崎 誠一
68	R6.10.28	日本糖尿病学会中国四国地方会第61回総会	ほぼ同時期に抗GAF抗体関連脳症を合併した急性発症1型糖尿病の1例	臨床研修医	片岡 広明
69	R6.11.3	第1回日本放射線医療技術学術大会	異なる金属アーチファクト低減アルゴリズムにおける線量依存性の評価	放射線技師	上杉 尚行
70	R6.11.4	第34回日本医療薬学会年会	DPC/PDPS方式による入院診療費の計算方式移行に向けた薬剤部の取り組み	薬剤部長	尾崎 誠一
71	R6.11.7	第49回日本足の外科学会	踵骨脆弱性骨折はなぜ起こる？	整形外科医長	坪根 徹

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
72	R6.11.16	第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	Asymmetric HFNCが自覚症状に与える影響	理学療法士	石光 雄太
73	R6.11.16	第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	COPDに対する吸入酸素濃度調節機能付呼吸同調器レギュレータを使用した6分間歩行試験は低酸素血症に影響するか	理学療法士	石光 雄太
74	R6.11.16	第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	気道クリアランス最適化するための呼吸理学療法と医療機器活用術	理学療法士	石光 雄太
75	R6.11.22	第27回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会	遅発性神経麻痺のため第4腰椎椎体骨折に対しX-Coreを行ったのち、術後2年で生じた第12胸椎椎体骨折に対しX-Coreを追加した経験	臨床研修医	大角 隆次郎
76	R6.11.28	第51回日本マイクロサージャリー学会学術集会	腰背部皮膚軟部組織欠損に対する逆行性広背筋弁・筋皮弁の治療経験	整形外科医長	坪根 徹
77	R6.11.29	第38回日本エイズ学会	HIV感染妊婦において経膈分娩が可能となった後の医療スタッフの経膈分娩に対する心理的不安の程度と現時点での経膈分娩の均霑化に関する検討	産婦人科医長	林 公一
78	R6.11.30	第125回日本循環器学会中国地方会	メマンチン中止後に房室伝導が改善したARDSを合併した完全房室ブロックの一例	臨床研修医	中原 弘淳
79	R6.11.30	第161回山口県整形外科医会	踵骨髄内固定法の紹介	整形外科医長	坪根 徹
80	R6.11.30	第71回日本呼吸器学会中国・四国地方会	看護師・保健師・助産師の睡眠状況と身体状況について	理学療法士	石光 雄太
81	R6.12.5	第37回日本内視鏡外科学会総会	悪性腫瘍による上部消化管閉塞に対する腹腔鏡下胃空腸バイパス術と内視鏡的ステント留置の比較	外科医長	坂本 和彦
82	R6.12.6	第2回日本膝関節学会	関節鏡視下授動術の有用性の検討	臨床研修医	外丸 遼太
83	R6.12.7	日本糖尿病学会中国四国地方会 第62回	教育入院にてチルゼパチドを導入し消化器症状を認めた若年2型糖尿病の症例	薬剤師	瀨砂 恵理香
84	R6.12.14	第246回日本神経学会九州地方会	irAE-筋炎・重症筋無力症・心筋炎に対してFcRn阻害薬を使用した3症例	脳神経内科	池川 眞之
85	R6.12.15	第122回日本消化器病学会中国支部例会 第133回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	難治性の心窩部痛で腹部アンギーナと診断し、血管拡張術を施行した1例	消化器内科医師	千原 大典
86	R6.12.21	第148回西日本整形・災害外科学会学術集会	腫瘍用人工膝関節置換術後再手術例の検討	整形外科医師	伊原 公一郎
87	R6.12.21	第148回西日本整形・災害外科学会学術集会	蜂刺症により頸椎化膿性脊椎炎を来し四肢麻痺を生じたと考えられた症例の経験	臨床研修医	中村 桃子

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
88	R6.12.21	第148回西日本整形・災害外科学会	当院における脊椎緊急手術の現状と課題	整形外科医師	土肥 悠暉
89	R7.1.13	第18回日本性差医学・医療学会学術集会	動脈血栓塞栓症と性差	循環器内科医長	早野 智子
90	R7.2.22	令和6年度 神経・筋疾患政策医療ネットワーク協議会 中国四国ブロック研究発表会	褥瘡発生予防の見直しと取り組みについて	看護師	川守 奈央
91	R7.3.1	第26回西中国外傷治療研究会	Nail:Short?Middle?Long?どれ選ぶ?	リハビリテーション科医長	栗山 龍太郎
92	R7.3.6	第22回日本臨床腫瘍学会学術集会	ペルツズマブ・トラスツズマブ・ボルヒアルロニダーゼ アルファ(フェスゴ®)及び、ドセタキセル併用療法後に重篤な血小板減少症を発症した一例	製剤主任	綾田 翔
93	R7.3.6	第22回日本臨床腫瘍学会学術集会	当院における切除不能・再発胃癌に対するSOX+ニボルマブ療法の臨床的検討	病院長	吉野 茂文
94	R7.3.8	第22回日本臨床腫瘍学会学術集会	後発医薬品のある先発医薬品の選定療養に向けた抗がん薬使用状況調査報告	薬剤部長	尾崎 誠一
95	R7.3.8	第46回山口県放射線治療研究会	IGRTの基礎～叢書【実践IGRT】の紹介	診療放射線技師	宮川 敬
96	R7.3.13	第97回日本胃癌学会総会	ニボルマブ+SOX療法により多彩な免疫関連有害事象を呈した胃癌腹膜播種の1例	外科医師	山本 常則
97	R7.3.13	第97回日本胃癌学会総会	進行・再発胃癌に対するSOX+Nivorumab療法の臨床的検討	病院長	吉野 茂文
98	R7.3.14	第37回日本肘関節学会学術集会	成人の上腕骨顆上骨折に筋皮神経単独損傷を伴った一例	整形外科医長	坪根 徹

独立行政法人国立病院機構関門医療センター  
令和6年度 年報



---

発行年月日	令和7年11月
発行者	独立行政法人国立病院機構関門医療センター
所在地	山口県下関市長府外浦町1-1
発行責任者	吉野 茂文
印刷所	株式会社 アートネクスト

---





r

